

きべりはむし

第38巻 第2号
2016



「きべりはむし」編集委員会

委員長 中峰 空

編集委員 大谷 剛・近藤伸一・杉本 毅・竹田真木生・内藤親彦・三木 進

オオカマキリの飼育時における自己捕食行動

石川 進一朗¹⁾

はじめに

昨年、名古屋市内でカマキリの一斉調査が行われ、調査員として参加しました。もともと僕は昆虫が大好きで、その中でも特にカマキリが好きで、野外で採集しては、時々自宅に持ち帰り飼育をしていましたが、カマキリ調査への参加や、調査報告会で中峰空博士と山崎和久博士のカマキリについての講演を聞き、さらに興味が湧いてきて、カマキリばかり探し歩くようになりました。

昨年は暖冬のせいか、12月にオオカマキリの成虫のメスを見つけたので、珍しいと思い、持ち帰り飼育してみる事にしました。その飼育時に、今までの飼育経験上、見た事がない「自己捕食」を目の当たりにしました。竹田真木生教授に、自己捕食について質問したところ、面白い現象なので記録に残しておくと言っていたので、報告させていただく事にしました。

観察記録

2015年12月9日

愛知県名古屋市千種区不老町名古屋大学博物館野外観察園にて、オオカマキリの茶褐色型のメスを1頭採集しました。自宅に持ち帰り、100均のプラケース（小）に台所の排水口ネットをかぶせ、ケースの下にティッシュを敷き、小枝を2本入れ、飼育を開始しました。餌やりは、飼育開始時から、ペットショップで購入した約30ミリの餌用コオロギ（パワーフトホシコオロギ）を1頭ケース内に入れ、捕食したら随時1頭追加しました。水分も1日2~3回、霧吹きをして与えました。

2015年12月20日

カマキリの様子に変わりなく順調に飼育していましたが、餌用コオロギをきらしてしまった為、26日まで餌を与える事ができませんでした。

2015年12月23日

餌用コオロギを与えられなかった期間のこの日、ケース内を観察した際、前日まであったはずの左前肢の一部（跗節と脛節）が無くなっており、ケース内には脛節の

先端部と思われるものが落ちていました。ケース内にはオオカマキリ1頭だけで、餌用コオロギもおらず、敵に襲われる事もないはずなのに、なぜ突然左前肢の一部が無くなっているのか不思議に思いました。

2015年12月24日

観察時、今度は右前肢の一部（跗節と脛節）が無くなっており、右前肢の腿節部をオオカマキリ自ら捕食している最中で、観察中に腿節の2分の1まで食べ進んだ時点で捕食をやめました。始めは何が起きているか理解できず、体の手入れをしているのかと思いました。この時に、前日の左前肢の一部が無くなっていた理由が自己捕食によるものだと、わかりました。

2015年12月25日

観察時、産卵中でした。15ミリ程の小さな卵鞘を産卵し終え、その後は自己捕食は見られませんでした。そのまま26日も餌用コオロギを購入できず、餌を与えず様子を見る事にしました。

2015年12月27日

餌用コオロギを購入。両前肢を失った状態では自主的な捕食は難しいと思い、餌用コオロギの2頭分の内臓を口元に近づけて与えてみたところ、全て捕食しました。

2015年12月28日

この日も同様に、餌用コオロギの内臓を与えてみましたが、捕食しませんでした。また、自己捕食した形跡



図 跗節と脛節が無くなった左前肢の先を舐める（15秒の動画を2秒毎に切り出し、つなげたもの。撮影日2015年12月23日。）

¹⁾ Shinichiro ISHIKAWA 名古屋市立中学校2年生

も見られませんでした。

2015年12月29日

観察時、右前肢（腿節）の残りの一部を自己捕食していましたが、先端部をかじっただけで終わりました。自己捕食を始めた後から、両前肢の捕食された部分の先端部が黒く変色し、日に日に胸部の方に向かって広がってきていました。それを見て、このままでは変色部分が胸部に達し、死に至るのではないかと心配になりました。以前、我が家で飼育中のフトアゴヒゲトカゲの目の周囲にできた出来物を母と共に切開し、市販の外用薬オロナインH軟膏を塗布を試みたところ、その後出来物の進行が止まり改善された経験から、カマキリにも有効ではないかと考え、黒く変色した部分のみハサミで切断し、オロナインH軟膏を塗布してみました。その処置後は自己捕食はみられませんでした。また、オロナインH軟膏を塗布した後は、黒く変色することがなくなりました。

2015年12月30日, 31日

両日共に自己捕食をした形跡は見られませんでした。餌用コオロギの内臓を口元に近付けて与えたら捕食しました。

2016年1月1日

餌用コオロギの内臓を与えてみましたが、捕食しませんでした。その後も餌用コオロギの内臓を与えてみましたが捕食をしないまま1月5日に死亡しました。

考察

自らの肢を食べてしまう行動「自己捕食」を初めて見た時は、餌用コオロギが不足し、餌を与えられず水分を与えるのみで飼育をしていた為、ただ単純に空腹を満たす為に、自分の大切な両前肢を捕食してしまったのかと思い、カマキリがそのような行動をする事があるのかと驚きました。その後、自己捕食を確認した日から3日後に産卵をした事もあり、昆虫は自分の命を守るよりも、子孫を絶やさないう繁殖する事を目的として生きているのだと思っていたので、産卵に必要な栄養を摂取する為、餌がない状況で止むを得ず、自分自身を犠牲にして自らの繁殖の使命を果たそうとした事による行動なのかとも考えました。

このような自己捕食の前例はあるのか、自己捕食する明確な原因や理由があるのか、カマキリの生態から考えて、自分が推測したような生存や繁殖目的で自己捕食をするという可能性が考えられるのかなど、様々な事を知りたいと思いました。

その疑問に対して、東京大学の山崎和久博士からご回答していただく事ができました。

自己捕食の前例があるか否かに関しては、数え切れない程の外国産・国産カマキリを飼育をされた中で、「複数の自己捕食例が見られ、国産ではハラビロカマキリとヒメカマキリで確認されており、自己捕食したカマキリのその殆どが野外採集個体で、完全飼育個体では僅か1例のみ」という事です。

自己捕食する原因・理由に関しては不明で、野外採集個体で自己捕食例が多く見られる事から、「飼育者の手元に届くまでの間の運搬の過程や、費やす時間など、過度なストレスによるものか、または、何かしら病気のようなものではないか」との事でした。

生存や繁殖目的による行動ではないかという自分の推測に関しては、「カマキリは本来絶食に強く、特に性成熟した体内に卵を蓄えたメス成虫は大変飢えに強く、1週間以上の絶食でも問題はないと思われる。また、食べた物を数日かけてゆっくり消化する。よって、前日に食べた物が栄養として重要な役割を果たすとは考え難く、前肢を食べなくても産卵はできたはずである。さらに、体内に卵を蓄えたメスが餓死する前にとる行動としては、栄養補給をするより先に産卵する方が利点が多いのではないか。他には、ただ単に生きる目的で空腹を満たす為に自己捕食をするのであれば、狩に必要な前肢を食べたのでは餌が取れず、それこそ死に至る事になり、自分で自分の首を絞める事になると考えられ、以上の事から生存や繁殖目的で自己捕食をしているとは考え難い」との事でした。

そして、これまでの事例では、自己捕食をしたカマキリは自己捕食開始後に2週間以内に死亡する事が指摘されています。

今回のオオカマキリのメスは、自己捕食を始めた2015年12月23日から2016年1月5日まで、丁度2週間で死亡した事から、上記の指摘との矛盾はありません。

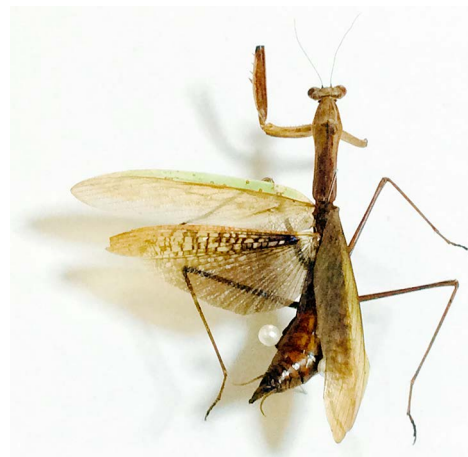


写真 今回観察したオオカマキリのメス。

しかし、採集日が2015年12月9日である事と、一連の観察期間が12月から1月である事から考えると、単なる寿命で死亡した可能性も否定できません。

また、両前肢の捕食部分が黒く変色し、胸部の方に向かって広がりつつあり、死亡してしまうのではないかという不安から、黒い変色部分のみハサミで切り取り、市販薬のオロナインH軟膏を塗布してしまいその後変色の進行は止まり、改善されたように感じましたが、その塗布後は自己捕食をしなくなり、餌も2回食べたのみで8日後に死亡している事から自己捕食におけるこれまでの経過に影響をしているのか否かわかりませんでした。

改めて別の個体でオロナインH軟膏の影響を試してみたいと思いましたが、この時期だけに個体の確保が難しく今回はこのまま終わる事にしました。

以上から、自己捕食に関しては前例がある事、明確な原因・理由は不明であるが、ストレスや病気からではないかという事、自己捕食開始日からの2週間生存率が0%であると指摘されている事、自己捕食をする理由が生存・繁殖目的からではないかという自分の推測が、カマキリの生態から考えると見当違いであるという事がわかりました。

オロナインH軟膏の塗布による影響については、また機会があれば、今後の課題の1つにしてみたいと思います。

謝辞

いつも昆虫の様々な質問に答えていただき、報文を書いてみたらどうかとすすめていただきました神戸大学農学研究科の竹田真木生教授、この報文を書く事になり、パソコンが使えず投稿手段に困っている自分に親切にご指導をしていただき、今回のオオカマキリの自己捕食についての質問を解決できるようカマキリに大変詳しい山崎和久博士をご紹介して下さった中峰空博士、見知らぬ昆虫少年の質問にお忙しい身でありながら、全ての質問に事細かにご回答していただき、報文のアドバイスまでしていただきました山崎和久博士、皆様に本当に感謝致します。ありがとうございました。

兵庫県におけるサツマゴキブリの記録と堅果食

大塩 拓美¹⁾

サツマゴキブリ *Opisthoplatia orientalis* (Burmeister) は最大で 35mm 程度になる中型のゴキブリである。国内では九州・四国・沖縄・八重山に分布するとされているが(朝比奈, 1991), 和歌山・静岡・千葉では移入種として記録されている(国立研究開発法人 国立環境研究所, 2016)。本種の野外での食性に関する報告はほとんど無い。筆者はこれまで報告の無かった兵庫県内での本種の生息を確認し, 本種の堅果食とそれと関連する興味深い事例を報告する。

兵庫県下での記録

兵庫県神戸市の六甲アイランドに本種が生息しているという情報をもとに, 2013年6月7日に数時間で多くの個体を発見することができた。その後, 2014年と2015年にも, それぞれ春から秋にかけての数回, 六甲アイランドで幼虫を含む多くの個体を確認した。本種が移入したとすると, 既に定着している可能性が高い。本種は夜行性で昼間は石垣や樹木の間隙に潜み, 日が落ちると落ち葉や鳥の糞などを摂食している行動が観察された。

六甲アイランド内では, ごく一部の石垣の間隙とその周辺のみで見つかっており, 近くに植栽されているソテツやヤシなどの樹木について侵入した可能性がある。



図1 アラカシ堅果の割れ目に頭部を入れたサツマゴキブリ♀。兵庫県神戸市六甲アイランド 16. V. 2015

堅果食

2015年5月16日の雨上がりの昼間, 筆者が公園内を歩いていると, 乾燥して割れたアラカシの堅果の果皮の間隙から内部を食べている本種♀を発見した(図1)。六甲アイランドは人工島であるが, 島内の公園にはアラカシなどの樹木が植栽されており, 園道脇にはブナ科植物の堅果が多く落ちている。

観察していると, 果皮の割れ目に頭部と胸部の間が挟まり抜けなくなっていることがわかった(図2)。おそらく, 割れた果皮の間隙に頭部を入れ内部を摂食していた時に雨が降り, 果皮が水分を含んで膨らんだために隙間が閉じ, 頭部を引き抜くことができなかったのだろう。本個体をそのまま持ち帰り, 直径10cm, 高さ5cmのプラスチックカップに5cm四方に切った鉢底網と水で湿らせたティッシュペーパーを入れて多湿な状態で飼育したところ, 4日間生存したが, 5日目に自ら頭部を引きちぎって死亡していた。遺体をすぐに乾燥し標本作製した(図3)。

堅果を乾燥させると, 予想通り果皮の割れ目が開き, 取り残された頭部を取り出すことができた。また堅果内



図2 堅果から頭部が抜けられないサツマゴキブリ。

¹⁾ Takumi OOSHIO 神戸大学大学院 昆虫多様性生態学研究室



図3 頭部の千切れたサツマゴキブリの乾燥標本.



図4 サツマゴキブリが摂食したアラカシ堅果内部.

部を観察すると、内部の大半を占める子葉の多くが食べられていることがわかった(図4)。堅果内の子葉は栄養に富み、多くの動物が利用することが知られており(橋本ら, 1997; 浅利ら, 2008), 野外に住むゴキブリにとっても、割れた堅果は重要な栄養源であると考えられる。

末筆ながら本稿を校正していただいた杉浦真治准教授(神戸大学)にお礼申し上げます。

参考文献

- 朝比奈正二郎, 1991. 日本産ゴキブリ類, 中山書店
- 浅利裕伸・山口裕司・柳川久, 2008. 野外観察によって確認されたエゾモモンガの採食物. 森林野生動物研究会誌 33 7-11.
- 橋本幸彦・高槻成紀, 1997. ツキノワグマの食性: 総説. 哺乳類科学 37(1):1-19.
- 国立研究開発法人 国立環境研究所, 2016. 侵入生物データベース. <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60490.html> (2016年2月18日閲覧)

セミの初鳴き, 鳴きおさめの日 — みんなで調べよう 2015 —

近藤 伸一¹⁾

はじめに

セミの鳴き始めや鳴きおさめの時期を地域ごとに記録した。今回(2015年)で3年目となる。こどもとむしの会, 兵庫昆虫同好会, 兵庫県森林インストラクター会, 昆虫愛好家の皆様方から12種のセミについて初鳴き, 鳴きおさめ, 鳴き声の確認情報など約450件の情報をいただいた。

地域的には, 兵庫県(淡路島を除く), 大阪, 京都, 奈良, 岡山, 鳥取, 愛知, 千葉, 東京, 茨木, 福島, 宮城, 山形と13都府県である。

4月25日のハルゼミではじまり10月17日のツクツクボウシで終了した。2016年も実施する予定なので, 日, 場所, セミの種類を, こどもとむしの会の会員メール(または個人メール(s-kondo60@kzh.biglobe.ne.jp))にてお知らせいただければ幸いである。

調査に際し, 大変な世話をいただいた八木剛氏, 永井英司氏, 多くの情報をお寄せいただいた下記の方々に

お礼申し上げます。

浅田卓・赤塚雅人・秋山重信・足立隆昭・新井雅夫・石川恒夫・維田浩之・稲葉一明・岩崎敏明・植田義輔・大塚剛二・岡本俊治・岡嶋幹雄・奥西良英・小倉今日子・尾崎真也・尾畑俊彦・押川匠・片岡義方・河井周・河井典子・河村幸子・河内尚子・笠井裕代・金子留美子・刈田悟史・川瀬真次・木下賢司・久保弘幸・駒井昌弘・近藤太郎・齋藤泰彦・佐藤邦夫・清水哲哉・堀之内一棋・堀之内美歩・菅村定昌・高橋信・高橋耕二・高田要・竹内隆・竹田真木生・立岩幸雄・田中利奈・谷角素彦・寺田直人・永井英司・中川貴美子・中川勝弘・永幡嘉之・内藤親彦・中峰空・西本裕・野口明美・野村智範・野本康太・八田康弘・藤本出・藤木恭子・正木詔一・三橋陽子・宮武頼夫・室園康生・茂見節子・森口紀・八木剛・山崎悠高・山段真彦・山段弥寿子・山本勝也・横山正・吉岡朋子・吉田浩史(敬称略)

種名	年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ハルゼミ	2015							
	2014							
	2013							
エソハルゼミ	2015							
	2014							
	2013							
ヒメハルゼミ	2015							
	2014							
	2013							
ニイニイゼミ	2015							
	2014							
	2013							
ヒグラシ	2015							
	2014							
	2013							
クマゼミ	2015							
	2014							
	2013							
アブラゼミ	2015							
	2014							
	2013							
エソゼミ	2015							
	2014							
	2013							
コエソゼミ	2015							
	2014							
	2013							
アカエソゼミ	2015							
	2014							
	2013							
ミンミンゼミ	2015							
	2014							
	2013							
ツクツクボウシ	2015							
	2014							
	2013							
チッチゼミ	2015							
	2014							
	2013							

図1 兵庫県及びその周辺地域(近畿・岡山・鳥取)におけるセミの鳴き声の確認日(2015~2013の比較)。

¹⁾ Shinichi KONDO 兵庫県朝来市

1. 2015 年の記録

- ①兵庫県内に分布する 13 種 (ニイニイゼミ, エゾゼミ, コエゾゼミ, アカエゾゼミ, クマゼミ, アブラゼミ, ハルゼミ, エゾハルゼミ, ヒメハルゼミ, ヒグラシ, ミンミンゼミ, ツクツクボウシ, チッチゼミ) のうち, コエゾゼミを除く 12 種の鳴き声が記録された.
- ②一番早かったのはハルゼミの 4 月 25 日 (大阪府), 兵庫県内では 4 月 29 日 (播磨). 最後はツクツクボウシの 10 月 17 日 (西播磨) であった.
- ③県内で鳴き始める種の順番はハルゼミ→エゾハルゼミ→ニイニイゼミ→ヒグラシ→クマゼミ→アブラゼミ→ミンミンゼミ→ツクツクボウシ→エゾゼミ→チッチゼミ (観察例の少ない種は除外).
- ④県内で鳴き終わる種の順番はハルゼミ→エゾハルゼミ→ヒグラシ→エゾゼミ→ニイニイゼミ→クマゼミ→アブラゼミ→チッチゼミ→ミンミンゼミ→ツクツクボウシ (観察例の少ない種は除外).
- (図 1 2015 ~ 2013 年の鳴き声の期間).

2. 地域別の初確認記録と最終記録

兵庫県の地域名称については, 阪神 (川西市~神戸市), 播磨 (明石市~姫路市), 西播磨 (たつの市以西), 但馬 (朝来市以北), 丹波 (丹波市, 篠山市) とした. また県外の記録で, 兵庫県より早い県外初確認及び遅い最終記録は斜体文字で府県名のみ記した.

① ハルゼミ

- ・鳴き声初確認 4/25 大阪府, 4/26 京都府, 4/29 播磨, 4/30 阪神・但馬, 5/2 西播磨
- ・確認最終日 6/17 阪神・但馬, 7/2 鳥取県

② ヒメハルゼミ

- ・初確認 7/2 鳥取県, 7/11 京都府, 7/21 播磨

③ エゾハルゼミ

- ・初確認 6/12 但馬
- ・最終日 7/30 但馬

④ ニイニイゼミ

- ・初確認 6/15 福島県, 6/19 阪神, 6/23 但馬・播磨, 6/26 西播磨, 6/29 丹波
- ・最終日 9/15 播磨

⑤ ヒグラシ

- ・初確認 6/23 但馬, 6/24 阪神, 7/5 播磨, 7/9 西播磨, 7/13 丹波
- ・最終日 8/21 但馬

⑥ クマゼミ

- ・初確認 6/23 大阪府, 6/28 阪神, 7/9 播磨, 7/14 西播磨・但馬, 7/26 丹波
- ・最終日 9/12 阪神・播磨

⑦ アブラゼミ

- ・初確認 6/27 阪神, 7/7 西播磨, 7/8 丹波, 7/9 播磨・但馬
- ・最終日 9/21 播磨

⑧ エゾゼミ

- 初確認 7/9 山形県, 7/19 京都府, 7/24 但馬・阪神
- 最終日 9/22 但馬

⑨ アカエゾゼミ

- ・初確認 8/28 香美町

⑩ ミンミンゼミ

- ・初確認 7/7 宮城県, 7/8 山形県, 7/14 但馬, 7/16 西播磨, 7/25 丹波, 7/26 播磨, 7/27 阪神
- ・最終日 10/3 西播磨

⑪ ツクツクボウシ

- ・初確認 7/16 阪神, 7/18 西播磨, 7/25 但馬, 7/26 播磨, 7/30 丹波
- ・最終日 10/17 西播磨

⑫ チッチゼミ

- ・初確認 8/2 宮城県, 8/15 丹波, 8/27 播磨, 9/13 丹波, 9/15 阪神, 9/28 西播磨
- ・最終日 9/28 西播磨, 10/6 宮城県

3. 同一地点における初鳴き, 2015 年と 2014 年の比較

(県外記録は斜体文字とした)

① ニイニイゼミ

- 神戸市灘区 6/19 11 日早い
- 三木市三木山 6/23 3 日遅い
- 明石市大久保町 6/25 9 日早い
- 篠山市東佐古 6/29 8 日早い
- 大阪府吹田市藤白台 7/2 15 日早い
- 大阪府茨木市大手町 7/8 4 日遅い
- たつの市御津町 7/8 6 日早い
- 神戸市北区 7/11 2 日早い
- 朝来市立脇 7/13 3 日早い

② ヒグラシ

- 豊岡市但東町西谷 7/1 8 日早い
- 豊岡市但東町相田 7/3 4 日早い

朝来市立脇 7/8 3日早い
佐用町櫛田 7/9 18日遅い
神戸市北区 7/11 2日早い
篠山市東佐古 7/13 9日遅い
三木市三木山 7/14 1日遅い

③ クマゼミ

大阪市此花区 6/23 5日遅い
神戸市兵庫区 6/28 13日遅い
大阪府摂津市 7/3 8日早い
大阪府吹田市 7/9 3日早い
神戸市西区 7/9 5日早い
神戸市垂水区 7/9 5日早い
大阪府茨木市 7/10 4日早い
神戸市灘区 7/11 同じ
三木市三木山 7/13 8日早い
たつの市御津町 7/14 2日早い
朝来市立脇 7/23 8日早い
篠山市東佐古 7/26 5日遅い

④ アブラゼミ

たつの市御津町 7/7 11日早い
神戸市北区 7/9 9日早い
三木市三木山 7/12 2日遅い
朝来市立脇 7/19 4日早い
大阪府吹田市 7/24 7日遅い

⑤ ミンミンゼミ

大阪府吹田市 7/24 4日早い
篠山市東佐古 7/25 24日早い
朝来市立脇 7/27 2日早い
三木市三木山 7/28 同じ

⑥ ツクツクボウシ

朝来市立脇 7/27 4日早い
姫路市青山 7/29 13日早い
神戸市北区 8/2 9日早い
篠山市東佐古 8/3 7日遅い
三木市三木山 8/3 2日遅い
東京都杉並区 8/10 11日早い

⑦ チッチゼミ

篠山市東佐古 8/20 1日早い

4. 鳴きおさめ 2015年と2014年の比較

① ニイニイゼミ

三木市三木山 9/4 7日遅い

② ヒグラシ

三木市三木山 8/20 5日遅い
朝来市立脇 8/21 10日早い

③ クマゼミ

朝来市立脇 8/26 2日早い
奈良県橿原市 8/28 6日早い
三木市三木山 8/30 2日遅い
神戸市西区 9/12 2日遅い

④ アブラゼミ

朝来市立脇 8/27 1日早い

⑤ ミンミンゼミ

篠山市東佐古 9/21 4日早い
三木市三木山 9/23 2日早い
朝来市立脇 9/25 3日早い

⑥ ツクツクボウシ

三木市三木山 10/2 2日遅い
朝来市立脇 10/14 4日遅い

⑦ チッチゼミ

篠山市東佐古 9/13 12日遅い

表1 種類別セミの鳴き声情報 (◎初鳴き, ●鳴きおさめ).

1. ハルゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観察者	備考
4	25	大阪府	枚方市		市穂谷(枚方市野外活動センター〜国見山)(2)	秋山重信・植田義輔	
	26	京都府	福知山市		三段池公園 10:30	山段真彦	
	29	兵庫県	加古川市		広尾榎谷	竹内隆	
	30	兵庫県	姫路市		青山(青山ゴルフ場の松林)	内藤親彦	
	30	兵庫県	三田市		有馬富士公園	中峰空	
	30	兵庫県	豊岡市		祥雲寺コウノトリの郷公園	三橋陽子	
5	1	兵庫県	宝塚市		大原野字谷上 2日も鳴く	西本 裕	
	2	兵庫県	宍粟市		山崎町最上山公園	竹内隆	
	2	兵庫県	宍粟市		山崎町最上山公園	立岩幸雄	
	5	兵庫県	小野市		鴨池公園鴨池を周回して(10±)	佐藤邦夫	
	5	岡山県	美作市	◎	原 初鳴き	藤本 出	
	6	兵庫県	加西市		南網引町 15:00	室園康生	
	7	兵庫県	宝塚市		切畑のアカマツ林 10:00	西本 裕	
	7	兵庫県	宍粟市		山崎町土万	岩崎敏明	
	8	兵庫県	養父市		建屋薬師堂公園 モミ主体の社寺林	近藤伸一	
	8	兵庫県	養父市		唐川 アカマツ林	近藤伸一	
	8	兵庫県	養父市		井之坪 アカマツ林	近藤伸一	
	8	兵庫県	朝来市		上八代 アカマツ林	近藤伸一	
	9	兵庫県	たつの市		新宮町上筋原	近藤伸一	
	10	兵庫県	神戸市		神戸市北区山田町無動寺西参道	中川貴美子	
	10	兵庫県	神戸市		中央区再度公園複数	八木 剛	
	11	兵庫県	神戸市		北区道場町生野(1)	八木 剛	
	11	兵庫県	神戸市		北区山田町神戸森林公園 12:00	中川貴美子	
	14	兵庫県	神戸市		北区山田町無動寺西参道 11:00	中川貴美子	
	15	鳥取県	岩美町		岩美町駈馳山(5+)	永幡嘉之	
	15	兵庫県	美方郡		香美町佐坊(5+)	永幡嘉之	
	15	兵庫県	美方郡		香美町備(5-)	永幡嘉之	
	15	兵庫県	美方郡		香美町大谷(小長迎への途中)(10-)	永幡嘉之	
	15	兵庫県	美方郡		新温泉町久斗山西ノ谷(5-)	永幡嘉之	
	15	兵庫県	神戸市		北区菊水山東側山腹	奥西良英	
	17	兵庫県	三田市		有馬富士公園	石川恒夫	
	17	兵庫県	佐用郡		佐用町小日山	近藤伸一	
	17	兵庫県	美方郡		新温泉町池ヶ平(10+)	永幡嘉之	
	17	兵庫県	美方郡		新温泉町久斗山本谷(10+)	永幡嘉之	
	19	兵庫県	豊岡市		但東町小坂	近藤伸一	
	19	兵庫県	豊岡市		但東町薬王寺	近藤伸一	
	19	兵庫県	豊岡市		出石町奥山	近藤伸一	
	19	兵庫県	朝来市		山東町野間	近藤伸一	
	19	京都府	福知山市		夜久野町才谷 広い範囲で	近藤伸一	
	20	兵庫県	西宮市		甲山 20日以前から鳴いていた	野口明美	
	22	兵庫県	神戸市		兵庫区鶴越駅付近	野口明美	
	22	兵庫県	神戸市		灘区神戸大学キャンパス	竹田真木生	
	22	大阪府	箕面市		箕面公園才が原林道	高橋耕二	
	23	兵庫県	豊岡市		日高町神鍋山	菅村定昌	
	23	兵庫県	加西市		南網引町(網引湿原) 15:30	高田 要	
	24	兵庫県	豊岡市		但東町相田	永井英司	
	24	兵庫県	豊岡市		但東町西谷	藤木恭子	
24	兵庫県	篠山市		東古佐 昼過ぎ当地で初記録	河井典子		
24	兵庫県	丹波市		柏原町柏原丹波の森公苑テーター松林	足立隆昭		
25	兵庫県	養父市		大屋町おおや高原	稲葉一明		
25	兵庫県	宝塚市		切畑長尾山北雲雀さずきの森	野本康太		
26	兵庫県	養父市		大屋町杉が沢高原	維田浩之		
27	兵庫県	美方郡		香美町村岡区兔和野高原 H=550 アカマツ林	佐藤邦夫		
27	兵庫県	美方郡		香美町村岡区和池 H=650	近藤伸一		
28	兵庫県	豊岡市		日高町田の口	近藤伸一		
28	兵庫県	豊岡市		日高町東河内	近藤伸一		
28	兵庫県	豊岡市		日高町名色	近藤伸一		
28	兵庫県	美方郡		香美町村岡区宿(兔和野高原野外教育センター)	尾畑俊彦		
29	兵庫県	朝来市		床尾山山頂付近	岩崎敏明		

表1 続き (○初鳴き, ●鳴きおさめ).

5	29	愛知県	名古屋市		守山区	正木詔一	
	30	京都府	南丹市		美山町芦生演習林	駒井昌弘	
	30	兵庫県	養父市		大屋町大屋	近藤伸一	
	30	兵庫県	養父市		大屋町大杉	近藤伸一	
	31	兵庫県	宝塚市		切畑長尾山北雲雀さずきの森	石川恒夫	
6	7	兵庫県	美方郡		鉢伏山	正木詔一	
	10	大阪府	茨木市		北部の竜王山 (H=510 m)	谷角素彦	
	10	兵庫県	豊岡市		但東町相田	永井英司	
	12	兵庫県	養父市		関宮国道 9 号線北面の山 H=220 m	近藤伸一	
	12	兵庫県	養父市		丹土 H=820 m	近藤伸一	
	12	兵庫県	養父市		鉢高原 H=880 m 17 日は未確認	近藤伸一	
	12	兵庫県	養父市		別宮 H=700 m	近藤伸一	
	17	兵庫県	養父市		別宮 H=700 m	近藤伸一	
7	2	鳥取県	鳥取市		灘区六甲山 (1)	吉田浩史	
					佐治町余戸 (1) H=700m	永幡嘉之	

2. ヒメハルゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観測者	備考
7	2	鳥取県	鳥取市		佐治町, 羽化殻 3	永幡嘉之	
	4	鳥取県	鳥取市		佐治町 2 頭羽化, 鳴き声はまだ	永幡嘉之	
	11	京都府	福知山市		大江町内宮皇大神社	永井英司	
	19	京都府	福知山市		談 (新生息地確認) 抜け殻は未採集	山段眞彦	
	20	京都府	福知山市		談	山段眞彦	
21	兵庫県	佐用郡		佐用町櫛田八幡神社多数鳴く	野村智範		

3. エゾハルゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観測者	備考
6	12	兵庫県	養父市		鉢高原 H=860 ~ 880 m 広い範囲で	近藤伸一	
	21	兵庫県	美方郡		香美町村岡区ハチ北大沼	山崎悠高	
7	2	兵庫県	美方郡		香美町小代区新屋	近藤伸一	
	7	宮城県	仙台市		青葉区作並の熊沢林道	清水哲哉	
	8	兵庫県	美方郡		香美町村岡区銚子ヶ谷カキツバタ群落	山崎悠高	
	12	兵庫県	美方郡		香美町村岡区大笹 H=1100m	近藤伸一	
	12	兵庫県	養父市		鉢高原 H=860 ~ 1100 m 広範囲. 7 月 24 日は鳴かず	近藤伸一	
30	兵庫県	美方郡		新温泉町上山高原 H=900m	近藤伸一		

4. ニイニイゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観測者	備考
6	15	福島県	東白川郡		棚倉町のルネサンス棚倉 (1) 16 日も鳴く	八木 剛	
	19	兵庫県	神戸市	○	灘区神戸大学初鳴き	竹田真木生	2014 年より 11 日早い
	20	宮城県	名取市		熊野那智神社付近および樽水ダム (複数)	清水哲哉	
	21	奈良県	橿原市		南山町 14 時 (2)	宮武頼夫	
	21	京都府	福知山市	○	猪崎三段池公園 初鳴き	山段眞彦	
	21	兵庫県	伊丹市		緑ヶ丘	野本康太	
	22	兵庫県	神戸市		北区道場町 (3)	吉田浩史	
	22	山形県	山形市		蔵王半郷周辺各地 (個体数多く, 数日前から鳴いていたはず)	永幡嘉之	
	23	兵庫県	養父市	○	養父市場道の駅やぶ 初鳴き	山崎悠高	
	23	兵庫県	神戸市		西区井吹台東町 (2 ~ 3) 24 日も	吉岡朋子	
	23	兵庫県	三木市	○	三木山森林公園 初鳴き	川瀬真次	2014 年より 3 日遅い
	23	兵庫県	姫路市		青山	内藤親彦	
	24	兵庫県	加西市		笹倉町 18:00	高田 要	
	24	宮城県	柴田郡	○	村田町 初鳴き	清水哲哉	
	25	兵庫県	明石市	○	大久保町 初鳴き	久保弘幸	2014 年より 9 日早い
	25	兵庫県	神戸市		須磨区須磨寺町, 須磨寺	山本勝也	
	26	兵庫県	赤穂市		大津赤穂特別支援学校校内	横山 正	
	27	大阪府	池田市		五月山	中川勝弘	
	28	兵庫県	赤穂郡	○	上郡町苔縄 初鳴き	横山 正	
	28	兵庫県	加東市		三草山 数回鳴く	浅田 卓	
	28	兵庫県	神戸市	○	灘区大和公園 初鳴き	奥西良英	
	29	兵庫県	上郡町		苔縄	横山 正	
	29	兵庫県	篠山市	○	東古佐 17:00 初鳴き	赤塚雅人	2014 年より 8 日早い

表1 続き (○初鳴き, ●鳴きおさめ).

6	30	兵庫県	豊岡市	◎	祥雲寺コウノトリの郷公園 初鳴き	高橋 信	
	2	大阪府	吹田市	◎	吹田市藤白台 初鳴き	高橋耕二	2014年より15日早い
7	2	兵庫県	宍粟市		波賀町波賀小学校付近	茂見節子	
	2	兵庫県	小野市		河合中町八ヶ池 20時頃(2)	佐藤邦夫	
	5	兵庫県	佐用郡	◎	佐用町榎田 初鳴き	野村智範	
	6	兵庫県	加古郡		稲美町国岡下棒池(1)	佐藤邦夫	
	6	兵庫県	豊岡市		弥栄町	木下賢司	
	6	兵庫県	神戸市	◎	中央区下山手通県庁公館	浅田 卓	
	8	大阪府	茨木市	◎	大手町市役所前公園 初鳴き(複数)	谷角素彦	2014年より4日遅い
	8	兵庫県	篠山市		杉 19:15	河井典子	
	8	兵庫県	篠山市		網掛 19:30	河井典子	
	8	兵庫県	たつの市	◎	御津町黒崎 13:25 初鳴き	茂見節子	2014年より6日早い
	9	兵庫県	丹波市	◎	春日町多田 初鳴き	足立隆昭	
	11	兵庫県	加古川市	◎	志方町志方町宮山 初鳴き	竹内 隆	
	11	兵庫県	神戸市	◎	北区有野台 初鳴き	八田康弘	2014年より2日早い
	11	兵庫県	佐用郡		佐用町船越昆虫館	八田康弘	
	11	兵庫県	豊岡市		豊岡市但東町相田	永井英司	
	11	京都府	福知山市		大江町内宮皇大神社	永井英司	
	11	兵庫県	神戸市		北区唐櫃台	中川貴美子	
	12	兵庫県	豊岡市		但東町西谷	藤木恭子	
	12	京都府	南丹市		日吉ダム周辺 19:00	河井 周・河井典子	
	13	兵庫県	朝来市	◎	立脇 初鳴き	近藤伸一	2014年より3日早い
	13	兵庫県	豊岡市		日高町上石自宅 例年よりかなり遅い	菅村定昌	
	14	兵庫県	豊岡市		中陰五荘小学校 例年よりかなり遅い	菅村定昌	
	14	兵庫県	豊岡市		立野町	永井英司	
	14	兵庫県	加西市		笹倉町, 中国道加西インター付近 18:00(多数)	高田 要	
	14	京都府	京丹後市		久美浜町(多数)	近藤伸一	
	15	兵庫県	神戸市		西区岩岡町	近藤伸一	
	16	兵庫県	美方郡		香美町村岡区村岡	永井英司	
8	24	兵庫県	明石市		大久保町高丘 鳴かなくなった	久保弘幸	
	24	兵庫県	神戸市	●	中央区下山手通 鳴きおさめ	浅田 卓	
	27	兵庫県	神戸市		東灘区田中町都市公園(1) 周辺市街地ではかなり前から聞かれない	吉田浩史	
9	4	兵庫県	三木市	●	三木山森林公園 鳴きおさめ 9月7日に死骸採取	川瀬真次	2014年より7日遅い
	15	兵庫県	姫路市		夢前川下流(1) 姿も確認	内藤親彦	

5. ヒグラシ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観察者	備考
6	23	兵庫県	豊岡市		中陰五荘小学校の裏山 19時	菅村定昌	
	24	兵庫県	西宮市	◎	甲山初鳴き	野口明美	
7	1	兵庫県	豊岡市	◎	但東町西谷初鳴き	藤木恭子	2014年より8日早い
	2	京都府	宮津市	◎	須津倉橋山初鳴き	笠井裕代	
	2	宮城県	仙台市		太白区秋保町境	清水哲哉	
	3	兵庫県	豊岡市	◎	但東町相田初鳴き	永井英司	2014年より4日早い
	3	京都府	福知山市	◎	猪崎三段池公園初鳴き	山段弥寿子	
	3	兵庫県	神戸市		北区有馬口 19:00	河村幸子	
	3	兵庫県	朝来市	◎	和田山町弥生が丘初鳴き	山崎悠高	
	5	兵庫県	姫路市		青山 14:00	岡嶋幹雄	
	8	兵庫県	朝来市	◎	立脇初鳴き 19:00(2014年より3日早い)	近藤伸一	2014年より3日早い
	8	兵庫県	朝来市		多々良木	近藤伸一	
	9	兵庫県	佐用郡	◎	佐用町榎田初鳴き	野村智範	2014年より18日遅い
	9	兵庫県	神戸市		灘区六甲山町六甲山南側で 18:50	河村幸子	
	9	兵庫県	姫路市	◎	青山初鳴き	内藤親彦	
	9	兵庫県	豊岡市		九日市上町	尾畑俊彦	
	9	兵庫県	豊岡市		妙楽寺	尾畑俊彦	
	10	宮城県	仙台市		仙台管区気象台		
	11	兵庫県	赤穂郡		上郡町苔縄 4:15	横山 正	
	11	兵庫県	神戸市	◎	北区有野台にて 18:30 初鳴き	八田康弘	2014年より2日早い
11	京都府	福知山市		大江町佛照寺大江山青少年グリーンセンター	永井英司		
11	兵庫県	豊岡市	◎	祥雲寺コウノトリの郷公園初鳴き	三橋陽子		
12	岡山県	加賀郡	◎	吉備中央町上田西初鳴き	藤本 出		
12	京都府	南丹市		南丹市日吉ダム周辺 19:00	河井周・河井典子		

表1 続き (○初鳴き, ●鳴きおさめ).

7	13	兵庫県	篠山市	○	篠山市東古佐初鳴き	河井典子	2014年より9日遅い
	14	兵庫県	三木市		三木山森林公園2♀採取鳴き声はまだ	川瀬真次	
	14	兵庫県	加西市	○	笹倉町, 中国道加西インター付近 18:00 初鳴き	高田 要	
	14	兵庫県	三木市	○	三木山森林公園初鳴き	川瀬真次	2014年より1日遅い
	14	兵庫県	神戸市	○	西区井吹台夕刻初鳴き	吉岡朋子	
	16	兵庫県	神崎郡		市川町屋形	近藤伸一	
	18	兵庫県	川西市		川西市畦野 18:30	足立隆昭	
	20	兵庫県	たつの市		揖西町中垣内キャンプ場北の谷筋付近	茂見節子	
	20	兵庫県	多可郡		多可町中区鞆谷なか・やちよの森公園	公園職員	
	21	兵庫県	佐用郡		佐用町船越昆虫館多数鳴く	近藤伸一	
	21	兵庫県	宍粟市		波賀町前地多数鳴く	近藤伸一	
	24	兵庫県	佐用郡		佐用町櫛田 7:00	野村智範	
24	兵庫県	養父市		鉢高原多数鳴く	近藤伸一		
8	6	兵庫県	神戸市	○	中央区下山手通初鳴き	浅田 卓	
	8	兵庫県	加西市		笹倉町, 中国道加西インター付近	高田 要	
	20	兵庫県	三木市	●	三木山森林公園鳴きおさめ	川瀬真次	2014年より5日遅い
	21	兵庫県	朝来市	●	立脇鳴きおさめ	近藤伸一	2014年より10日早い

6. クマゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観察者	備考
6	23	大阪府	大阪市	○	此花区 7:30 初鳴き	堀ノ内	2014年より5日遅い
	28	兵庫県	神戸市	○	兵庫区東山町 8:00 初鳴き	八田康弘	2014年より13日遅い
	28	兵庫県	明石市		大久保町幼虫の脱皮殻	久保弘幸	
	28	兵庫県	神戸市		須磨区須磨寺町, 須磨寺	山本勝也	
7	1	兵庫県	明石市		大久保町新鮮な死体鳴き声まだ	久保弘幸	
	3	大阪府	摂津市	○	初鳴き	金子留美子	2014年より8日早い
	3	兵庫県	伊丹市		昆陽池	野本康太	
	6	兵庫県	神戸市		西区伊川谷町成虫確認	森口 紀	
	8	奈良県	橿原市		新賀町 11 時半頃 (1)	宮武頼夫	
	9	大阪府	吹田市	○	藤白台 2 丁目 8:45 初鳴き	高橋耕二	2014年より3日早い
	9	兵庫県	神戸市	○	西区井吹台東町初鳴き	吉岡朋子	2014年より5日早い
	9	兵庫県	加古川市	○	八幡町宗佐初鳴き	室園康生	
	9	兵庫県	加東市		社	河井 周	
	9	兵庫県	神戸市	○	垂水区桃山台初鳴き	河内尚子	2014年より5日早い
	10	兵庫県	伊丹市		寺本 9:00	河井典子	
	10	兵庫県	神戸市	○	中央区下山手通初鳴き	浅田 卓	
	10	大阪府	茨木市	○	並木町初鳴き	谷角素彦	2014年より4日早い
	11	兵庫県	神戸市	○	垂水区西舞子初鳴き	浅田 卓	
	11	兵庫県	神戸市	○	灘区大和公園 AM 初鳴き. 約1時間程度	奥西良英	2014年と同じ
	12	兵庫県	宝塚市	○	平井初鳴き	齋藤泰彦	
	13	兵庫県	明石市		二見町東二見 (数頭)	佐藤邦夫	
	13	兵庫県	三木市	○	三木山森林公園初鳴き	川瀬真次	2014年より8日早い
	13	京都市	福知山市	○	猪崎初鳴き	山段真彦	
	14	兵庫県	豊岡市		城崎町湯島温泉街の裏山で大合唱 15 時	正木詔一	
	14	兵庫県	たつの市	○	御津町黒崎 初鳴き	茂見節子	2014年より2日早い
	14	兵庫県	加古川市		加古川町南粟津鶴林寺公園近く成虫死骸確認	竹内 隆	
	15	兵庫県	加古川市		志方町志方中学で鳴き出した	竹内 隆	
	16	兵庫県	神戸市		西区岩岡町	近藤伸一	
	18	兵庫県	加西市		笹倉町 12:00	高田 要	
	19	兵庫県	加西市		畦野 9:25	足立隆昭	
	19	兵庫県	神戸市		北区有野台	八田康弘	
	20	兵庫県	神崎郡		福崎町福崎インター	近藤伸一	
	20	兵庫県	神崎郡		福崎町東大貫	近藤伸一	
	20	兵庫県	小野市		浄谷町	近藤伸一	
	21	兵庫県	赤穂郡		上郡町上郡	横山 正	
	23	兵庫県	朝来市	○	立脇初鳴き (1) 10:30	近藤伸一	2014年より8日早い
26	兵庫県	篠山市	○	東古佐 9:00 初鳴き	河井典子	2014年より5日遅い	
26	兵庫県	多可郡		多可町中区天田	近藤伸一		
29	兵庫県	神戸市	○	北区有野町唐櫃初鳴き 8:00	河村幸子		
8	2	兵庫県	神戸市		北区唐櫃台	中川貴美子	
	5	兵庫県	豊岡市		九日市上町	尾畑俊彦	

表1 続き (○初鳴き, ●鳴きおさめ).

8	7	兵庫県	豊岡市		幸町	田中利奈	
	9	兵庫県	豊岡市		但東町相田	永井英司	
	19	兵庫県	養父市		鉢高原 H=900 m短時間鳴く	永幡嘉之	
	24	兵庫県	神戸市		東灘区住吉東町	新井雅夫	
	24	大阪府	茨木市		平田	谷角素彦	
	26	兵庫県	朝来市	●	立脇鳴きおさめ	近藤伸一	2014年より2日早い
	27	兵庫県	神戸市		東灘区田中町都市公園で1頭鳴いていた。周辺市街地では8/20ごろには聞かれなくなっていた	吉田浩史	
	28	奈良県	橿原市	●	新賀町鳴きおさめ?	宮武頼夫	2014年より6日早い
	30	兵庫県	三木市	●	三木山森林公園鳴きおさめ	川瀬真次	2014年より2日遅い
	31	兵庫県	神戸市	●	中央区下山手通鳴きおさめ	浅田卓	
9	4	兵庫県	神戸市	●	垂水区西舞子鳴きおさめ	浅田卓	
	10	兵庫県	神戸市		西区井吹台東町まだ鳴いている	吉岡朋子	
	11	大阪府	茨木市		並木町朝弱々しい鳴き声	谷角素彦	
	12	兵庫県	加古郡		播磨町新鮮な♀の死骸。鳴き声は聴けない	久保弘幸	
	12	兵庫県	神戸市		西区井吹台	吉岡朋子	2014年より2日遅い

7. アブラゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観察者	備考
6	25	兵庫県	伊丹市		春日丘羽化殻を発見	野本康太	
	27	兵庫県	神戸市		須磨区東須磨, 離宮公園	山本勝也	
7	7	山形県	山形市		小白川町(山形大学構内)	永幡嘉之	
	7	山形県	南陽市		成虫(2)見る	永幡嘉之	
	7	宮城県	仙台市		太白区秋保町境野	清水哲哉	
	7	兵庫県	たつの市	○	御津町黒崎初鳴き	茂見節子	2014年より11日早い
	8	兵庫県	赤穂市		加里屋字東沖手	岡嶋幹雄	
	8	兵庫県	神戸市		灘区六甲台町	金子留美子	
	8	兵庫県	丹波市		春日町多田 14:20 一回鳴く	足立隆昭	
	9	兵庫県	神戸市	○	北区有野台 19:30 初鳴き	八田康弘	2014年より9日早い
	9	兵庫県	姫路市		青山初鳴き	内藤親彦	
	9	山形県	山形市		蔵王半郷 7月9日	永幡嘉之	
	9	兵庫県	豊岡市		弥栄町成虫確認	木下賢司	
	9	兵庫県	伊丹市		北本町	野本康太	
	12	兵庫県	宝塚市		平井成虫羽化失敗観察	齋藤泰彦	
	12	兵庫県	三木市	○	三木山森林公園初鳴き	川瀬真次	2014年より2日遅い
	12	宮城県	柴田郡	○	村田町城山付近初鳴き	清水哲哉	
	12	兵庫県	神戸市	○	西区井吹台初鳴き	吉岡朋子	
	13	京都府	福知山市	○	猪崎初鳴き	山段眞彦	
	13	兵庫県	神戸市		垂水区西舞子成虫死体確認	浅田卓	
	13	兵庫県	加東市		社	河井周	
	14	大阪府	茨木市	○	小川町初鳴き	谷角素彦	
	15	兵庫県	篠山市	○	杉初鳴き	河井典子	
	15	兵庫県	神戸市		西区岩岡町	近藤伸一	
	15	兵庫県	豊岡市	○	祥雲寺コウノトリの郷公園初鳴き	高橋 信	
	16	岡山県	加賀郡	○	吉備中央町上田西初鳴き	藤本 出	
	18	兵庫県	豊岡市	○	但東町相田初鳴き	永井英司	
	19	兵庫県	朝来市	○	立脇初鳴き(2014年より4日早い)	近藤伸一	2014年より4日早い
	24	大阪府	吹田市	○	藤白台2丁目 16:30 初鳴き	高橋耕二	2014年より7日遅い
8	3	兵庫県	豊岡市		京町裏山	正木詔一	
	8	兵庫県	加西市		笹倉町, 中国道加西インター付近多数鳴く	高田 要	
	21	兵庫県	神戸市		住吉東町	新井雅夫	
	24	大阪府	茨木市		平田	谷角素彦	
	24	兵庫県	神戸市		須磨区須磨海浜公園	吉田浩史	
	27	兵庫県	朝来市	●	立脇鳴きおさめ	近藤伸一	2014年より1日早い
	27	兵庫県	神戸市		東灘区田中町で2頭公園以外の市街地でもまだ鳴いている	吉田浩史	
	29	兵庫県	美方郡		香美町新屋高丸山 H=1000 m付近(1)	植田義輔	
31	兵庫県	神戸市		西区井吹台	吉岡朋子		
9	1	大阪府	茨木市	●	新庄町鳴きおさめ	谷角素彦	
	2	兵庫県	神戸市		垂水区桃山台	吉岡朋子	
	5	山形県	山形市		山形蔵王スキー場 H=870m 付近(少数) H=1240m 付近はセミの声なし	清水哲哉	

表1 続き (○初鳴き, ●鳴きおさめ).

9	10	山形県	山形市		蔵王半郷台風の雨のやみ間に鳴く	永幡嘉之	
	10	兵庫県	三木市		三木山森林公園最近鳴かない	川瀬真次	
	14	大阪府	箕面市		白鳥 1 ♀飛翔個体を捕獲	片岡義方	
	15	兵庫県	姫路市		夢前川下流 (2) 姿も確認	内藤親彦	
	21	兵庫県	加西市		琵琶甲町 (1)	谷角素彦	

8. エゾゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観察者	備考
7	9	山形県	山形市		蔵王王神尾	永幡嘉之	
	19	京都府	福知山市	○	大江町佛性寺初鳴き	山段眞彦	
	24	兵庫県	美方郡		香美町小代区新屋 H=900 m	近藤伸一	
	24	兵庫県	神戸市		灘区六甲山記念碑台周辺	中川貴美子	
8	1	兵庫県	神戸市		灘区六甲山記念碑台周辺	中川貴美子	
	19	兵庫県	養父市		鉢高原 H=860 ~ 1050 m 広範囲で. 24 日は鳴かない	近藤伸一	
	19	兵庫県	養父市		奈良尾 H=750 m	近藤伸一	
	28	兵庫県	美方郡		香美町村岡区ハチ北高原 29 日も鳴く	岡本俊治	
	29	兵庫県	美方郡		香美町新屋高丸山 H=1000 m 付近 (2)	近藤伸一	
9	22	兵庫県	美方郡		香美町新屋高丸山 H=1000 m 付近 (2)	近藤, 刈田, 木下	

9. アカエゾゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観察者	備考
8	28	兵庫県	美方郡		香美町村岡区ハチ北高原 29 日も鳴く	岡本俊治	

10. ミンミンゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観察者	備考
7	7	宮城県	仙台市		7月7日仙台管区気象台		
	8	山形県	山形市		蔵王半郷 (十数年のうち, 20 日より前に鳴きだした唯一の例)	永幡嘉之	
	14	兵庫県	豊岡市		京町 13:10	正木詔一	
	16	兵庫県	佐用郡		佐用町下徳久 (1)	清水哲哉	
	19	兵庫県	宍粟市		波賀町引原ダム 18:30(1~2)	清水哲哉	
	21	兵庫県	佐用郡		佐用町船越昆虫館 10:30(1)1 ~ 2 分間	近藤伸一	
	23	京都府	舞鶴市	○	浜初鳴き	山段眞彦	
	24	兵庫県	佐用郡	○	佐用町榎田初鳴き 7:00	野村智範	
	24	大阪府	吹田市	○	藤白台 2 丁目 16:20 初鳴き	高橋耕二	2014 年より 4 日早い
	25	兵庫県	篠山市	○	東古佐 7:00 初鳴き	河井典子	2014 年より 24 日早い
	25	兵庫県	豊岡市	○	但東町西谷初鳴き	藤木恭子	
	26	兵庫県	多可郡		7月26日多可町中区天田近藤伸一	近藤伸一	
	26	兵庫県	佐用郡		佐用町船越昆虫館	八田康弘	
	27	兵庫県	朝来市	○	立脇 8:00 初鳴き	近藤伸一	2014 年より 2 日早い
	27	兵庫県	神戸市		兵庫区会下山	八田康弘	
	28	兵庫県	三木市	○	三木山森林公園初鳴き	川瀬真次	2014 年と同じ
	28	兵庫県	豊岡市		但東町相田初鳴き	永井英司	
30	兵庫県	神戸市	○	北区有野台初鳴き	八田康弘		
8	10	兵庫県	たつの市	○	御津町黒崎 (1) 初鳴き. 当地で初めて聞く	茂見節子	
	24	兵庫県	神戸市		須磨区須磨海浜公園	吉田浩史	
	29	兵庫県	美方郡		香美町新屋高丸山 H=1000 m 付近 (1)	植田義輔	
9	1	兵庫県	神戸市		西区井吹台	吉岡朋子	
	2	兵庫県	神戸市		垂水区桃山台	吉岡朋子	
	4	兵庫県	神戸市		東灘区住吉東町 (今年 3 回目)	新井雅夫	
	5	山形県	山形市		山形蔵王スキー場 H=870m 付近 (少数) H=1240m 付近セミの声なし	清水哲哉	
	8	兵庫県	佐用郡		佐用町昆虫館まだ鳴いている	野村智範	
	10	山形県	山形市		蔵王半郷台風の雨のやみ間に鳴いている	清水哲哉	
	11	兵庫県	神戸市		六甲の南斜面で鳴いていた	竹田真木生	
	12	兵庫県	小野市		来住町岩倉 (2)	佐藤邦夫	
	12	兵庫県	明石市		大久保町	久保弘幸	
	13	兵庫県	篠山市		東古佐鳴き声確認	河井典子	
	14	大阪府	箕面市		白鳥複数鳴く	片岡義方	
	14	兵庫県	神戸市		須磨区緑台 総合運動公園駅	永井英司	
	14	兵庫県	篠山市		東木之部 西紀 SA	永井英司	
	15	兵庫県	神戸市		北区道場町 (3)	近藤伸一	
	15	兵庫県	西宮市		北六甲台	小倉今日子	

表1 続き (○初鳴き, ●鳴きおさめ).

9	16	兵庫県	朝来市		和田山町桑原	永井英司	
	17	兵庫県	三木市		三木山森林公園	近藤伸一	
	18	奈良県	奈良市		若草山(少数)	谷角素彦	
	19	兵庫県	宍粟市		一宮町公文	立岩幸雄	
	19	兵庫県	宍粟市		一宮町福知	立岩幸雄	
	19	兵庫県	篠山市		畑宮弥十郎岳山麓	大塚剛二	
	19	兵庫県	篠山市		西古佐並木道中央公園	大塚剛二	
	21	兵庫県	篠山市	●	東古佐鳴き納め	河井周	2014年より4日早い
	21	兵庫県	朝来市		和田山町東谷大蔵神社	尾崎真也	
	21	兵庫県	豊岡市		京町	正木詔一	
	22	兵庫県	豊岡市		但東町相田	永井英司	
	23	兵庫県	三木市	●	三木山森林公園鳴きおさめ	川瀬真次	2014年より2日早い
	23	兵庫県	豊岡市		城崎町来日	立岩幸雄	
	25	兵庫県	朝来市	●	立脇鳴きおさめ	近藤伸一	2014年より3日早い
27	兵庫県	豊岡市		城崎町来日	立岩幸雄		
27	兵庫県	佐用郡		佐用町船越佐用町昆虫館(少数)	清水哲哉		

11. ツクツクボウシ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観察者	備考
7	16	兵庫県	神戸市		垂水区桃山台	吉岡朋子	
	18	兵庫県	赤穂市		赤穂城址	竹内隆、立岩幸雄	
	18	兵庫県	赤穂郡		上郡町苔縄	横山正	
	22	兵庫県	たつの市	○	御津町黒崎初鳴き	茂見節子	
	24	兵庫県	佐用郡	○	佐用町櫛田初鳴き 7:00	野村智範	
	24	兵庫県	神戸市		北区裏六甲ドライブウェイ	中川貴美子	
	25	兵庫県	朝来市		佐囊 9:00	近藤伸一	
	25	宮城県	仙台市		太白区太白山	清水哲哉	
	25	宮城県	仙台市		青葉区サイカチ沼	清水哲哉	
	26	兵庫県	多可郡		多可町中区糀谷なか・やちよの森公園	近藤伸一	
	26	千葉県	市川市			浅田卓	
	27	兵庫県	朝来市	○	立脇 12:10 初鳴き	近藤伸一	2014年より4日早い
	29	兵庫県	姫路市	○	青山初鳴き	内藤親彦	2014年より13日早い
	30	兵庫県	神戸市	○	中央区下山手通初鳴き	浅田卓	
	30	兵庫県	神戸市		灘区六甲台町	金子留美子	
	30	兵庫県	丹波市		春日町多田 16:20	足立隆昭	
31	京都府	福知山市	○	猪崎初鳴き	山段真彦		
8	1	兵庫県	豊岡市	○	但東町西谷初鳴き	藤木恭子	
	2	兵庫県	神戸市	○	北区有野台初鳴き	八田康弘	2014年より9日早い
	3	兵庫県	篠山市	○	東古佐 8:55 初鳴き	河井典子	2014年より7日遅い
	3	兵庫県	三木市	○	三木山森林公園初鳴き	川瀬真次	2014年より2日遅い
	3	奈良県	橿原市		南山町南山(昆虫館の裏山) 9:40	宮武頼夫	
	3	兵庫県	豊岡市		京町裏山	正木詔一	
	4	兵庫県	豊岡市	○	但東町相田初鳴き	永井英司	
	4	千葉県	長南町			三橋陽子	
	7	兵庫県	神戸市		西区岩岡町	寺田直人	
	9	大阪府	吹田市		藤白台 2丁目	高橋耕二	
	10	東京都	杉並区	○	初鳴き	近藤太郎	2014年より11日早い
	19	大阪府	茨木市		平田	谷角素彦	
	19	兵庫県	神戸市		東灘区住吉東町	新井雅夫	
	24	兵庫県	神戸市		須磨区須磨海浜公園	吉田浩史	
27	兵庫県	神戸市		東灘区田中町都市公園で(1)	吉田浩史		
31	兵庫県	神戸市	●	東灘区住吉東町 9月から鳴かない	新井雅夫		
9	5	山形県	山形市		山形蔵王スキー場 H=870m 付近少数鳴き H=1240m 付近はセミの声なし	清水哲哉	
	11	兵庫県	神戸市		垂水区桃山台	吉岡朋子	
	12	兵庫県	南あわじ市		吹上浜付近	吉岡朋子	
	12	兵庫県	小野市		来住町岩倉多数	佐藤邦夫	
	12	兵庫県	明石市		大久保町	久保弘幸	
	12	宮城県	仙台市	●	太白区太白山 1匹鳴き, これが最後	清水哲哉	
	13	兵庫県	篠山市		東古佐鳴き声確認数は少ない	河井典子	
14	大阪府	箕面市		白鳥複数鳴く	片岡義方		

表1 続き (○初鳴き, ●鳴きおさめ).

9	15	兵庫県	神戸市		北区道場町多数の鳴き声	近藤伸一	
	15	兵庫県	姫路市		夢前川下流	内藤親彦	
	15	兵庫県	西宮市		北六甲台	小倉今日子	
	18	奈良県	奈良市		若草山	谷角素彦	
	19	兵庫県	神崎郡		神河町南小田	立岩幸雄	
	19	兵庫県	加古川市		志方町野尻	立岩幸雄	
	19	兵庫県	篠山市		畑宮弥十郎岳山麓	大塚剛二	
	19	兵庫県	篠山市		西古佐並木道中央公園	大塚剛二	
	20	兵庫県	神戸市		六甲山の北側でまだ鳴く	竹田真木生	
	20	茨城県	常総市		中妻町複数鳴く	岡嶋幹雄	
	21	兵庫県	小野市		来住町	立岩幸雄	
	21	兵庫県	加古川市		志方町広尾(志方東公園)	立岩幸雄	
	21	兵庫県	小野市		来住町岩倉	谷角素彦	
	21	兵庫県	加西市		琵琶甲町	谷角素彦	
	22	兵庫県	神戸市		市西区井吹台	吉岡朋子	
	22	兵庫県	美方郡		香美町新屋高丸山 H=1000 m付近短時間鳴く	近藤伸一・木下賢司	
	22	兵庫県	西宮市		北六甲台 5 丁目	小泉今日子	
	23	兵庫県	加古川市		東神吉町升田(平荘湖)	立岩幸雄	
	23	兵庫県	明石市		大久保町まだ鳴く	久保弘幸	
	23	兵庫県	赤穂市		加里屋字東沖手	岡嶋幹雄	
	23	兵庫県	豊岡市		但東町相田	永井英司	
	25	兵庫県	加古川市		八幡町まだ鳴く	室園康生	
	26	兵庫県	朝来市		立脇	近藤伸一	
	26	兵庫県	佐用郡		佐用町船越昆虫館午後から鳴く	八田康弘	
	26	兵庫県	篠山市		東古佐まだ鳴く	河井周	
	27	兵庫県	佐用郡		佐用町昆虫館少数	清水哲哉	
	28	兵庫県	赤穂郡		上郡町柏野 (1) 9/29 日は鳴かず	清水哲哉	
	28	兵庫県	加古川市		西神吉町 (少数)	清水哲哉	
	28	福島県	東白川郡		棚倉町(ルネサンス棚倉)複数鳴く 29 日も鳴く	吉岡朋子	
	29	兵庫県	たつの市		東橋崎 (1)	清水哲哉	
10	2	兵庫県	三木市	●	三木山森林公園鳴きおさめ	川瀬真次	2014 年より 2 日遅い
	3	宮城県	柴田郡		柴田町船岡城址公園 (4)	清水哲哉	
	4	兵庫県	豊岡市		日高町知見	永井英司	
	6	宮城県	角田市		角田市四方山 (1)	清水哲哉	
	11	兵庫県	小野市		来住町	立岩幸雄	
	14	兵庫県	朝来市	●	立脇 9 月 26 日以来. 14 時 (1) 1 ~ 2 分間	近藤伸一	2014 年より 4 日遅い
	16	宮城県	柴田郡		柴田町船岡城址公園 (2)	清水哲哉	
17	兵庫県	佐用郡		佐用町佐用町昆虫館 2 回鳴く	八田康弘		

12. チッチゼミ

月	日	府県名	市町名		場所, 状況など	観察者	備考
8	2	宮城県	柴田郡		川崎町蔵王山麓の峩々温泉付近 h = 約 850m	清水哲哉	
	12	宮城県	仙台市		青葉区青下	清水哲哉	
	12	宮城県	仙台市		青葉区横川林道	清水哲哉	
	15	兵庫県	篠山市		西古佐並木道中央公園	押川匠	
	18	宮城県	名取市		熊野那智神社	清水哲哉	
	20	兵庫県	篠山市	○	東古佐初確認	河井典子	2014 年より 1 日早い
	27	兵庫県	三木市		三木山森林公園	川瀬真次	
9	13	兵庫県	篠山市		東古佐鳴き声確認	河井典子	2014 年より 12 日遅い
	15	兵庫県	神戸市		北区道場町	吉田浩史	
	28	兵庫県	赤穂郡		上郡町柏野 (少数) (9/29 日は鳴かず)	清水哲哉	
	28	兵庫県	加古川市		西神吉町 (少数)	清水哲哉	
10	6	宮城県	角田市		四方山 (1)	清水哲哉	

みんなでつなぐ初蝶リレー 2015

久保 弘幸¹⁾

事業の概要

初蝶リレーは、こどもとむしの会の事業として、2013年に開始し、2015年で3回目の実施になる。どんな蝶が、いつ、どこで活動を始めるのかを多くの会員間で共有することが、本格的な昆虫の季節を前にした時期の楽しみでもあり、また、長期的で広汎な記録を残すことで、蝶の出現時期と気温変化の相関や、地球温暖化が蝶の出現期に及ぼす影響などを知る手掛かりとなることが期待できるだろう。

会員による情報は、主にEメールによって筆者宛に送られ、これを筆者がとりまとめて、毎週末をめぐりに「初蝶ニュース」として会員に送付するという方法で共有を図った。

そういう看板はともかく、春が待ち遠しい季節に、「誰が今年の初蝶を見つけるのか」という、ちょっとした競争心を抱きながら、網やカメラを手にフィールドへ出ることの楽しさと気持ちの高ぶりを感じるの、筆者だけだろうか。

筆者は、初蝶リレーの実施担当者としてこの報文を書いてはいるが、この報文が成るのは、情報を寄せてくださったすべての会員の皆様の、熱意によるものである。ここで改めて、謝意を表したい。

初蝶リレー 2015 の成果 (表1～4参照)

事業の実施期間は、立春から昆虫館開館日までである。2015年は、実施期間中28名の会員から78件のメールが寄せられた。報告種数は、蝶22種、蛾20種、蝶・蛾の幼虫2種、その他の昆虫12種に達している。

これほど多くの情報が毎年蓄積されるのは、稀有な事例であり、長期間継続すれば、近畿地方の昆虫類の動態を知るうえで、重要な資料となるだろう。

特に蛾の情報は、2013年が6種、2014年が7種であったのに対し、2015年は24種もの情報(幼虫を含む)が寄せられ、蝶ばかりでなく早春の蛾にも関心が深まったことがうかがわれる。蝶に比べて圧倒的に種数が多く、都市部でもさまざまな種が生息しているにもかかわらず、

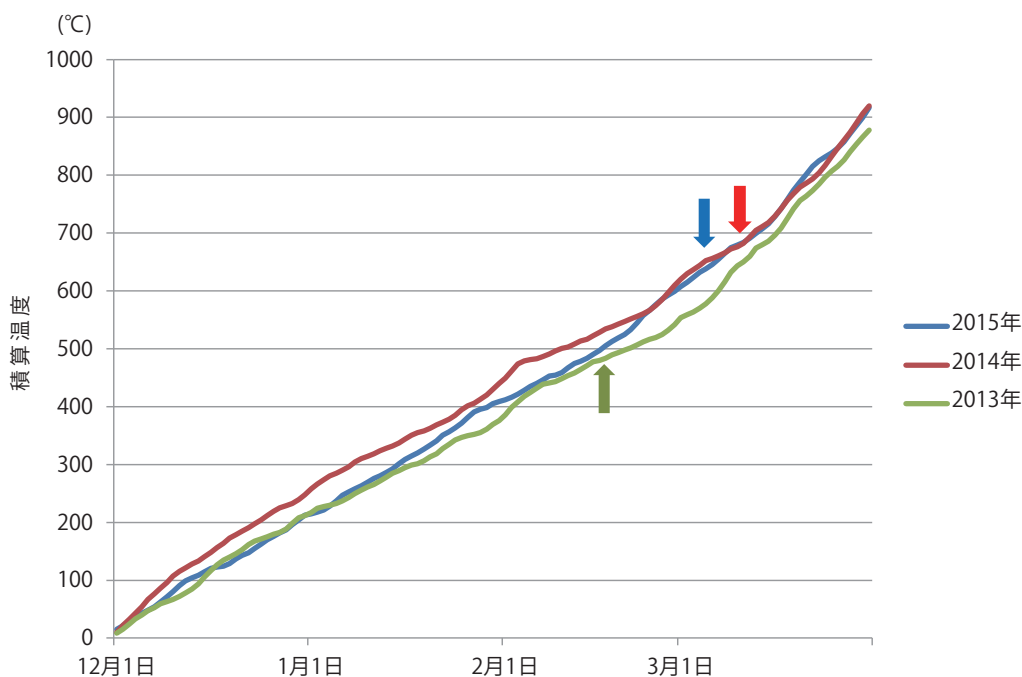


図1 2013年～2015年の平均気温累積(日度)とモンシロチョウの出現時期。

¹⁾ Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市 兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会

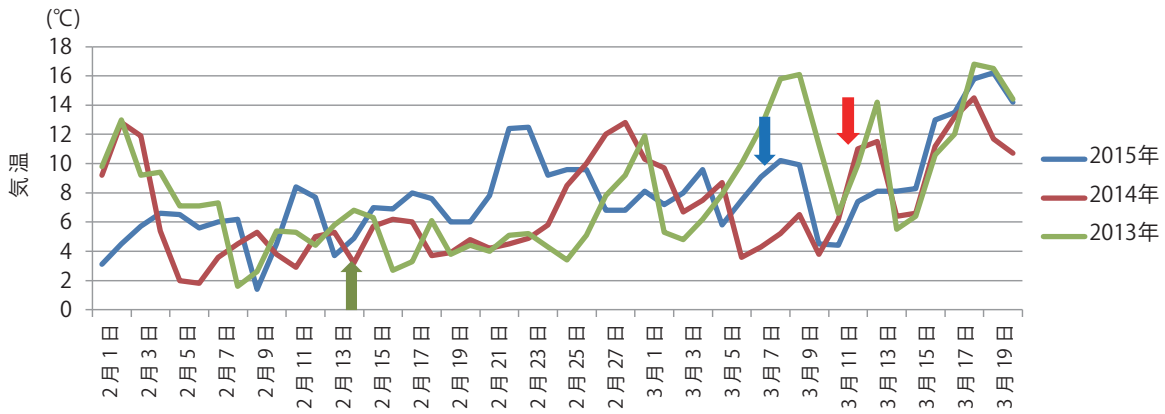


図2 2013年～2015年の初見日前後の日平均気温の変化。

分布や出現時期が必ずしも明らかではないものも多いことから、今後も、蛾への関心が深まることを期待したい。

その他の昆虫も、過去2回は数種の情報にとどまっていたが、2015年には9種の情報が寄せられた。

2015年春の気温変化と、蝶の出現時期を過去2回の初蝶リレーと比較すると、モンシロチョウは、2013年が2月14日、2014年が3月12日であったのに対し、2015年は3月8日であった(図1)。12月1日から3月31日までの平均気温累積値を比較してみると、2013年が最も寒く、2014年はこれよりかなり暖かであった。

12月1日から初見日までの平均気温の累積は、2013年が500日度に達していないのに対し、2014・15年は600日度の後半から、700日度に近い。越冬蛹が羽化するためには、蛹の成長0点を超える温度の累積が必要であることは知られているが(有効積算温度)、実験室のように恒温状態ではない野外では、蝶の出現期を、単純に平均気温の累積だけで求めることは、不可能であることがわかる。

しかし、出現期の前後に限って、日平均気温の変動を見てみると、所見日の前には、必ず12℃を超える日があることがわかる(図2)。一度、かなり温かくなる時期を経て、その次の温かさのピークが初見日になりやすい傾向があるのだろうか。このあたりは、今後、数多くの観察例を積み重ねることで、明らかにできるかもしれない。

モンシロチョウのような、その春羽化の蝶だけでなく、越冬組の蝶の活動が、気温とどのように関係しているのかも興味深い問題だが、ぜひ、初蝶リレーに参加されている皆さんも、分析に参加していただきたい。

さて、2015年の春に羽化した蝶は、いずれの種も、3月16日ごろを境として、急激に観察例が増加し、このころから安定的に発生が進んだと思われる。

神戸における気温の記録を見ても、3月16日から

22日までは、日の最高気温が18度に達する日が連続しており、18日には20.3℃を記録しており、目撃記録の増加と符合している。

おわりに

初蝶リレーは、より多くの目で観察することで、記録の精度を高めることができる。こうした活動ができるのは、「プロの虫屋」だけでなく、大人から子どもまで幅広い年代の人が集った、子どもとむしの会の特徴であり、最大の強みでもあるだろう。たくさんの情報をお寄せ下さった皆さんに、心から感謝しつつ、これからも息長く観察を続けていただきたいと思います。お願いする次第である。

表1 初蝶リレー 2015 の成果 今春羽化の蝶.

種	確認日	確認場所	確認者	
モンシロチョウ	3月8日	姫路市	松下陽子	
	3月16日	橿原市	宮武頼夫	
	3月17日	宝塚市	太田慶子	
	3月17日	神戸市	足立悠輔	
	3月17日	橿原市	宮武頼夫	
	3月17日	明石市	久保弘幸	
	3月17日	姫路市	内藤親彦	
	3月18日	明石市	久保弘幸	
	3月18日	たつの市	前田啓治	
	3月18日	播磨町	久保弘幸	
	3月22日	たつの市	茂見節子	
	3月22日	姫路市	真殿裕也・美智子	
	3月22日	橿原市	宮武頼夫	
	3月26日	神戸市	三田愛子	
	3月27日	橿原市	宮武頼夫	
	3月27日	神戸市	竹田真木生	
	3月28日	姫路市	脇村涼太郎	
	3月31日	橿原市	宮武頼夫	
	モンキチョウ	3月16日	たつの市	前田啓治
		3月17日	明石市	久保弘幸
3月17日		鈴鹿市	齋藤泰彦	
3月17日		姫路市	内藤親彦	
3月18日		播磨町	久保弘幸	
3月22日		たつの市	茂見節子	
3月22日		姫路市	真殿裕也・美智子	
3月27日		たつの市	茂見節子	
3月28日		姫路市	脇村涼太郎	
3月28日		宍粟市	茂見節子	
スジグロシロチョウ	3月28日	千葉市	太田慶子	
ツマキチョウ	3月30日	橿原市	林太郎	
	3月31日	橿原市	宮武頼夫	
ギフチョウ	4月4日	明石市	三木進	
	3月31日	倉吉市	清水哲哉	
アゲハチョウ	4月2日	倉吉市	清水哲哉	
	2月24日	姫路市	脇村涼太郎	
	3月26日	岡山市	清水哲哉	
	3月27日	橿原市	宮武頼夫	
	3月28日	姫路市	脇村涼太郎	
キアゲハ	4月2日	倉吉市	清水哲哉	
ジャコウアゲハ	3月27日	橿原市	宮武頼夫	
ルリシジミ	4月5日	橿原市	林太郎	
	3月7日	播磨町	久保弘幸	
	3月8日	姫路市	松下陽子	
	3月20日	岡山市	清水哲哉	
	3月21日	神戸市	清水萌花・颯太・典子	
	3月22日	神戸市	清水萌花・颯太・典子	
	3月22日	明石市	久保弘幸	
	3月22日	三田市	梅田博久	
ツバメシジミ	3月26日	橿原市	宮武頼夫	
	3月17日	明石市	久保弘幸	
ベニシジミ	3月28日	千葉市	太田慶子	
	3月22日	神戸市	清水萌花・颯太・典子	
	3月27日	姫路市	松下陽子	
ヤマトシジミ	3月27日	播磨町	久保弘幸	
	3月28日	千葉市	太田慶子	
コツバメ	3月31日	播磨町	久保弘幸	
	3月22日	三田市	梅田博久	
トラフシジミ	3月28日	千葉市	太田慶子	
	3月31日	橿原市	林太郎	
オオムラサキ (幼虫)	3月31日	橿原市	林太郎	
オオムラサキ (幼虫)	2月4日	千葉市	太田慶子	

表2 初蝶リレー 2015 の成果 蛾.

種	確認日	確認場所	確認者
ホソバキリガ	2月25日	明石市	久保弘幸
	3月7日	箕面市	片岡義方
カバキリガ	3月7日	箕面市	片岡義方
	3月18日	宝塚市	太田慶子
ヨスジノコメキリガ	3月28日	千葉市	太田慶子
シロヘリキリガ	3月7日	箕面市	片岡義方
	2月25日	明石市	久保弘幸
	3月18日	宝塚市	太田慶子
マエアカスカシノメイガ	3月20日	明石市	久保弘幸
	12月	箕面市	片岡義方
ナミスジフユナミシャク	3月7日	箕面市	片岡義方
アカモンナミシャク	3月28日	千葉市	太田慶子
アカモンナミシャク	3月28日	千葉市	太田慶子
クロテンフユシャクまたはウスバフユシャク	2月10日	神戸市	三田愛子
クロテンフユシャク	2月13日	箕面市	片岡義方
フユシャク♀ (種不明)	2月4日	千葉市	太田慶子
チャオビフユエダシャク	2月13日	箕面市	片岡義方
シロフユエダシャク	2月24日	箕面市	片岡義方
シモフリトゲエダシャク	2月13日	箕面市	片岡義方
	3月7日	箕面市	片岡義方
オカモトトゲエダシャク	3月7日	箕面市	片岡義方
ヒロバトガリエダシャク	3月7日	箕面市	片岡義方
トギレフユエダシャク	3月30日	千葉市	太田慶子
シロテンエダシャク	3月28日	千葉市	太田慶子
トビモンオオエダシャク	3月28日	加古川市	久保弘幸
	3月15日	明石市	久保弘幸
	3月18日	宝塚市	太田慶子
	3月19日	明石市	久保弘幸
	3月28日	千葉市	太田慶子
ハスオビエダシャク	3月20日	加古川市	久保弘幸
	3月20日	明石市	久保弘幸
	3月28日	加古川市	久保弘幸
	3月28日	姫路市	久保弘幸
マイコトラガ	3月20日	加古川市	久保弘幸
	3月20日	明石市	久保弘幸
	3月28日	加古川市	久保弘幸
イボタガ	3月28日	姫路市	久保弘幸
	3月28日	千葉市	太田慶子
	3月29日	姫路市	三木進
	3月28日	姫路市	久保弘幸
オオシモフリズメ	3月29日	姫路市	三木進
	3月18日	宝塚市	太田慶子
	3月28日	千葉市	太田慶子
プライヤハマキ	3月28日	千葉市	太田慶子
クワゴマダラヒトリ (幼虫)	3月22日	宝塚市	太田慶子

表3 初蝶リレー 2015 の成果 越冬組の蝶.

種	確認日	確認場所	確認者
テングチョウ	2月24日	多可町	久保弘幸
	3月5日	榑原市	宮武頼夫
	3月8日	姫路市	松下陽子
	3月16日	朝来市	近藤伸一
	3月16日	篠山市	茂見節子
	3月16日		中川貴美子
	3月16日	たつの市	前田啓治
	3月17日	榑原市	宮武頼夫
	3月17日	吹田市	高橋耕二
	3月17日	姫路市	脇村涼太郎
	3月17日	神戸市	清水颯太・萌花・典子
	3月17日	姫路市	内藤親彦
	3月21日	神戸市	清水颯太・萌花・典子
	3月22日	三田市	梅田博久
	3月26日	榑原市	宮武頼夫
	3月27日	榑原市	宮武頼夫
	3月27日	神戸市	竹田真木生
	3月30日	榑原市	林 太郎
	3月31日	榑原市	宮武頼夫
	キタキチョウ	3月8日	姫路市
3月17日		榑原市	宮武頼夫
3月17日		神戸市	清水颯太・萌花・典子
3月18日		播磨町	久保弘幸
3月22日		神戸市	清水颯太・萌花・典子
3月22日		明石市	久保弘幸
3月22日		榑原市	宮武頼夫
3月26日		榑原市	宮武頼夫
3月27日		榑原市	宮武頼夫
3月27日		神戸市	竹田真木生
3月31日	榑原市	宮武頼夫	
ツマグロキチョウ	3月22日	明石市	久保弘幸
アカタテハ	2月25日	多可町	久保弘幸
	3月17日	三田市	足立悠輔
	3月22日	榑原市	宮武頼夫
	3月26日	榑原市	宮武頼夫
	3月27日	榑原市	宮武頼夫
キタテハ	2月25日	多可町	久保弘幸
	3月8日	姫路市	松下陽子
	3月16日	神戸市	河村幸子
	3月17日	榑原市	宮武頼夫
	3月17日	明石市	久保弘幸
	3月17日	吹田市	高橋耕二
	3月17日	神戸市	清水典子
	3月17日	姫路市	内藤親彦
	3月18日	宝塚市	太田慶子
	3月18日	播磨町	久保弘幸
	3月21日	神戸市	清水颯太・萌花・典子
	3月22日	宝塚市	太田慶子
	3月27日	榑原市	宮武頼夫
3月31日	榑原市	宮武頼夫	
ルリタテハ	3月16日		中川貴美子
	3月16日	篠山市	茂見節子
	3月17日	榑原市	宮武頼夫
	3月21日	神戸市	清水颯太・萌花・典子
	3月22日	榑原市	宮武頼夫
	3月26日	榑原市	宮武頼夫
	3月27日	榑原市	宮武頼夫
	3月28日	宍粟市	茂見節子
ヒオドシチョウ	3月27日	たつの市	茂見節子
	3月28日	宍粟市	茂見節子
ムラサキシジミ	3月18日	宝塚市	太田慶子
	3月22日	宝塚市	太田慶子

表4 初蝶リレー 2015 の成果 その他の昆虫.

種	確認日	確認場所	確認者
ナナホシテントウ	3月16日	たつの市龍野町	前田啓治
	3月16日	三田市	足立悠輔
ナミテントウ	3月27日	神戸市	竹田真木生
クサギカメムシ	3月6日	神戸市	竹田真木生
	3月18日	宝塚市	太田慶子
	3月22日	宝塚市	太田慶子
ミツボシツチカメムシ	3月17日	神戸市	清水典子
	3月18日	宝塚市	太田慶子
	3月22日	宝塚市	太田慶子
オオトビサシガメ	2月24日	箕面市	片岡義方
トラフコメツキ	3月28日	千葉市	太田慶子
シモフリコメツキ	3月28日	千葉市	太田慶子
コマルハナバチ	3月18日	宝塚市	太田慶子
アオモンイトトンボ	3月21日	豊中市	片岡義方
カンサイタンポポ開花	2月7日	神戸市	八田康弘

神戸市の注目すべき双翅目および膜翅目の記録

吉田 浩史¹⁾・八木 剛²⁾

神戸市では、2009年度に神戸市版レッドリストのとりまとめが行われ、双翅目では6種、膜翅目では14種が選定された(神戸市, 2010)。しかし、一部の分類群を除きこれまでの情報の蓄積が少なかったため、重要とされる種の記録も非常に少ない状態であった。

今回、筆者の一人吉田の所持する標本や、大阪市立自然史博物館の収蔵標本の調査を行い、神戸市内において少ないと思われる双翅目、膜翅目の記録を取りまとめた。

なお、今回のリストは、現存の兵庫県版及び神戸市版のレッドリストの補足資料及び今後の改定の参考資料とするものであるが、挙げられた種は必ずしも重要種とは限らない。

標本データについては、兵庫県神戸市までは省略し、区名から表記した。標本データ末尾の(OMNH)は、大阪市立自然史博物館収蔵標本を示す。

また、解説文中において、レッドデータブックをRDB、レッドデータをRD、レッドリストをRLと略記する。

謝辞

大阪市立自然史博物館の松本吏樹郎学芸員には、収蔵標本及び文献の閲覧時にお世話になった。ここにお礼申し上げる。



写真1 ルリハナアブ (吉田撮影)。

目録

Diptera 双翅目

Syrphidae ハナアブ科

Kertesziomyia viridis (Coquillett, 1898)

ルリハナアブ

北区道場町生野, 150m, 1♀ (写真1), 2013. IX 11, 吉田浩史.

双翅目については、吉田・八木(2012)で報告しているが、新たに神戸市内から記録された種があるため、ここに報告する。生態等については、今回は割愛する。

Hymenoptera 膜翅目

Braconidae コマユバチ科

Euurobracon yokahamae (Dalla Torre, 1898)

ウマノオバチ

北区道場町生野, 150m, 1♀ (写真2, 写真記録のみ), 2013.

IV. 13, 八木剛.

環境省の第4次RL(環境省, 2012)において準絶滅危惧に、兵庫県版RL(兵庫県, 2012)および神戸市RD(神戸市, 2010)においてCランクに選定されている。



写真2 ウマノオバチ (八木撮影)。

¹⁾ Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区; ²⁾ Tsuyoshi YAGI 兵庫県立人と自然の博物館

近畿地方では他に, 大阪府 RL (大阪府, 2014) において絶滅危惧 II 類に, 滋賀県 RDB (滋賀県, 2011) において希少種に, 和歌山県 RDB (和歌山県, 2012) において絶滅危惧 I 類に, 三重県 RDB (三重県, 2015) において絶滅危惧 IB 類に選定されている。

国内では本州, 四国, 九州に分布する。産卵管がきわめて長いのが特徴で, 体長の約 6 倍以上。シロスジカミキリの幼虫に寄生する (前藤, 2008)。

Pompilidae クモバチ科

Paracyphononyx alienus (Smith, 1879)

アオスジクモバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 2001. VIII. 25, 吉田浩史。

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において情報不足に選定されている。近畿地方では他に, 京都府 RDB (京都府, 2015) において準絶滅危惧種に選定されている。

国内では本州, 四国, 九州, 種子島, 海外では朝鮮半島, 台湾に分布する (清水, 2008)。

クモバチ科は従来ベッコウバチ科と呼ばれており, 本種にもアオスジベッコウ, ヤマトアオスジベッコウの別名がある。

Tachypompilus analis (Fabricius, 1781)

ツマアカクモバチ

垂水区西舞子海岸, 0m, 1 ♀, 2006. IX. 19, 吉田浩史。

近畿地方では, 三重県 RDB の 2005 年版 (三重県, 2006) においては準絶滅危惧に選定されていたが, 後に 2015 年版 (三重県, 2015) において今後生息地が増える可能性があるとして低懸念とされた。

国内では本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する。アシダカゲモを狩った後, 乾いた土にすり鉢状の巣を掘って, これを埋める (清水, 2008)。別名ツマアカベッコウ, ツマアカコブベッコウ。

南方系の種で, 近年分布を北に伸ばしている (三重県, 2006) とされる。

Formicidae アリ科

Polyrhachis lamellidens Smith, 1874

トゲアリ

北区山田町藍那, 250m, 1 ex., 2002. V. 26, 吉田浩史 (吉田, 2002); 北区道場町生野, 150m, 1 ex., 2013. IX. 13, 吉田浩史。

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において絶滅危惧 II 類に選定されている。

国内では本州, 四国, 九州, 屋久島に分布する。女王がクロオオアリ, ムネアカオオアリ等の巢中に侵入し, その巣を奪う一時的社会寄生を行う。立木のうろの中, 特に根際付近の空洞によく営巣する (寺山ら, 2014)。

Polyrhachis moesta Emery, 1887

チクシトゲアリ

北区山田町藍那, 250m, 1 ex., 2009. III. 19, 吉田浩史。

国内では関東以南の本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する。樹上営巣性で, 通常枯れ枝に営巣する (寺山ら, 2014)。

同属で重要種とされるトゲアリよりも, 分布が南方寄りで兵庫県内の記録例も少ないと思われる。

Vespidae スズメバチ科

Eumeninae ドロバチ亜科

Anterhynchium melanopterum Sk. Yamane, 1981

ハグロフタオビドロバチ

北区坂本 (吉田・松本, 2002); 北区道場町生野, 150m, 1 ♂, 2002. IX. 7, 吉田浩史。

本州, 四国, 九州及び対馬に分布する (福井県, 2002)。本州の既知産地は栃木, 茨城, 東京, 新潟, 福井, 広島, 山口 (福井県, 2002), 京都, 大阪, 兵庫, 和歌山 (吉田・松本, 2002), 岐阜 (田島・大草, 2007)。

Vespinae スズメバチ亜科

Vespa crabro Linnaeus, 1758

モンズズメバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ex., 1999. IX. 12, 吉田浩史 (吉田, 2002)。

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において情報不足に選定されている。近畿地方では他に, 滋賀県 (滋賀県, 2011) において分布上重要種に, 三重県 RDB (三重県, 2015) において準絶滅危惧に選定されている。

国内では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する (山根, 2008)。木の洞や屋根裏などに巣を作る。大型の昆虫を餌とし, 特にセミ類を好む。近年, 北海道以外で減少している (滋賀県, 2011; 三重県, 2015)。

Ampulicidae セナガアナバチ科

Ampulex dissector (Thunberg, 1822)

サトセナガアナバチ

摩耶山, 1 ♀, 1957. VI. 22, 小泉雅俊 (OMNH)。

神戸市 RD (神戸市, 2010) において D ランクに選定されている。

国内では本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島に, 海外では朝鮮半島, 中国, 台湾に分布する。人為的移入種と考えられている (寺山・田埜, 2006)。人家付近に飛来し, クロゴキブリ, ワモンゴキブリ等の人家性ゴキブリの幼虫を狩る。住宅建築様式の変化や餌のゴキブリの減少に伴い, 本種もほとんど見られなくなった (山口県, 2002)。別名セナガアナバチ。

Sphecidae アナバチ科

Sceliphron deforme nipponicum Tsuneki, 1972

ニッポンモンキジガバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 2006. VIII. 20, 吉田浩史.

周辺府県では, 岡山県 RDB (岡山県, 2009) において準絶滅危惧に選定されている.

本土亜種は北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 南西諸島には原名亜種が分布するが, 千葉県及びその周辺でも得られており, 人為的移入と考えられている (寺山・田埜, 2006). 建物内の薄暗いところに好んで営巣する. ハエトリグモ類を狩る (山根ら, 1999). 別名モンキジガバチ.

Crabronidae ギングチバチ科

Bembicinae ハナダカバチ亜科

Alysson cameroni Yasumatsu et Masuda, 1933

ニッポンツヤアナバチ

北区道場町生野, 150m, 1 ♂ 1 ♀, 2002. IX. 7, 吉田浩史.

京都府 RDB (京都府, 2015) において準絶滅危惧種に選定されている.

北海道, 本州, 九州に分布する (寺山, 2006). ドロバチモドキ類の中でも原始的とされる. 地中に営巣し, ヨコバイ類を狩る (京都府, 2015). ニッポンツヤバチ, ツヤドロバチ, ツヤドロバチモドキ等の別名がある.

ギングチバチ亜科 Crabroninae

Larra carbonaria (Smith, 1858)

クロケラトリ

北区山田町藍那 (吉田, 2002).

国内では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 南西諸島, 海外では朝鮮半島, 台湾, フィリピン, マレーシア, インドネシアなどに分布する. ケラを狩る. 本種を含む本属の種は, 巣を作らず, かつ獲物の麻醉も一時的なものになる (寺山, 2008). 別名クロケラトリバチ, クロトガリアナバチ.

京都府版 RDB (京都府, 2015) において, アカオビケラトリバチ (京都府版準絶滅危惧種) の項に「ケラにとって好適な湿地的環境が失われており, 近縁のクロケラトリバチも激減している」とされている.

Apidae ミツバチ科

Halictinae コハナバチ亜科

Nomia incerta Gribodo, 1894

アオスジハナバチ

北区道場町生野, 150m, 1 ♀, 2002. IX. 7, 吉田浩史.

京都府 RDB ではかつて, 近年個体数が激減しているとして準絶滅危惧種に選定されていた (京都府, 2002) が, 2015 年版では府下に広く分布が確認され, 個体数

も少なくないとして対象外とされた (京都府, 2015).

国内では本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島に, 海外では中国, 台湾, 朝鮮半島, インドネシア, ネパール, インドに分布する (多田内・村尾, 2014). 成虫は夏季から秋季にかけ出現し (多田内・村尾, 2014), ハギ類を好んで訪花する (山根ら, 1999). 別名アオスジコハナバチ.

Megachilinae ハキリバチ亜科

Megachile kobensis Cockerell, 1918

キヌゲハキリバチ

須磨区一ノ谷町, 須磨海岸, 1m, 1 ♀, 2011. VIII. 8, 吉田浩史.

神戸市 RD (神戸市, 2010) において要調査に選定されている.

本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 種子島に分布し, 成虫は 5 ~ 9 月に出現する (多田内・村尾, 2014). 典型的な海浜性のハナバチ. 広食性種であるが, ハマゴウのスペシャリスト的な送粉者である. 砂地に深さ 2 ~ 7cm の緩やかに傾斜した単坑を掘り, その先端に 1 ~ 3 個の育房を直列に配置する. 育房は葉片で作製される (島根県, 2014). 別名コウベキヌゲハキリバチ.

原記載は未見であるが, 学名から神戸周辺が模式産地と推測される.

須磨海岸では, 2011 年に少数であるがハマゴウの花を訪花中の個体が確認された.

Osmia orientalis Benoist, 1929

マイマイツツハナバチ

兵庫区鳥原町, 100m, 1 ♂, 2000. IV. 8, 吉田浩史; 北区山田町藍那, 250m, 1 ♂, 2000. IV. 23, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 2001. IV. 7, 吉田浩史.

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において情報不足に選定されている. 近畿地方では他に, 京都府 RDB (京都府, 2015) において準絶滅危惧種に, 三重県 RDB (三重県, 2015) において絶滅危惧 IB 類に選定されている.

本州, 四国, 九州および極東ロシアに分布し, 成虫は 4 ~ 5 月に出現する (多田内・村尾, 2014). 春にカタツムリの空殻を利用して営巣する. 地上でカタツムリの殻を, 入口を下に向け, 渦巻きを垂直に置き, 1 つの殻に 5 ~ 8 育房を, ミヤコグサの花弁やキク科・バラ科植物の葉のバルプで仕切って作り, 花粉を搬入する. 訪花植物はゲンゲ, キランソウ, サギゴケ等 (京都府, 2015).

Apinae ミツバチ亜科

Amegilla florea (Smith, 1879)

スジボソフトハナバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 1997. VIII. 17, 吉田浩史; 同, 1

♀, 1999. VIII. 22, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 2000. VIII. 13, 吉田浩史; 同, 1 ♀, 2001. VIII. 25, 吉田浩史.

京都府 RDB (京都府, 2015) において絶滅危惧種に選定されている。

国内では本州, 四国, 九州, 大隅諸島, 海外では極東ロシア, 中国, 台湾, 朝鮮半島に分布し, 成虫は 5 月下旬～10 月に出現する (多田内・村尾, 2014). ツリフネソウやハウセンカ等を訪花する. 営巣行動などはほとんど不明. 京都府では近年ほとんど確認されておらず, 絶滅が危惧されている (京都府, 2015). 別名スジボソコシブトハナバチ.

神戸市藍那では農地周辺で多くの個体がみられたが, 現在その場所は立ち入り禁止となっており, 現状不明.

Thyreus decorus (Smith, 1852)

ナミルリモンハナバチ

北区山田町藍那, 250m, 1 ♀, 1997. VIII. 17, 吉田浩史.

環境省の第 4 次 RL (環境省, 2012) において情報不足に, 神戸市 (神戸市, 2010) において D ランクに選定されている. 近畿地方では他に, 京都府 RDB (京都府, 2015) において絶滅危惧種に選定されている.

国内では本州, 四国, 九州, 大隅諸島, 海外では極東ロシア, 中国, 台湾, 朝鮮半島, 東南アジアに分布する. 成虫は 7～10 月に出現し, スジボソコシブトハナバチに労働寄生すると考えられている (多田内・村尾, 2014). 別名ルリモンハナバチ.

神戸市藍那では, 寄主とされるスジボソコシブトハナバチと同様に農地周辺で比較的多くの個体がみられたが, 現在その場所は立ち入り禁止となっており, 現状不明.

Bombus diversus diversus Smith, 1869

トラマルハナバチ

六甲山 (八木ら, 2002); 北区山田町藍那, 250m, 1ex., 1999. VIII. 22, 吉田浩史.

近畿地方では, 京都府 RDB (京都府, 2015) において準絶滅危惧種に選定されている.

国内では本州, 四国, 九州, 対馬および利尻島, 礼文島に分布する (北海道には別亜種が分布) (木野田ら, 2013). 成虫は 4 月下旬～11 月上旬に活動する. 地中のノネズミ類の巣穴を利用して営巣する. 平地では同属のクロマルハナバチよりはるかに普通にいるマルハナバチであったが, 近年その個体数はどこでも激減している. 原因は不明. 成虫の活動期間が長期にわたるので, その営巣活動の継続のために多くの開花植物が提供されるという条件が必要である (京都府, 2015).

参考・引用文献

- 福井県, 2002. 福井県の絶滅のおそれのある野生動物 (動物編), 243pp., 福井県福祉環境部自然保護課.
- 兵庫県, 2012. 兵庫の貴重な自然—兵庫県版レッドリスト 2012 (昆虫類). (<http://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/JPN/apr/hyogoshizen/reddata2012/>)
- 環境省, 2012. 第 4 次レッドリストの公表について. (<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>)
- 木野田君公・高見澤今朝雄・伊藤誠夫, 2013. 日本産マルハナバチ図鑑. 191pp. 北海道大学出版会.
- 神戸市, 2010. 神戸の希少な野生動植物—神戸版レッドデータ 2010 —. (http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/environmental/tayosei/red_data_top.html)
- 京都府, 2002. 京都府レッドデータブック 2002, 上, 野生動物編: 935pp. 京都府文化環境部自然環境保全課.
- 京都府, 2015. 京都府レッドデータブック 2015. 京都府環境部自然環境保全課 (<http://www.pref.kyoto.jp/kankyo/rdb/index.html>).
- 前藤薫, 2008. コマユバチ科. 平嶋義宏・森本桂 (監修), 新訂原色昆虫大図鑑 III: 514-519. 北隆館, 東京.
- 三重県, 2006. 三重県レッドデータブック 2005 動物. 498pp. 編集/三重県環境森林部自然環境室, 発行/ (財) 三重県環境保全事業団.
- 三重県, 2015. 三重県レッドデータブック 2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～. 757pp. 三重県農林水産部みどり共生推進課.
- 岡山県, 2009. 岡山県版レッドデータブック 2009—絶滅のおそれのある野生生物—. 416pp. 岡山県.
- 大阪府, 2014. 大阪府における保護上重要な野生生物レッドリスト. 環境農林水産部みどり推進室みどり企画課 総務・自然環境グループ. (<http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/tayouseipartner/redlist.html>).
- 滋賀県, 2011. 滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県版レッドデータブック 2010 年版—. 583pp. 編集 滋賀県生きもの総合調査委員会, 発行 滋賀県自然環境保全課, 発売 サンライズ出版.
- 島根県, 2014. 改訂しまねレッドデータブック 2014 動物編—島根県の絶滅の恐れのある野生動物—. 318pp. 島根県環境生活部自然環境課.
- 清水晃, 2008. クモバチ科. 平嶋義宏・森本桂 (監修), 新訂原色昆虫大図鑑 III: 563-573. 北隆館, 東京.
- 田島暎久・大草伸治, 2007. ハグロフタオビドロバチの新産地. つねきばち, (12): 15-16.
- 多々内修・村尾竜起, 2014. 日本産ハナバチ図鑑. 479pp. 文一総合出版.

- 寺山守, 2006. 日本産有剣膜翅類検索表 6. ドロバチモドキ科 (Nyssonidae) の検索表. つねきばち, (10): 1-27.
- 寺山守, 2008. 日本産有剣膜翅類検索表 8. ギングチバチ科 (Crabronidae) ケラトリバチ亜科 (Larrinae) ケラトリバチ族 (Larrini) の種の検索表. つねきばち, (14): 1-22.
- 寺山守・田埜正, 2006. 日本産有剣膜翅類検索表 5. セナガアナバチ科 (Ampulicidae), アナバチ科 (Sphecidae) の検索. つねきばち, (7): 1-17.
- 寺山守・久保田敏・江口克之, 2014. 日本産アリ類図鑑. 278pp. 朝倉書店.
- 和歌山県, 2012. 保全上重要なわかやまの自然—和歌山県レッドデータブック— [2012年改訂版]. 442pp. 和歌山県環境生活部環境政策局 環境生活総務課自然環境室.
- 山口県, 2002. レッドデータブックやまぐち 山口県の絶滅のおそれのある野生生物. 513pp. 山口県野生生物保全対策検討委員会, 山口県環境生活部自然保護課.
- 山根正気, 2008. スズメバチ科. 平嶋義宏・森本桂 (監修), 新訂原色昆虫大図鑑 III: 547-554. 北隆館, 東京.
- 山根正気・幾留秀一・寺山守, 1999. 南西諸島産有剣ハチ・アリ類検索図説. 381pp. 北海道大学図書刊行会, 札幌.
- 吉田浩史, 2002. 神戸市北区藍那のハチ類相 (2) 有剣類. きべりはむし, 30(2): 44-45.
- 吉田浩史・松本吏樹郎, 2002. ハゲロフタオビドロバチの近畿地方における記録. Nature Study, 48(2): 8.
- 吉田浩史・八木剛, 2012. 兵庫県の注目すべき双翅目. きべりはむし, 34(2): 12-25.

佐用町からの膜翅目の採集記録

吉田 浩史¹⁾・渡辺 恭平²⁾

佐用町における膜翅目(ハチ目)の記録としては、内藤ほか(2006)によるハバチ亜目の記録及び佐用町昆虫館における2010年のマレーズトラップの記録(藤江ほか, 2011)が挙げられる。

今回は、筆者の一人吉田により採集された膜翅目と、2014年に佐用町昆虫館敷地内で行われたマレーズトラップ(詳細は後述)により得られた膜翅目について報告する。

なお、ここでいう佐用町は2015年現在のものであり、従来の上月町・南光町・三日月町を含んでいる。佐用町昆虫館は旧南光町域である。

主な採集地点の標高は以下のとおりである。

船越(佐用町昆虫館周辺) 230m, 多賀 150m。

採集者及びマレーズトラップの設置・回収はすべて吉田浩史である。

調査の結果、以下のとおり種名未決定のものを含め、8科58種の膜翅目が記録された。このうち、ヒメバチ科のオビガチビアメバチ、ニッポンチビアメバチ、タイワンハラアカチビアメバチ、ハシモトフタオヒメバチの4種は本州から初めて記録されるものであった。

同定及び本文執筆は、ヒメバチ科のみ渡辺が、他は吉田が担当した。

標本は、広腰亜目は国立科学博物館(筑波研究施設)に保管されている。細腰亜目は、基本的には兵庫県立人と自然の博物館に収蔵予定であるが、ヒメバチ科の一部は神奈川県立生命の星・地球博物館に保管することとした。

2014年のマレーズトラップ調査について

佐用町昆虫館周辺では、2010年に藤江隼平氏を中心としてマレーズトラップによる昆虫相調査が行われた(藤江ほか, 2011; 藤江・吉田, 2011)。

この際、6月に日本未記録種あるいは未記載種と考えられるハバチ科の一種が1個体採集された(上記の報告には含まれていない)。

追加個体を得るため、吉田は2014年5月10日に昆虫館敷地内にマレーズトラップを設置、同年6月11日、6月17日にサンプルの回収を行った。その後、台風8号の接近に伴い7月9日にトラップ自体を回収、以降は設置していない。そのため、2014年のマレーズトラップについては3サンプルのみである。

なお、残念ながら2014年には上記種の追加個体を得ることはできなかった。

謝辞

2014年の調査分については、国立科学博物館のコレクションビルディングフェローシップの援助を受けて実施した。篠原明彦博士と同館の担当者の方々に厚くお礼申し上げる。

確認種目録

Hymenoptera 膜翅目

Symphyla 広腰亜目

Argidae ミフシハバチ科

Arge captiva (F. Smith, 1874)

ニレチュウレンジ

船越, 1♀, 2010. VII. 17.

Arge hakusana Togashi, 1997

ハクサンチュウレンジ

船越, 1♀, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

兵庫県初記録。ただし、分類学的再検討中であり、今後種名が変更される可能性がある。

Arge nigronodosa (Motschulsky, 1860)

アカスジチュウレンジ

船越, 2♀, 2014. V. 10.

Arge similis (Vollenhoven, 1860)

ルリチュウレンジ

船越, 1♀, 2009. VII. 18; 同, 1♀, 2014. V. 10.

Tenthredinidae ハバチ科

Allantinae ハグロハバチ亜科

Asiemphytus deutziae (Takeuchi, 1929)

¹⁾ Hiroshi YOSHIDA 神戸市東灘区; ²⁾ Kyohei WATANABE 神奈川県立生命の星・地球博物館

ウツギハバチ

多賀, 1 ♂, 2010. V. 10.

Athalia infumata (Marlatt, 1898)

セグロカブラハバチ

船越, 6 ♂ 5 ♀, 2010. V. 1; 同, 3 ♂ 9 ♀, 2014. V. 10; 同, 1 ♂ 11 ♀, 2014. V. 10- VI. 6 (MT); 同, 1 ♂ 2 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Athalia japonica (Klug, 1815)

ニホンカブラハバチ

船越, 4 ♂ 2 ♀, 2010. V. 1; 同, 2 ♂ 1 ♀, 2014. V. 10; 同, 1 ♀, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Athalia kashmirensis Benson, 1932

イヌノフグリハバチ

船越, 1 ♂, 2011. X. 9.

Eriocampa kurumivora Togashi, 1980

クルミマルハバチ

多賀, 1 ♀, 2010. V. 10.

Tenthredininae ハバチ亜科

Macrophya coxalis (Motschulsky, 1866)

クロハバチ

船越, 1 ♀, 2011. V. 15.

Apocrita 細腰亜目

Ichneumonidae ヒメバチ科

Anomaloninae コンボウアメバチ亜科

Anomalon nigribase Cushman, 1937

クロアミメコンボウアメバチ

船越, 1 ♀, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT); 同, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Anomalon 属の中では最も良く得られる種である。

Campopleginae チビアメバチ亜科

Campoplex aphae (Uchida, 1930)

オビガチビアメバチ (和名新称)

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

本州初記録. オビガに寄生した記録がある (Uchida, 1930).

Casinaria japonica Kusigemati, 1980

ニッポンチビアメバチ

船越, 1 ♂, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

本州初記録. 近隣地域では愛媛県伯方島から記録がある (橋越ほか, 2012).

Casinaria sp.

船越, 1 ♂, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

Dusona sp.

船越, 1 ♂, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Eriborus vulgaris (Morley, 1912)

台湾アカハラチビアメバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 2.

本州初記録. 近隣地域では愛媛県伯方島から記録がある (橋越ほか, 2012). 南方系の種で, とくに南西諸島では最普通種.

Eriborus sp. (nr. *terebrans*)

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Cryptinae トガリヒメバチ亜科

Acroricnus ambulator ambulator (Smith, 1874)

キアシオナガトガリヒメバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 9.

ドロバチ類に寄生するため, 人家の周辺に多く見られる.

Paragambrus sapporonis (Uchida, 1930)

イラガヤドリトガリヒメバチ

船越, 3 ♂, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Ctenopelmatinae マルヒメバチ亜科

Scolobates testaceus Morley, 1913

チャマダラマルヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

マレーゼトラップではしばしばまとまって得られる種であるが, 野外で見かける機会はそれほど多くはない.

Diplazontinae ヒラタアブヒメバチ亜科

Diplazon scutatorius Teunissen, 1943

ニセクロアブヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

土手などに普通.

Ichneumoninae ヒメバチ亜科

Coelichneumon gargawensis Uchida, 1925

ガルガワヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10.

Achais oratorius albizonellus (Matsumura, 1912)

シロスジヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

平地で見られるヒメバチ亜科の中では最も普通に見られる種であるが, よく似た種が数種いる.

Ichneumon nipponicus Uchida, 1926

キアシホソヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10- VI. 11 (MT); 同, 1 ♂, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

平地から山地で良く見られる種であるが, よく似た種が数種いる.

Platylabus takeuchii Uchida, 1930

タケウチヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

広く分布するが, やや少ない.

Mesochorinae フタオヒメバチ亜科

Mesochorus hashimotoi Kusigemati, 1985

ハシモトフタオヒメバチ (和名新称)

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

本州初記録. 原記載時には北海道, 宮崎, 鹿児島および台湾から記録された (Kusigemati, 1985) が, 間の本州からはこれまで記録がなかった.

Mesochorus semirufus Holmgren, 1860

ツマアカフタオヒメバチ (和名新称)

船越, 1 ♀, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

各地に広くみられる.

Pimplinae ヒラタヒメバチ亜科

Brachyzapus tenuiabdominalis (Uchida, 1941)

ホソハラクモヒメバチ

船越, 1 ♀, 2011. XI. 22.

Dolichomitus melanomerus macropunctatus (Uchida, 1928)

クロコブフシヒメバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 2; 同, 2 ♀, 2011. X. 9; 同, 1 ♀, 2011. XI. 22.

Dolichomitus 属の中では最も普通にみられる種である. 枯れ木に飛来するほか, 貯木場にも多い.

Apechthis capulifera (Kriechbaumer, 1887)

コキアシヒラタヒメバチ

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

Apechthis rufata (Gmelin, 1790)

キフタホシヒラタヒメバチ

船越, 1 ♀, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Pimpla alboannulata Uchida, 1928

シロモンヒラタヒメバチ

船越, 1 ♀, 2014. VI. 17- VII. 9 (MT).

平地の森林で最も多く得られるヒメバチである.

Poemeniinae クチキヒメバチ亜科

Eugalta albimarginalis (Uchida, 1928)

シロスジクチキヒメバチ

船越, 1 ♂, 2014. V. 10.

各種枯れ木に飛来し, 個体数は多い.

Xoridinae マルズヒメバチ亜科

Odontocolon sp.

船越, 1 ♂, 2014. V. 10.

Trigonalidae カギバラバチ科

Taeniogonalos fasciata (Strand, 1913)

キスジセアカカギバラバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 9.

Formicidae アリ科

Myrmicinae フタフシアリ亜科

Crematogaster matsumurai Forel, 1901

ハリブトシリアゲアリ

船越, 2exs., 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Pristomyrmex punctatus (Smith, 1860)

アミメアリ

船越, 1 ♂, 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

Dolichoderinae カタアリ亜科

Dolichoderus sibiricus Emery, 1889

シベリアカタアリ

船越, 1ex., 2014. V. 10- VI. 11 (MT); 同, 1ex., 2014. VI. 11- VI. 17 (MT).

Formicinae ヤマアリ亜科

Nylanderia flavipes (Smith, 1874)

アメイロアリ

船越, 1ex., 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Camponotus obscuripes Mayr, 1879

ムネアカオオアリ

船越, 1ex., 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Camponotus vitiosus Smith, 1874

ウメマツオオアリ

船越, 2exs., 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Vespidae スズメバチ科

Eumeninae ドロバチ亜科

Anterhynchium flavomarginatum micado (Kirsch, 1873)

オオフタオビドロバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 2.

Discoelius zonalis (Panzer, 1801)

フタスジスズバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 9.

Eumenes micado Cameron, 1904

ミカドトックリバチ

船越, 1 ♀, 2011. VIII. 13. 船越, 1 ♂, 2011. X. 2; 同, 1 ♀, 2011. X. 9.

Euodynerus nipanicus nipanicus Schulthess, 1908

ミカドドロバチ

船越, 1 ♂, 2011. VIII. 13.

Orancistrocerus drewseni (Saussure, 1857)

エントツドロバチ

船越, 1 ♀, 2011. VIII. 13; 同, 1 ♀, 2011. X. 9.

Oreumenes decoratus (Smith, 1852)

スズバチ

船越, 1 ♀, 2011. X. 9.

Stenodynerus tokyanus tokyanus (Kostylev, 1940)

ムナグロチビドロバチ

船越, 2 ♀, 2011. X. 2.

Polistinae アシナガバチ亜科

Parapolybia indica indica (Saussure, 1854)

ムモンホソアシナガバチ

船越, 1ex., 2011. X. 9.

Parapolybia varia (Fabricius, 1787)

ヒメホソアシナガバチ

船越, 1ex., 2011. X. 2.

Polistes chinensis (Fabricius, 1793)

フタモンアシナガバチ

船越, 1ex., 2011. VIII. 13.

Polistes nipponensis Perez, 1905

キボシアシナガバチ

船越, 1ex., 2011. VIII. 13; 同, 2exs., 2011. X. 9.

Vespinae スズメバチ亜科

Vespa simillima Smith, 1868

キイロスズメバチ

船越, 1ex., 2009. VII. 18; 同, 1ex., 2011. X. 9.

Vespula shidai Ishikawa, Sk. Yamane & Wagner, 1980

シダクロスズメバチ

船越, 1ex., 2011. X. 9.

Sphecidae アナバチ科

Sceliphrinae ドロジガバチ亜科

Chalybion japonicum (Gribodo, 1883)

ヤマトルリジガバチ

船越, 1 ♀, 2009. VII. 18.

Apidae ミツバチ科

Halictinae コハナバチ亜科

Lasioglossum mutilum (Vachal, 1903)

サビイロカタコハナバチ

船越, 1 ♂, 2011. X. 9; 同, 1 ♀, 2014. V. 10- VI. 11 (MT).

Apinae ミツバチ亜科

Ceratina japonica Cockerell, 1911

ヤマトツヤハナバチ

船越, 2 ♀, 2011. X. 9.

Bombus diversus diversus Smith, 1869

トラマルハナバチ

船越, 1ex., 2011. X. 9.

参考文献

藤江隼平・吉田浩史・安達誠文・吉田貴大・旭和也・藤原淳一・安岡拓郎, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫相—マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目, 双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆虫について—, きべりはむし, 33(2): 4-20.

藤江隼平・吉田浩史, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫相(2)—マレーゼトラップで得られた甲虫目, 双翅目, カマキリ目, 直翅目の昆虫について(追加)—. きべりはむし, 34(1): 3-5.

橋越清一・羽田義任・渡辺恭平・三田井克志・山内健生, 2012. 伯方島のハチ類. 伯方島の生物—第三次伯方島生物総合調査報告—. 愛媛県教育研究会理科部会生物部門編: 168-173, 340-344.

Kusigemati, K., 1985. Mesochorinae of Formosa (Hymenoptera: Ichneumonidae). Memoirs of the Kagoshima University, Research Center for the South Pacific, 6(1): 130-165.

内藤親彦・吉田浩史・中峰空・森田年則・池田隆直・鈴木壽也・中西明徳, 2004. 兵庫県におけるハバチ類の種多様性. 兵庫県立人と自然の博物館 自然環境モノグラフ, (1): 10pls. + 85pp.

Uchida, T., 1930. Beschreibungen der neuen echten Schlupfwespen aus Japan, Korea und Formosa. Insecta Matsumurana, 4(3): 121-132.

兵庫県のゴモクムシ類 (2)

森 正人¹⁾

はじめに

前報に引き続き, ゴモクムシ亜科 Harpalinae の残りの種類について整理する. 種の整理番号は前報から続いている.

各種解説

ツヤゴモクムシ属 Genus *Trichotichnus*

日本には 80 種近くが知られており, 少なくとも 12 種が県内に分布する.

28. チビツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Pseudotrichotichnus) nanus* Habu, 1954

【文献記録】川西市大和, 美方町 Sonae [高橋徹, 2012]

【標本記録】1ex, 香住町小原, 13-VII-2000; 3exs, 上月町上秋里, 16-V-1999; 1ex, 神戸市道場, 5-V-2004; 2exs, 西宮市武田尾, 11-X-2003.

基産地は英彦山. 日本では本州, 九州に分布. 小型の種類で, 樹林の林床, 落葉下, 土壌中などから採集されるが, 個体数は多くない.

29. ウエノツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Pseudotrichotichnus) uenoi* Habu, 1969

【標本記録】1ex, 洲本市柏原山, 2-XI-2002.

模式産地は奈良市春日山. 文献記録は見られなかった. 本州, 九州, 沖縄に分布. 樹林の林床から採集された. 個体数は少ない.

30. ハネグロツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Trichotichnus) lucidus* (Morawitz, 1863)

【標本記録】1ex, 八千代町笠形山, 25-VI-2007; 3exs, 神河町峰山高原, 10-V-2014.

模式産地は函館. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 美しい種類で, 日中に林床を歩行中の個体を見かけたことがある. 峰山高原では湿地のミズゴケの中から, 多くのムネアカマメゴモクムシに混じって複数頭を採集したことがあり, このような環境が本来の生息場所かもしれない. 本種と以下 2 種は *orientalis*-group と

されている. 文献による記録は確認できなかった.

31. オオイクビツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Trichotichnus) nipponicus* Habu, 1954

【文献記録】扇ノ山 [高橋匡, 1982]

【標本記録】3exs, 三原町論鶴羽山, 19-V-2001; 3exs, 洲本市成相谷, 12-X-2002; 1ex, 神戸市道場, 3-I-2005.

基産地は日本複数地. 北海道, 本州, 九州に分布する. 林縁部などで採集されることが多いが, 生息環境がよくわからない.

32. イクビツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Trichotichnus) orientalis* (Hope, 1845)

【標本記録】1ex, 西宮市金仙寺湖, 8-IX-2011.

基産地は China. 日本では本州, 四国, 九州に分布する. 文献記録は見つからなかった. 本種の生息環境も良くわかっていない.

33. ヒメツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Trichotichnus) congruus* (Motschulsky, 1863)

【文献記録】扇ノ山ほか [高橋匡, 1982]; 神戸市六甲山 [八木剛ほか, 2002]; 神河町砥峰高原 [八木剛ほか, 2003]; 神戸市有馬, 川西市大和, 笹部 [高橋徹, 2012]

【標本記録】1ex, 竹野町林, 11-VIII-2000; 1ex, 豊岡市蘇武林道, 14-IX-2013; 15exs, 養父市ハチ高原 550m, 28-IV-2012; 1ex, 川西市一庫, 27-IX-2003; 2exs, 三木市志染町, 24-I-2011; 1ex, 三田市羽東川, 21-IV-2012; 2exs, 神戸市丹生山, 30-III-2003; 2exs, 西宮市武田尾, 12-IV-2012, 伊藤主計; 2exs, 神戸市道場, 3-I-2005; 2exs, 洲本市成相谷, 12-X-2002; 3exs, 三原町論鶴羽山, 14-XI-1999.

基産地は Japon. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 樹林林床で採集されることが多いが, 林縁部ややや開放的な場所で見られることもある. 個体数は比較的多い. 本種と次種は *congruus*-group とされる.

¹⁾ Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

34. エゾツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Trichotichnus septentrionalis)* (Habu, 1947)

【標本記録】 1ex, 宍粟市坂の谷, 6-VIII-2005.

基産地は北海道カムイコタン. 北海道, 本州, 四国に分布する. 林床から採集され, 個体数は少ない. 文献記録は確認できなかった.

35. キュウシュウツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Trichotichnus) vespertinus* Habu, 1954

【文献記録】 氷ノ山 [高橋匡, 1982]; 川西市見野 [高橋敏, 2012]

【標本記録】 1ex, 伊丹市軍行橋 (猪名川), 17-XI-2011.

基産地は英彦山. 本州, 四国, 九州に分布する. 本種と以下3種は longitarsis-group とされている.

36. ヒコサンツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Trichotichnus) noctuabundus* Habu, 1954

【標本記録】 1ex, 三原町諭鶴羽山, 30-X-1999; 1ex, 八鹿町, 22-X-1994; 2exs, 御津町揖保川, 7-VII-2003; 1ex, 伊丹市軍行橋猪名川, 17-XI-2011; 1ex, 西宮市武田尾, 18-IX-2011, 伊藤主計.

基産地は英彦山. 本州, 四国, 九州に分布する. 文献記録はなかった.

37. クビアカツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Trichotichnus) longitarsis* Morawitz, 1863

【文献記録】 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 豊岡市ほか [高橋匡, 1982]; 宝塚市 [高橋敏, 2012]

【標本記録】 5exs, 豊岡市岩井, 12-X-2011; 1ex, 香美町小代区平野, 25-VII-2012, 伊藤主計; 21exs, 香美町大野峠, 22-IX-2015; 1ex, 竹野町林, 11-VIII-2000; 2exs, 養父市八鹿町宿南 (円山川), 19-V-2011; 3exs, 波賀町坂の谷 1200m, 26-VII-2004; 2exs, 生野町段ヶ峰, 14-IV-2001; 3exs, 篠山市福住の池, 9-X-2011, 伊藤主計; 1ex, 川西市一庫ダム, 23-V-2004; 5exs, 神戸市藍那, 10-X-2011.

基産地は函館. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 林縁部などの湿った草地や湿地周辺, 落ち葉下などに多い.

38. オオクロツヤゴモクムシ *Trichotichnus (Trichotichnus) lewisi* Schaubberger, 1936

【文献記録】 扇ノ山 [高橋匡, 1982]; 神河町砥峰高原 [八木剛ほか, 2003]

【標本記録】 1ex, 宍粟市坂の谷, 6-VIII-2005.

基産地は Chuzenji, Kobe. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 県内ではあまり見られなかった.

39. ツヤゴモクムシ属 *Trichotichnus (Trichotichnus) spp.*

【標本記録】 1ex, 波賀町氷ノ山, 24-VII-2004; 1ex, 波賀町音水, 10-VIII-2003; 1ex, 八千代町笠形山, 4-VI-2000; 1ex, 和田

山町鉄鉬山 600m, 7-VII-2001; 1ex, 養父市氷ノ山スキー場, 6-VII-2008.

leptopus-group に属するものが何頭か得られているが, 種を特定できていない.

マメゴモクムシ族 *Stenolophini*

日本では8属が知られており, 兵庫県では以下の7属が確認された.

キベリチビゴモクムシ属 Genus *Dicheirotrichus*

日本には1種が知られており, 県内にも分布する.

40. キベリチビゴモクムシ *Dicheirotrichus (Trichocellus) tenuimanus* (Bates, 1873)

【文献記録】 Hiogo [Bates, 1873]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 猪名川 [高橋敏, 2012]

【標本記録】 1ex, 西宮市武田尾, 30-IV-2011.

基産地は Hiogo, Nagasaki. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 河川周辺に生息するが, 県内では余り見られない.

ヒメゴモクムシ属 Genus *Bradycellus*

日本には9種が知られており, 県内では6種が確認できた. *Tachycellus* 亜属のものは分類が難しく, 交尾器の確認が必要である.

41. コクロヒメゴモクムシ *Bradycellus (Tachycellus) subditus* (Lewis, 1897)

【文献記録】 Hiogo [Bates, 1873]; 氷上郡 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 三原郡鮎屋 [高橋寿郎, 1998]; 南淡町 Fukui, 川西市大和, 芦屋市芦屋川, [高橋敏, 2012]

【標本記録】 2exs, 神戸市淡河, 30-III-1997; 1ex, 西宮市すみれ台, 9-XI-1997.

基産地は Hiogo. 北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 草地環境に多い.

42. クロヒメゴモクムシ *Bradycellus (Tachycellus) anchomenoides* (Bates, 1873)

【文献記録】 甲東園 [高橋敏, 2012]

【標本記録】 2exs, 安富町雪彦山, 24-XII-1994; 1ex, 小野市青野ヶ原, 27-XI-2011; 2exs, 神戸市淡河, 30-III-1997.

基産地は Nagasaki. 北海道, 本州, 九州に分布する. 本種も草地で得られることが多い.

43. オオズヒメゴモクムシ *Bradycellus (Tachycellus) grandiceps* (Bates, 1873)

【文献記録】 Ina river [Jaeger・Wrase, 1994]; 宝塚市, 川西市大和 [高橋敏, 2012]

【標本記録】1ex, 川西市一庫, 27-IX-2003; 1ex, 西宮市すみれ台, 23-XI-2006; 7exs, 三原町論鶴羽山, 24-XI-2002; 30exs, 三原町成相谷, 24-XI-2002.

基産地は Japan, 本州, 四国, 九州に分布. 三原町(淡路島)では晩秋に林縁部の側溝でたくさん見られた.

44. カスガヒメゴモクムシ *Bradycellus (Tachycellus) confusus* Jaeger et Wrase, 1994

【文献記録】Kaibara(Tamba), Kobe, Ina river [Jaeger・Wrase, 1994]; Kaibara [吉武啓ほか, 2011]

【標本記録】1ex, 御津町揖保川, 7-VII-2003; 1ex, 三原町成相谷, 24-XI-2002.

基産地は奈良春日山, 三原町では多くの前種に混じって採集された. オオズヒメゴモクとよく似ており, ♂交尾器の形状によって区別できる.

45. アカクビヒメゴモクムシ *Bradycellus (Desbordesus) laeticolor* Bates, 1873

【文献記録】氷上郡 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 甲東園 [高橋敏, 2012]

【標本記録】1ex, 御津町揖保川, 7-VII-2003; 1ex, 上郡町千種川, 13-IX-1989; 1ex, 大河内町千町ヶ峰, 27-VIII-2005; 1ex, 三原町成相, 12-X-2002.

基産地は Nagasaki, China. 日本では本州, 四国, 九州に分布する. 湿った林縁部などの草地で見られることが多い.

46. マルヒメゴモクムシ *Bradycellus (Bradycelloides) fimbriatus* Bates, 1873

【文献記録】氷上郡 [岸田剛二・辻啓介, 1975]

【標本記録】1ex, 養父市八鹿町円山川, 24-IX-2011; 1ex, 上郡町千種川, 13-IX-1989; 1ex, 大河内町千町ヶ峰, 27-VIII-2005; 1ex, 御津町揖保川, 7-VII-2003; 1ex, 三原町成相, 12-X-2002.

基産地は Nagasaki. 日本では本州, 四国, 九州に分布する. 芳賀 (2009) は本種がモグラ巣穴入り口から複数採集されたことを報告している.

ルイスヒメゴモクムシ属 Genus *Psychristus*

日本には1種が知られており, 県内にも分布する.

47. ルイスヒメゴモクムシ *Psychristus (Nipponobradycellus) lewisi* Schubert, 1933

【標本記録】1ex, 宍粟市音水溪谷, 6-VIII-2005; 1ex, 波賀町坂の谷, 2-VIII-1998.

基産地は Nikko. 本州に分布. 文献記録は確認できなかった. 県内ではあまり見られない.

チビゴモクムシ属 Genus *Acupalpus*

日本には5種が知られており, 県内では以下の2種が確認された.

48. キイロチビゴモクムシ *Acupalpus (Palcuapulus) inormatus* Bates, 1873

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 篠山町雨石山 [林靖彦ほか, 1995]; 洲本市安乎町ほか [高橋寿郎, 1998]; 城崎町 [高倉康男, 1979]; 出石町ほか [高橋匡, 1982]; 神河町砥峰高原 [八木剛ほか, 2003]; 多可郡中町 [松尾隆人, 2003]; 尼崎市, 三田市有馬富士, 川西市大和, 神戸市東垂水, 甲東園, 姫路市夢前川, 明石市 Nakayagi 海岸, 神戸市住吉, 宝塚市, 神戸市須磨, 川西市見野, 笹部, 猪名川町内馬場, 芦屋市芦屋川 [高橋敏, 2012]

【標本記録】10exs, 上郡町柏野 (千種川), 10-V-2003; 5exs, 加古川市権現湖, 29-VI-2014; 1ex, 稲美町, 4-IV-1997; 5exs, 神戸市道場 (武庫川), 4-VII-2006; 2exs, 宝塚市境野, 6-VII-2006; 1ex, 洲本市鮎屋川, 19-IX-1998.

基産地は Nagasaki, China. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島に分布する. 湿った草地や湿地, 河川周辺などに見られ, 個体数は大変多い.

49. ホソチビゴモクムシ *Acupalpus (Setacupalpus) sobosanus* Habu, 1954

【標本記録】1ex, 神戸市藍那, 3-VI-2002; 6exs, 宝塚市玉瀬, 8-VIII-2011.

基産地は祖母山. 日本では本州, 九州に分布する. 文献記録は確認できなかった. 放棄水田で確認された.

ムネミゾチビゴモクムシ属 Genus *Anthracus*

日本には1種が知られており, 県内にも分布する.

50. ムネミゾチビゴモクムシ *Anthracus hormi* (Andrews, 1924)

【標本記録】7exs, 三田市香下, 20-IX-2002; 41exs, 三原町上田池, 6-X-2001.

基産地は Burma, Ceylon, India. 日本では本州, 九州に分布する. 文献記録は確認できなかった. 比較的珍しい種類で, 大きな池沼の岸辺で確認され, 産地での個体数は多かった.

マメゴモクムシ属 Genus *Stenolophus*

日本には16種が知られており, 県内では8種が確認された.

51. ムネアカマメゴモクムシ *Stenolophus (Stenolophus) propinquus* Morawitz, 1862

【文献記録】扇ノ山 [高橋匡, 1982]; 加古川, 川西市大和 [高橋

敵,2012]

【標本記録】2exs, 養父市ハチ高原,14-V-2012;21exs, 神河町峰山高原,10-V-2015;2exs, 加西市段下町,29-IV-2003;4exs, 加古川市八幡町(加古川),24-V-2010;2exs, 篠山市福住の池,9-X-2011, 伊藤主計;1ex, 宝塚市玉瀬,3-V-2010;2exs, 三田市(武庫川),20-IX-2010;1ex, 三田市羽東川,21-IV-2012;1ex, 神戸市藍那,7-VI-2002.

基産地は East Siberia. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布する. 河川草地や耕作地など広い環境で見られるが, 湿った草地での個体数が多い.

52. ツヤマメゴモクムシ *Stenolophus (Stenolophus) castanceipennis* Bates, 1873

【文献記録】Hiogo[Bates,1873]; 篠山町 [岸田剛二・辻啓介,1975]; 洲本市安乎町 [高橋寿郎,1998]; 氷ノ山 [高橋匡,1982]; 多可郡中町 [松尾隆人,2003]; 川西市大和, 神戸市東垂水, 甲東園, 川西市笹部, 猪名川町猪淵 [高橋敏,2012]

【標本記録】2exs, 養父市ハチ高原 550m,28-IV-2012;1ex, 養父市杉ヶ沢,1-VI-2012;1ex, 加美町山口,30-VII-2002;3exs, 尼崎市善法寺(藻川),13-X-2012;10exs, 宝塚市玉瀬,20-IV-2012;2exs, 神戸市烏原,17-VI-2012;1ex, 神戸市有野町,4-VII-1987;1ex, 三原町論鶴羽山,14-XI-1999.

基産地は Nagasaki. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布する. 河川草地や耕作地など広い環境で見られるが, 湿った草地での個体数が多い. *S. iridicolor* Redtenbacher, 1868 は本種のシノニムとされる.

53. ナガマメゴモクムシ *Stenolophus (Stenolophus) agonoides* Batws, 1883

【文献記録】氷上郡 [岸田剛二・辻啓介,1975]; 日高町 [高橋匡,1982]; 川西市笹部, 西畦野 [高橋敏,2012]

【標本記録】2exs, 香住町小原,10-VII-2001; 16exs, 養父市ハチ高原 550m,28-IV-2012; 2exs, 養父市八鹿町宿南(円山川),19-V-2011;2exs, 養父市杉ヶ沢 700m,28-VIII-2011;1ex, 市川町笠形山,12-IV-1998;3exs, 篠山市福住の池,9-X-2011, 伊藤主計;5exs, 宝塚市玉瀬,20-IV-2012;3exs, 神戸市藍那,28-VI-2002;1ex, 神戸市藍那,7-VI-2002.

基産地は Niigata. 日本では本州, 九州に分布する. 河川草地や水辺周辺のやや湿った環境で見られる.

54. クロサマメゴモクムシ *Stenolophus (Stenolophus) kurosai* Tanaka, 1962

【標本記録】2exs, 神戸市藍那,4-VI-2003;1ex, 神戸市淡河,31-VII-1994;2exs, 神戸市唐櫃,20-VII-2002.

基産地は東京. 日本では本州だけに分布するとされるが, 四国でも得られた. 池の周囲や水辺周辺のやや湿った環境で見られる. 文献記録は確認できなかった.

55. タオマメゴモクムシ *Stenolophus (Stenolophus) taoui* Kasahara, 1989

【標本記録】1ex, 神戸市藍那,2-VI-2002.

基産地は神奈川県横浜. 日本では本州に分布. やや湿った草地環境で得られた. 文献記録は確認できなかった.

56. マメゴモクムシ *Stenolophus (Astenolophus) fulvicornis* Bates, 1863

【文献記録】Hiogo[Bates,1963]; 氷上郡 [岸田剛二・辻啓介,1975]; 神河町砥峰高原 [八木剛ほか,2003]; 川西市大和, 笹部, 猪名川町, 甲東園, 西宮市御前浜, [高橋敏,2012]

【標本記録】1ex, 香住町小原,10-VII-2001;1ex, 豊岡市蘇武林道,14-IX-2013;3exs, 養父市八鹿町宿南(円山川),19-V-2011;1ex, 朝来市生野白口,23-VII-2007;3exs, 篠山市三国ヶ岳,16-VIII-2004;2exs, 上月町上秋里,16-V-1999;2exs, 加古川市八幡町(加古川),24-V-2010;1ex, 宝塚市玉瀬,3-V-2010;3exs, 神戸市藍那,28-VI-2002;1ex, 川西市一庫ダム,23-V-2004;5exs, 三原町論鶴羽山,19-V-2001;2exs, 洲本市成相谷,12-X-2002.

基産地は兵庫. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州に広く分布する. 河川草地や耕作地など湿った草地で個体数が多い.

57. イツホシマメゴモクムシ *Stenolophus (Egadroma) quinquepustulatus* (Wiedemann, 1823)

【文献記録】篠山町 [岸田剛二・辻啓介,1975]; 城崎町 [高倉康男,1979]; 出石町ほか [高橋匡,1982]; 川西市大和, 神戸市東垂水, 甲東園, 宝塚市 [高橋敏,2012]

【標本記録】1ex, 洲本市成相谷,12-X-2002.

基産地は India. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島に広く分布するが南日本に多い. 兵庫県ではあまり見られない. 灯火によく飛来する.

58. ミドリマメゴモクムシ *Stenolophus (Egadroma) difficilis* (Hope, 1845)

【文献記録】氷上郡 [岸田剛二・辻啓介,1975]; 篠山町雨石山 [林靖彦ほか,1995]; 豊岡市ほか [高橋匡,1982]; 多可郡中町 [松尾隆人,2003]; 川西市大和, 見野, 笹部, 佐用町大撫山, 三田市八束山 [高橋敏,2012]

【標本記録】11exs, 養父市八鹿町宿南(円山川),19-V-2011;12exs, 加西市段下町,7-Feb.1999;14exs, 加古川市八幡町(加古川),24-V-2010;5exs, 加古川市権現湖,29-VI-2014;4ex, 神戸市有野町,4-VII-1987;5exs, 神戸市道場(武庫川),4-VII-2006;5exs, 神戸市藤原台,17-VI-1987.

基産地は China. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島に広く分布し灯火にもよく飛来する.

キベリゴモクムシ属 Genus *Loxoncus*

日本には1種が知られており, 県内にも分布する.

59. キベリゴモクムシ *Loxoncus circumcinctus*
Motschulsky, 1858

【文献記録】氷上郡 [岸田剛二・辻啓介, 1975]; 篠山町雨石山 [林靖彦ほか, 1995]; 宝塚市 [新家勝, 1988]; 三原郡一宮町 [高橋寿郎, 1998]; 氷ノ山ほか [高橋匡, 1982]; 尼崎市, 三田市有馬富士, 神戸市東垂水, 姫路市夢前川, 甲東園, 三田市大磯, 神戸市住吉, 音水渓谷, 宝塚市, 川西市大和, 見野, 笹部, 芦屋市芦屋川, 猪名川町内馬場 [高橋敏, 2012]

【標本記録】1ex, 豊岡市神鍋高原, 13-VIII-2012; 2exs, 新宮町栗栖川, 13-V-2012; 1ex, 相生市三濃山, 3-VII-1999; 2exs, 社町西古瀬, 7-Feb.-1999; 4exs, 加古川市加古川河口, 4-IX-2011; 11exs, 加古川市八幡町 (加古川), 14-VII-2011; 5exs, 加古川市権現湖, 29-VI-2014; 4exs, 上郡町柏野 (千種川), 10-V-2003; 2exs, 神戸市藍那, 28-VI-2002; 8exs, 神戸市藤原台, 17-VI-1987.

基産地は China. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 南西諸島に広く分布し, 個体数は多い. 湿った草地や耕作地に多い. *Anoplogenus cyanescens* (Hope, 1845) は本種のシノニムとされる.

兵庫県から 59 種のゴモクムシ亜科の記録を整理し報告した. 兵庫県初記録と思われる 14 種を含めて, 比較的多くの種類が記録できた. 松本 (2011) によれば, 「ゴモク」はゴミを意味する関西の方言に由来しているらしい. まさに, ゴミムシらしいゴミムシと言えるだろう. 植物の種子や実を食べる種類が多く, エノコログサやメヒシバの種子食いが観察されているが, チョウセンゴモクムシはメドハギ種子食に特殊化している可能性が示唆されている. 記録の少ない種類は, 特異な食餌植物に依存している可能性があるが, ほとんど解明が進んでおらず, 今後の研究テーマとしては面白い.

最後に, 文献入手でお世話になった伊藤昇さん (川西市), 標本・データを提供していただいた伊藤主計さん (東大阪市) にお礼を申し上げる.

引用文献

Bates, H. W., 1873. On the Geodephagos Coleoptera of Japan. Trans. Ent. Spc. London, Part II, 219-322.
Habu, A., 1973. Carabidae; Harpalini (Insecta; Coleoptera). Fauna Japonica. Keigaku Publishing.
芳賀馨, 2009. モグラ巣穴の入口部から採集されたマルヒメゴモクムシ. 甲虫ニュース, (167):19.
林靖彦ほか, 1995. 1989 年度, 雨石山に於ける甲虫相調査報告書. Kasuga, 11; 3-7.
堀田久, 1976. 先山の昆虫相 (1). Parnassius, 16; 11-32.
市原実, 2007. 農地地表面における昆虫による雑草種子

捕食量の推定. 日本昆虫学会第 67 回大会講演要旨集.

井上寿, 1972. オオズケゴモクムシの生活史. 昆虫と自然, 7(12):10-11.

Ito N., Species of the genus *Harpalomimetes* (Coleoptera, Carabidae, Harpalini). Elytra, Tokyo, 23 (2): 267-282.

石田裕, 1957. トゲアシゴモク本州に産す. 昆虫学評論, 8(1):4.

石谷正宇, 1996. 環境指標としてのゴミムシ類に関する生態学的研究. 比和科学博物館研究報告, 34:1-110.

Jaeger B. & D. W. Wrase, 1994. Revision der Ostasiatischen Arten des *Bradycellus*-subgenus *Tachycellus* Morawitz; 2. Teil: Die *B. curtulus*- und *chinensis*-Gruppe und Ergänzungen zur *B. anchomenoides*-Gruppe. Linzer biol. Beitr. 26(1): 443-513.

Kataev B. M., Ground-beetles of the genus *Harpalus* Latreille, 1802 (Insecta, Coleoptera, Carabidae) from East Asia. Steenstrupia, 23: 123-160.

岸田剛二・辻啓介, 1975. 兵庫県多紀郡篠山町附近の歩行虫. きべりはむし, 4(1/2):16-25.

九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター共同編集, 1989. 日本産昆虫総目録.

Löbl・Smetana, 2003. Catalogue of Palaearctic Coleoptera, Apollo Books.

松本和馬, 2010. ゴミムシ群集による環境評価. 地表性甲虫談話会会報, (10):4-9.

松本和馬, 2011. 「ゴモクムシ」の意味. 地表性甲虫談話会会報, (11):2.

松尾隆人, 2003. 多可郡中町の自宅灯火で得た甲虫. きべりはむし, 31(1):48-51.

森正人, 2015. 兵庫県のゴモクムシ類 (1). きべりはむし, 38(1):13-19.

森正人, 2012. チョウセンゴモクムシの食餌植物について. Sayabane N.S.(5)58-60.

新家勝, 1988. 宝塚大橋の甲虫 (その 1). きべりはむし, 16(1):17-19.

澄川大輔, 2009. 北海道におけるゴモクムシ類の植食性について. jezoensis, (35):56-57.

高橋敏, 2012. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録 (2). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, 初宿成彦編, (44):57-90.

高橋匡, 1982. 但馬地方昆虫目録 (予報第 7 報). Iratsume, 6:57-76.

高橋寿郎, 1998. 淡路島産甲虫目録 (1). Parnassius, 47:1-9.

高倉康男, 1979. 城崎産甲虫数種の記録. きべりはむし, 7(2):29.

- 吉武啓・栗原隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司,2011.
研究資料農業環境技術研究所所蔵の土生永申コレクション (昆虫綱;コウチュウ目;オサムシ科) 標本目録. 農業環境技術研究所研究報告,(28).
- 八木剛ほか,2003. 砥峰高原の昆虫相. きべりはむし,31(1);1-9.
- 山本義丸,1958. 兵庫県氷上郡昆虫目録,氷上の自然第3集. 兵庫県立柏原高等学校生物教室.



28. チビツヤゴモクムシ



29. ウエノツヤゴモクムシ



30. ハネグロツヤゴモクムシ



31. オオイクビツヤゴモクムシ



32. イクビツヤゴモクムシ



33. ヒメツヤゴモクムシ



34. エゾツヤゴモクムシ



35. キュウシュウツヤゴモクムシ



36. ヒコサンツヤゴモクムシ



37. クビアカツヤゴモクムシ



38. オオクロツヤゴモクムシ



39. ツヤゴモクムシ属



40. キベリチビゴモクムシ



41. コクロヒメゴモクムシ



42. クロヒメゴモクムシ



43. オオズヒメゴモクムシ



44. カスガヒメゴモクムシ



45. アカクビヒメゴモクムシ



46. マルヒメゴモクムシ



47. ルイスヒメゴモクムシ



48. キイロチビゴモクムシ



49. ホソチビゴモクムシ



50. ムネミゾチビゴモクムシ



51. ムネアカマメゴモクムシ



52. ツヤママゴモクムシ



53. ナガマメゴモクムシ



54. クロサマメゴモクムシ



55. タオマメゴモクムシ



56. マメゴモクムシ



57. イツホシマメゴモクムシ



58. ミドリマメゴモクムシ



59. キベリマメゴモクムシ

若人に託した科学一等國の夢～昆虫男爵高千穂宣麿の生涯

保科 英人¹⁾

I. 帝国議会で吠える昆虫男爵

時は大正時代。「国立自然史博物館を建設せよ」「国立水産試験場を設置せよ」と、帝国議会で国立研究機関の充実を訴え続けた一人の虫屋貴族院議員がいた。その名を高千穂宣麿(たかちほ・のぶまる)男爵(1864-1950)と言う(写真1)。

高千穂宣麿は英彦山神社(現在の英彦山神宮、福岡県添田町、写真2)の宮司を務める傍ら、英彦山を中心として採集三昧の生活を送った。彼の生涯を簡単にまとめると、元治元年(1864年)12月15日、幕末の動乱さなかの京都に尊攘派公家の徳大寺実則の次男として生まれた。明治3年、高千穂は父と共に京都から東京へ移住した。上京後、明治5年～7年まで訓蒙学舎で主にドイツ語を学んだ。その訓蒙学舎の閉校のち、明治7年に芳野金陵の漢学塾に移籍する。さらに明治10年には華族の子弟の教育を主目的とした学習院に入学した。

学習院入学2年後の同12年には学習院を退校し、翌13年に学農社に移った。さらに明治14年、高千穂は学農社から共立学校(現在の開成学園)に転学し、博物学で身を建てんと大学予備門入学を目指していたが、彼の人生に大きな転機が訪れる。明治16年徳大寺家を出て、九州福岡の英彦山座主の高千穂家の養子となり、英

彦山神社の宮司に就任する事が決まったのである。

宣麿は同年6月13日に高千穂家を継ぎ、同月28日には早くも宮司となった。翌17年7月、華族令制定に伴う公侯伯子男の五爵制度によって、高千穂は男爵の爵位を授けられた。大学で正規に博物学を学ぶと言う高千穂の夢は高千穂家に養子になった事で頓挫したわけだが、彼の博物学に対する情熱は終生揺らぐ事はなかった。高千穂は自然豊かな英彦山の地で動物採集に明け暮れる事となる。

明治30年5月29日、高千穂は後述する理由で英彦山神社宮司を辞職したが、翌31年10月19日には復職している。この宮司職を離任していた頃、彼は英彦山に昆虫学実験所を設立する計画を立てた。明治31年4月には昆虫学実験所敷地の工事を開始、明治33年建物の一部が落成した事を契機として、彼は高千穂昆虫学実験所を発足させた。

明治35年6月、高千穂は米国留学帰りの桑名伊之吉を英彦山に迎えた。高千穂昆虫学実験所は九州昆虫学研究所と名を変え、新たなスタートを切る事となる。しかし、僅か1年後の明治36年春には、桑名伊之吉が農商務省農事試験場に引き抜かれてしまい、九州昆虫学研究所は講習会などの事業を中断せざるをえなくなった。高



写真1 高千穂宣麿(大正4年当時)。



写真2 現在の英彦山神宮。

¹⁾ Hideto HOSHINA 福井大学教育地域科学部

千穂は落胆したが、めげる事なく昆虫の飼育や採集を続け、研究所を一人で支えた。

明治40年夏、彼は貴族院議員に選ばれた。再び英彦山神社宮司を辞任し上京する事となる。そして、東京では本職である議員活動に加え明治41年3月に西ヶ原の農商務省農事試験場嘱託となって害虫研究をも行う事となった。また、高千穂は研究活動に勤しむ傍ら大正6年3月設立の東京昆虫学会に対して準備の段階で多々援助を与えるなど、学界全体の発展にも心を配った。

明治44年7月任期満了に伴う貴族院議員選挙で高千穂は議席を失う。しかし、高千穂は東京に留まり続け、その4か月後の11月には東京帝室博物館（現在の東京国立博物館）天産部嘱託となり昆虫研究を継続した。

大正7年7月の貴族院議員選挙で高千穂は二度目の当選を果たした。大正13年3月、高千穂は東京帝室博物館の臨時天産部列品整理掛が置かれ、整理顧問に任命されている。

大正14年7月の選挙で彼は再び落選した。東京の邸宅を引き払った正確な年月日は不明だが、遅くとも翌15年の後半までには第二の故郷とも言うべき英彦山に引き揚げた。彼は同地で再び採集三昧の生活をおくる事になる。

昭和10年、高千穂は私有地一万坪と自らが収集した標本を九州帝国大学に寄贈、翌11年には福岡県出身の実業家の中山悦治によって同地に造られた建物が九大に寄付された。これが九州帝国大学附属彦山生物学研究所で、同年10月20日秋晴れの日に開所式が挙行された。

戦後、高千穂は昭和24年に昆虫学会への貢献が大きいとして日本昆虫学会の名誉会員に推戴されたが、翌25年12月23日86歳で逝去した。なお、昭和46年に彦山生物学研究所は九州大学農学部附属彦山生物学実験所と改称されたが、残念ながら平成10年に実験所としては廃止された。実験所の建物は彦山生物学実験施設と名称変更され、今や専任教員を持たず、学生実習等の



写真3 現在の九州大学農学部附属彦山生物学実験施設。

ための大学施設として維持管理されるにすぎなくなったが、今なお高千穂が愛した英彦山の地に建っている（写真3）。

純粹に学問実績として見た場合、高千穂が発表した諸論文は、同時代に生きた桑名伊之吉や佐々木忠次郎ら近代を代表する昆虫学者のそれと比ぶべくもない。むしろ、高千穂の日本の昆虫学界への大きな貢献は、明治33年英彦山に設立した高千穂昆虫実験所や、昭和11年に多くの標本とともに九州帝国大学に寄贈された附属彦山生物学研究所を創設した事など、ハード面の提供にある。総合的に見て昆虫学発展に寄与した高千穂の業績は頗る高く、逝去の前年に昆虫学会名誉会員に推されたのは明明白白と言わねばならぬ。現在、九州大学は日本の昆虫分類学を牽引する一方の旗頭であるが、その源流の一つは高千穂の博物学精神にあると言っても過言ではあるまい。

II. 史料として疑問符が付く『鶯嶺仙話』

高千穂宣麿の略歴を表にした。これまで一般人が手軽に調べられる高千穂の略歴と言えば、『殿様生物学の系譜』（朝日選書）にも収録されている小西（1990）の概説がほぼ唯一のものであった。しかし、筆者の手による文章末の表の高千穂の履歴と小西（1990）の概説は基本的には同じとは言え、異なる点も多い。本稿（I）で記した高千穂の履歴の各事項の年代も微妙に小西（1990）のものとは差異がある。もちろん、筆者の立場では「本稿の方が正しい」と言わざるを得ない。

博学で知られた故小西正泰氏の高千穂宣麿の概説に誤りが多いのは、小西が報文を書く際に基礎資料とした『鶯嶺仙話』（高千穂、1946）の記述がそもそもいい加減だからである。残念ながら大半の昆虫学者は史料批判と言う概念を持っていない。ただ、高千穂の生涯を追跡する際に『鶯嶺仙話』以外に資料がない事績については、これに無条件に従わざるを得ない事も付け加えておこう。

『鶯嶺仙話』とは、高千穂宣麿の口述回想談を主に九大昆虫学教室初代教授の江崎悌三がまとめた高千穂の自伝である。つまり、本の表紙には“高千穂宣麿”との著者名が記されているものの、実質的編著者は江崎である。よって、『鶯嶺仙話』の記述に誤りがあると指摘するのは、江崎悌三の著述内容が間違っていると言うに等しい。九大虫屋の系譜の末端に位置する筆者としては、江崎批判は神をも恐れぬ所業であるが、事実は事実として正さねばなるまい。

筆者は無駄としか思えない1年以上の調査期間と少なからぬカネを使って、高千穂宣麿の小伝を発表した（保科、2015）。本稿は言わば拙文から高千穂の事績の一部のみを抜粋したものである。拙文で引用した参考文献や資料名は本稿では省略した。根拠文献や高千穂の全

生涯を知りたい物好きな方は保科 (2015) を参照していただきたい。ただ, (IV) に関しては保科 (2015) 発表以降に新たに発掘した資料に基づいた章なので, (IV) で引用した文献資料については全て本稿末尾に列記してある。

なお, 本稿で「高千穂の回想によると〜」「自伝によると〜」「『鶯嶺仙話』によると〜」等の記述は全て高千穂 (1946) を指し, 以後逐一引用しない事をご承知願う。

III. もしかしたら日本最大の私立昆虫学研究所が 建てられていた?

歴史学者気取りのライターによる「こうすればカルタゴのハンニバルはローマを落とせていた」「こう戦えば関ヶ原の戦いは西軍が勝っていた」等の駄作は枚挙にいとまがない。史学の世界では if を書き連ねる事に意味はないとされるが, 所詮筆者は歴史学者に非ず。戯文と自覚しつつ高千穂にまつわる if を書いてみよう。

前述の通り, 高千穂宣麿は公家の名門の徳大寺家に生まれ, 明治 16 年に高千穂家に養子に入った。妻は四辻家 (のち室町家) の令嬢なのでいわゆる婿養子ではない。保科 (2015) は養子縁組に至る過程の一端を明らかにしたが本稿では詳細を述べない。ここでは, 五摂家の一つ鷹司家の幹旋があって宣麿の高千穂家入りが成立したとだけ申し上げておこう。

養子縁組成立までの交渉の中で鷹司家は「徳大寺家には別の京都在住の別の御曹司もいるが, こちらの方は一条家の方に養子が決まっているようだ」との情報を高千穂家側に漏らしている。京都在住中の徳大寺家の子息とは徳大寺隆麿の事で, 宣麿から見て叔父にあたる。もっとも叔父と言っても隆麿と宣麿はほぼ同じ年月日に生まれているので同年齢だ。明治 16 年当時, 一条家が養子を探していたのは事実だが, 実際に同家に養子に入ったのは四条家出身の實輝である。鷹司家が掴んでいた情報の真偽は不明だが, 結果的に徳大寺隆麿が一条家の養子にならなかったのは厳然たる事実だ。

筆者はここでどんな妄想まみれの if を披露したいのか。一条家入りが内定していたとの話がある徳大寺隆麿は後に財閥住友家に養子に入り, 友純 (= 春翠) と名乗った。つまり, 歴史の歯車が 2 つも 3 つも違えていけば, 隆麿が高千穂家に入り, 一方の宣麿が住友家を継いだのではないか。さすれば, 住友財閥の財力を背景に, 世界に冠する私立昆虫学研究所が建設され, その研究所は今も日本の昆虫学をリードしていたかもしれない……このように全く無意味とは承知しつつ空想を膨らませるのは良い暇潰しにはなる。もっとも, 虫の事しか考えない宣麿を住友財閥の指導者として戴いたがために, 平成の世に“住友”との名を冠する企業は残っていないはず, と冷笑する事も可能である。

IV. “狩猟名人” との評価の裏側で

高千穂宣麿は動物学者の波江元吉をして「(高千穂氏は) 銃猟巧妙」と言わせるだけの狩猟技量を有していた。高千穂が収集した鳥獣類剥製標本の数はかなりの数に上ったはずだが, 残念ながら高千穂自身が捕ったと確認できる鳥獣類標本は, 現在の九大農学部附属彦山生物学実験施設には残されていない。

さて, 狩猟に関して高千穂はやや「おいたが過ぎた」事がある。平成 28 年年明け, 筆者は国立公文書館所蔵「男爵高千穂宣麿犯罪処分ノ件」(公文雑纂・明治二十二年第十一巻. 司法省一) との文書を閲覧した。「高千穂宣麿公は彦山生物学研究所を作った偉い人」との観点を持つ九大虫屋関係者からすれば我が目を疑う資料名だ。なお, この資料については従来虫屋の間で存在が全く知られていなかったものなので, 本稿末にて全文を掲載する事とした。

もっとも罪状の内容は「高千穂ならさもありなん」と称せる 2 件である。一件目は高千穂が銃猟免許を取得したのは明治 22 年らしいのだが, その前年の同 21 年 4 月に銃で猫を楽しんだ事。要するに無免許狩猟である。二件目は免許取得後に銃猟禁制の場所, つまり禁猟区や人家付近で銃をぶっ放し, これまた違法な猟をした事である。残念ながら明治 21 年時の英彦山神社の記録日誌は失われており, 無免許銃猟の詳細については判然としない。翌 22 年分の日誌は現存するも筆者の力量では読解しきれず, 二件目についても高千穂がいつ法律違反をやらかしたかは特定できない。だが, 同 22 年 5 月 13 日には小倉軽罪裁判所から高千穂家の家扶の出頭指示が神社に届いている事が読み取れた。これが高千穂の法律違反に関する事情聴取だったと思われる。この推測が正しいとすると, 明治 22 年は 3 月初旬から 4 月末まで宣麿本人は東京に滞在していたので, 彼が人家近くで銃をぶっ放したのはこの年の 1 月か 2 月あたり, と言うのが妥当な計算になろう。もっとも法律違反が地元民にすぐにバレて即座に官憲に通報されたとすれば, 5 月初旬に違反をやらかしたと考えるのも不可能ではない。

明治 9 年 5 月 24 日太政官達「華族懲戒例」第一条では「華族ハ国民中貴重ノ地位ニ居ル故ニ, 其過失或ハ体面ヲ汚スモノハ仮令法律ニ触レサルモ仍ホ之ヲ懲戒ス」と定められている(霞会館諸家資料調査委員会編, 1985; 酒巻, 1987)。ようするに「ノブレス・オブリージュ」と言うやつだ。高千穂がしでかした事は微罪ではあり, 「華族懲戒例」第二条が定める譴責, 謹慎, 蟄居の重い処分を食らう事はなかった。

しかし高千穂は華族である以上, 事件処理について一般人のように簡単にはいかない。福岡軽罪裁判所小倉支庁検事の藤崎又三は, 山田顕義司法大臣宛の明治 22 年 6 月 26 日付報告で, 1) 高千穂に対しては罰金刑を処

する事が妥当である事、2) 事実確認のため被告人(=高千穂)の出廷の必要がある事、等を進言した。結局、山田法相の明治天皇への上奏は同年7月16日になされ、翌17日には裁可を得ている。ちなみに、この時の明治天皇の侍従長は高千穂の実父の徳大寺実則。徳大寺は息子の不祥事に「何やってんだよ」と頭を抱えたのであろうか。

さて、この頃高千穂及び英彦山神社は別の採め事を抱えていた。英彦山神社と小倉の教派神道・神理教との間の英彦山教会に関する激しい論争が起こっていたのである。弱り目に祟り目とはこの事か。

英彦山教会とは何か。明治維新直後の神仏分離で英彦山神社は旧檀那を失い、同神社と旧修験者は経済的打撃を受けた。英彦山教会とは英彦山を中心とした宗教組織の再結集を目的とした組織で、明治13年2月に開設届を福岡県令に提出するに至ったが、内部対立により同15年には崩壊した(須永, 2015)。

しかし騒動はそれで収束しなかったらしい。その後の採め事については、現在九州産業大学の須永敬准教授が研究を進められており、筆者が本稿にて言及するのは差し控えさせていただく。ただ、明治22年7月、つまり高千穂の無免許銃猟処分云々とほぼ同じ時期に、英彦山神社は英彦山教会に関連した裁判に巻き込まれていた、とだけ述べておこう。あと、高千穂が無免許銃猟に関する検事の事情聴取に応じたか、つまり本人がおとなしく小倉の裁判所へ出頭したかについては定かでない事も付け加えておく。

ただ、司法大臣の上奏が裁可された以上、高千穂が狩猟に関し犯罪処分を食らった事は確かだが、自伝『鶯嶺仙話』は知らぬ存ぜぬ、そんな事は一言も触れられていない。“狩猟名人”高千穂としては情けない話ではある。

筆者は保科(2015)にて「大正10年の第45回帝国議会の『狩猟法中改正法律案特別委員会』の委員になぜ高千穂が選出されなかったのだろうか?」と疑問を呈した。委員会委員の指名権を事実上独占していた徳川家達貴族院議長が、明治21年4月の高千穂の無免許銃猟の“悪事”を承知していたかは不明だ。だが、現代の観点から言えば、高千穂が狩猟法中改正法律案を審議するのは倫理的にやや問題がありそうで、徳川議長が高千穂を委員会メンバーから外したのは結果的に正しかったと言う事になるだろう。

V. 仕事をサボって虫捕りした日本人第一号

タカチホヘビの名は九州高千穂地方で発見されたからではなく、高千穂宣麿が日本人として初めてそのヘビを捕った事に由来する、と言うのは知る人ぞ知る逸話である。また、珍鳥ヤイロチョウを撃つ事に成功した最初の日本人も高千穂であるらしい。しかし、高千穂は三箇目

の日本人第一号の勲章を得る事ができるようだ。それは「記録で確認できる、仮病を使って仕事をサボって虫捕りに行った最初の日本人」と言うものだ。

明治27年6月19日、高千穂は「宿病有之転地療養ノ為メ来ル七月十日ヨリ往復ヲ除キ五十日間東京地方江旅行」の申請書を福岡県庁経由で内務大臣宛に送った。ようするに病気による50日間の欠勤届を提出したわけである。英彦山神社のような官弊社の神官は言わば国家公務員なので勝手に長期休暇を取るわけにはいかない。

しかし、これは全くの仮病である。なぜなら高千穂は上京後に浅間山へ登り、同山中で数日を過ごすと言う過酷な昆虫採集をしているからである。高千穂は『鶯嶺仙話』の中で「(浅間山中) ミヤマオツネテフをたくさん採集することが出来た」などと無邪気な感想を述べているが、伝記編集のためにこの回想を口述筆記した江崎梯三九州帝国大学教授も、まさか目の前にいる高千穂が仮病を使ってまで虫捕りしていたとは夢にも思わなかっただろう。

「いやいや、高千穂は確かに病気治療で上京したはずだ。しかし、東京で体調が回復したから昆虫採集に行ったのだ」と超好意的な見方をしたくなる人もおもしろくない。しかし、残念ながらその見方は成り立たない。と言うのも、高千穂は上京前にわざわざ福岡“鹿ノ嶋”(志賀島の事か?)に立ち寄り海産動物の採集を楽しんでいるからである。高千穂の宿病(=持病)とは「昆虫採集激甚渴望症候群」だったとしか思えない。

幸か不幸か高千穂が英彦山を留守にしている明治27年7月、日清戦争が勃発。官弊小社の英彦山神社は現代風に言えば国家機関なので、戦争協力は言わば業務の一環である。8月7日、英彦山神社は直ちに戦勝祈願の臨時祭典の執行を決定するが、高千穂宮司様は“虫捕り”で不在なのでやむなく宮司代理が役目を務めた。

虫捕りで留守にしているだけならまだ救われる。その頃、国家の一大事に我らが高千穂は何をしていたかと言えば、東京でカネを使いすぎたらしく、「帰りの旅費が足りないから20円送って」と神社側に要求して来る始末。結局、高千穂が英彦山に戻った8月18日には日清戦争の初戦の山場は終わっていた。高千穂宮司は何の役にも立たなかったわけである。英彦山神社の人々の「何でこんな人を養子に貰っちゃったんだろ」との嘆息が聞こえてくるようではないか。もちろん、平成の虫屋からすれば、「仮病を使ってでも虫を捕りに行く」なんぞは名誉でありこそすれ、恥ずべき事では断じてない。

VI. 誤りが多すぎる『鶯嶺仙話』の貴族院議員時代の記述

『鶯嶺仙話』が事実を最も正確に伝えていないのは高千穂宣麿の貴族院議員時代に関する箇所である。本稿では主要な5つの誤り、ないしは恐らくは意図的な事実隠

しを指摘しておこう。

まず、明治 23 年、すなわちアジアで最初の国会が大日本帝国で開かれた年であるが、高千穂は英彦山神社宮司を辞任する事を決意した。目的は貴族院議員に当選するためである。辞表は福岡県庁を経て内務省に進達されたが、その後この辞表がどう扱われたかは不明だ。結果的に彼は辞任していないので、辞表はどこかの段階で却下されたか差し戻されたはずである。第一回帝国議会開会の段階で高千穂が貴族院入りしようと画策した事について、『鶯嶺仙話』は全く言及していない。

次に自伝は明治 30 年に高千穂がつくづく嫌気がさして宮司を辞任したとあるが、本当の理由は同年 7 月の貴族院議員選挙に打って出るためだ。解散がない貴族院議員の任期は 7 年なので、明治 30 年は必然的に貴族院議員選挙の年と言う事になる。『鶯嶺仙話』が語る明治 30 年の宮司辞職の理由は意図的に真相を隠蔽しているわけだ。

高千穂のこの時の宮司辞職の意志は強かった。高千穂は明治 30 年 5 月初旬には東京の方へ辞任の意思を伝えており、同 5 月 7 日には東京から「辞職表は福岡県庁に出すように」との指示を受け取っている。事実かどうかはともかくとして、7 年前の明治 23 年に宮司を辞められなかったのは福岡県庁の阻止にあったから、と高千穂は認識していたのではあるまいか。よって、明治 30 年の貴族院議員選挙では万全の手を打つべく福岡県庁を頭越しに先に東京の方へ直接辞職を働きかけていたのではないかと、言うのが筆者の憶測である。

結局、高千穂は宮司職そのものは無事辞める事ができたものの、貴族院議員選挙には落選した。さて、ここでも無意味な if を語る事ができる。仮に明治 30 年の段階で高千穂が議員選挙に当選し、東京へ行ってしまっていたらどうなっていたら？まず桑名伊之吉が明治 35 年から翌年まで在籍した九州昆虫学研究所が存在しなかった事は確かだ。この九州昆虫学研究所と後の九州帝国大学附属彦山生物学研究所との間に直接の系譜関係はない。しかし、高千穂が明治 30 年の時点で東京にしっかりと生活基盤を築いたとすれば、後に彦山生物学研究所が世に送り出されなかった可能性は小さくない。同研究所が九大農学部昆虫学教室、ひいては日本の昆虫分類学進展に与えた恩恵少なからぬ事実を鑑みると、九大虫屋の筆者は「高千穂がこの時落選してよかった」と思わずにはおれない。

三番目に、高千穂は明治 40 年に貴族院議員に選ばれたから宮司を辞めたと回想するが、正しくは同年 6 月 14 日にまず宮司辞職、そして同 8 月 3 日に補欠選挙で当選である。つまり順番が逆なのである。

四番目に、高千穂は叔父の西園寺公望が首相になったのを契機として貴族院議員になったと言うが、これも

明らかにおかしい。と言うのも、伯爵・子爵・男爵議員はそれぞれの爵位保持者による互選で選ばれるからだ（注、公爵と侯爵は選挙を経る事なく自動的に貴族院に籍を与えられる）。したがって、首相と言えど当時侯爵だった西園寺が（のち公爵）男爵議員選挙に直接関与できるものではない。また、高千穂は受け身で議員になったのではなく、運動費を使ってまで当選した事が明らかになっている。

最後に、『鶯嶺仙話』を読む限りでは、高千穂の明治 40 年から大正 14 年の東京在住期、彼はずっと貴族院議員だったと読者は解釈してしまう。しかし、明治 44 年の任期満了に伴う選挙で高千穂は落選、次の大正 7 年の選挙で二度目の当選をしているので、彼の議員在任期間は正しくは「明治 40 年～明治 44 年及び大正 7 年～大正 14 年」となる。つまり、『鶯嶺仙話』巻頭の彼の写真及びそれを引用した小西 (1990) の「貴族院議員時代 大正 4 年」との説明文は明らかに間違いだ。高千穂の議員在任期については、多くの公立図書館で閲覧できる『議会制度百年史』（衆議院・参議院編, 1990）等の書籍でも「明治 40 年～大正 14 年」と誤記されているので余計に始末が悪い。ちなみに高千穂のために弁護するなら、彼が明治 44 年の選挙で落選したのは、個人的資質がどうのこうのと言う話ではない。単に高千穂が所属していた政治会派の木曜会が選挙で大敗した結果である。

『鶯嶺仙話』では、高千穂は大正 2 年に東京帝室博物館出仕となったと記すが、正しくは明治 44 年 11 月だ。そして、おそらくは博物館出仕時期は同年 7 月の選挙で彼が落選した事と関係がある。議員歳費を失った高千穂は日銭を稼ぐ必要もあって博物館嘱託となったのだろう。ちなみに博物館嘱託の彼の月給は 20 円だったそうである。

『鶯嶺仙話』の上記の誤りの詳細については保科 (2015) を参照していただきたいが、ここでは二度にわたる宮司辞任の時期についてだけ解説しておこう。明治 30 年 7 月及び明治 40 年 8 月の議員選挙直前に、高千穂が宮司を先に辞任していたのは明確な理由がある。それは貴族院議員選挙において神官は被選挙権を持たないと規定されていたからである。

つまり自伝にある「余はそれまで英彦山神社宮司の職にあつたが、この機会（注、貴族院議員になった事）に之も嗣子俊麿に譲り辞任した」との彼の回想は明らかに取り繕って書かれたもので、正しくは「余は貴族院議員に当選する為に予め宮司を辞めておいたのだ」としななければならない箇所である。

戦前に教育を受け当代随一の知識人だった江崎悌三は貴族院議員選挙の仕組みの大凡は承知していたはずだが、被選挙権の規定にまではさすがに思いが及ばず、伝

記編集の際に疑問を抱かなかつたのかもしれない。

VII. 帝国議会における高千穂宣麿

明治 23 年と明治 30 年の両年に貴族院議員に当選すべく画策するも果たせず、執念実って明治 40 年の補欠選挙でようやく念願叶った高千穂宣麿であるが、帝国議会における彼の議員活動は活発とは言えない。本議会で国務大臣に論戦を挑むなどの行状は見せていないからだ。しかし、高千穂は各委員会でいくつかの激しい発言を残している。本稿では彼が国立研究機関の充実を強く主張していた事実を紹介しよう。

第 41 回帝国議会会期中の大正 8 年 2 月 25 日の請願委員会にて、この日、「水産試験場設置ノ請願」が審議された。その摘要は、現在水産の試験は水産講習所及び各府県立水産試験場が行っているが、相互の連絡を欠き試験方法の統一がない。また経費が不足し良好な結果が得られていない。よって、全国を数区に分け、各区に国立水産試験場を設けてほしいと言う請願である。しかし、政府委員の村上隆吉（農商務省水産局長）はどちらかと言えば請願採択に消極的な姿勢を見せた。

請願委員会の委員だった高千穂曰く、日本の近海の調査は全て外国の資産家なり学者によって行われ、その調査報告が現在の日本の水産業の重要な資料となっている。これは一等国として恥ずべき事である。現在の水産講習所は漁業者を育成する場に過ぎない。水産研究の脳髓となるべき研究者については、今後、大学から優秀な人材が大量に供給されるであろうから心配する事はない。また、そういった人材の活動の場を確保するためにも国立水産試験場を設けるべきだ、と主張した。

研究機関構想に関して高千穂が最も高い見識を披露したのは同じく第 41 回帝国議会の時である。大正 8 年 3 月 10 日「工業原料植物研究所設置ニ関スル建議案」が議事に上がった。発議者は徳川頼倫侯爵以下 7 名、賛成者は蜂須賀正韶侯爵以下 45 名である。この建議案は文字通り工業用の原料植物を研究する国立機関を設置せよと言うものである。議案は特別委員会に付託される事となり、徳川家達議長の名で高千穂は委員の一人に選ばれた。

「工業原料植物研究所設置ニ関スル建議案特別委員会」は大正 8 年 3 月 17 日に開かれた。本会議で建議案の論壇に立った三宅秀議員は、特別委員会のメンバーではなかったが、委員会に出席し冒頭でも建議案の説明を行った。この三宅秀は嘉永元年生まれ。漢学、蘭学、医学等を修め、のちフランスに留学、帰国後は医科大学教授や医科大学長などを歴任した医学博士だ。おそらくは発議者議員の中で学術理論面での中心人物であったと思われる。

学歴で言えば、学習院中退の高千穂は医学博士の三

宅に遠く及ばない。しかし、そんな事でひるむ高千穂ではない。高千穂は三宅に問う。「なぜ工業原料を植物に限るのか?」と。三宅からすれば妙な質問だ。高千穂は「昆虫の中にも工業材料を生産できるものがあるではないか。例えばカイガラムシの一種がこしらえるロウ物質は建築材料にも応用できる。新施設の研究対象を植物に限った理由を述べよ」と畳みかけた。三宅は動物もまた植物と同様に工業原料となりうる事は認めたものの、動物の生産物を代替できる植物はある、とあくまで研究対象は当植物に限定すべきとの考えを繰り返した。

高千穂はこれ以上「新植物研究機関は昆虫をも扱うようにせよ」との自説にはこだわらなかったが、その後彼の主張は全く別方向に向かう。高千穂は言う。外国では植物研究のような仕事は博物館で行われている。日本国民の中には博物館とは標本を収集し陳列する場所だと考えているものがある。しかし、博物館はそういう施設ではない。博物館の本来の仕事はまずは学術研究、そして社会教育のはずである。つぎに高千穂は改めて「工業原料植物研究所設置ニ関スル建議案」に賛意を表明した後、「(自分の) 眼目ハ博物館ノ中ノ天産博物館、其中ノ植物研究所ヲ拵ヘルト云フ意見デ以テ此植物研究所ヲ賛成スル次第デアリマス」と述べ、「国立ノ天産博物館ト云フモノガ出来テ其博物館ニ於テ総テ斯ウ云フコトヲ研究スルコトガ出来マシタナラバ初メテ一等国タル日本國ヲ樹立スルコトガ出来ルダラウ」と締めくくった。つまり、高千穂の真意は工業原料植物研究所建設への単純な賛成ではなく、まずは国立天産博物館を設置し、その付属研究機関として工業原料植物研究所を設けよと要求する事であった。

高千穂は帝国議会特別委員会の場で「国立自然史博物館を作れ。それなくして何が一等国か」と堂々と主張したのである。高千穂のこの見識は高く評価されるべきものであろう。同時に、博物館活動の構成要素は標本収集、保存、調査研究、教育活動の 4 つが柱とされるが（倉田・矢島, 1997）、彼もまた同様の見解に至っていた点も見逃せない。

もう一つ筆者が特筆しておきたいのは、高千穂は一連の委員会の中で日本の若手動物学者の能力が非常に高い事を紹介し、彼らの才能を生かすポスト確保のためにも国立研究機関が必要と訴えている点だ。高千穂は東京帝大の石川千代松や佐々木忠次郎といった動物学・昆虫学関連の教授連と親交を持っていた。おそらくは大学研究室で彼らの教え子たちに接する機会があったのだろう。高千穂自身は大学で博物学を学ぶと言う希望を絶たれたが、日本を科学一等国にする夢を次代の学者たちに託したのである。

VIII. 昆虫男爵の晩年

自伝『鶯嶺仙話』は、昭和 11 年末を以て自らの履歴を語り終えた形となっている。しかし、高千穂はその後も 15 年近く生きた。筆者は伊藤修四郎博士（大阪府立大学名誉教授）の貴重な証言によって、これまで全く文章に残っていなかった高千穂宣麿の最晩年の様子を知る事ができた。

大東亜戦争当時、九州帝国大学農学部昆虫学教室の学生は、彦山生物学研究所で宿泊する行き帰りには必ず高千穂の自宅を訪問し挨拶する事になっていた。学生たちの高千穂邸訪問はあくまで挨拶であって家に上がって話し込む事はなかったが、高千穂は学生の訪問を大変喜んだ。

昭和 19 年 9 月 15 日、伊藤修四郎博士は戦時特例の就学期間半年短縮で九州帝大農学部を卒業された。卒業の翌日には副手嘱託となり、同年 11 月 30 日付で九州帝国大学附属彦山生物学研究所の事務嘱託（兼務）を拝命、これより伊藤博士は高千穂に会う機会を幾度となく持たれる事となった。

正妻の芳子夫人に先立たれていた宣麿は、高千穂家本邸とは別の家屋で、後妻的立場の女性と一緒に暮らしていた。英彦山の測候所の前にあった高千穂の住まいは豪邸とは言いがたい平屋で、使用人や女中はおらず質素な生活であった。伊藤博士は高千穂のこの自宅に招かれ食事を御馳走になる事もあった。高千穂は昆虫学を志す若者の来訪を大歓迎した。

高千穂の後妻的立場の女性と江崎悌三教授のシャルロツテ夫人は直接交流を持っていた。高千穂家と江崎家と一緒に写った写真も残っている（写真 4）。伊藤博士は江崎邸を訪れた際、シャルロツテ夫人から「高千穂男爵の奥様から、お菓子の作り方を教えて欲しいと頼まれています」と言われ、レシピを紙に書き取り英彦山に届けた経験があると言う。



写真 4 江崎悌三と高千穂宣麿、中央が江崎。向かって右が江崎シャルロツテ夫人。一番右が高千穂。昭和初期頃（鈴木瀬奈氏所蔵）。

高千穂は晩年英彦山の一角にある豊前坊高住神社の神官を務めていた。しかし、邸宅から遠く離れた豊前坊高住神社に向かうには、齢 80 に達した高千穂にはさすがにきつかったようだ。そこで高千穂は藤椅子に座り、その藤椅子の両側に太い竹を結び付け、前後より人に担がせて神社に行き、神主としての役目を果たした。豊前坊高住神社の近くに住んでいる現在 80 歳以上のお年寄りの中にも、高千穂宣麿がかごに乗って高住神社の方へ向かっていた姿を記憶し、「子供心に素敵に見えた」と回顧される方がいる。

大東亜戦争中、高千穂は月に一度か二度ぐらいの頻度で研究所をふらりと訪問した。彼は研究所に来訪すると、置かれていたスタッフ日誌や来訪者の執筆帳を丹念に読む事を大変楽しみとしていた。高千穂は自らが設立した研究所が昆虫学の発展に確実に貢献しており、また伊藤博士を始め若い昆虫学者が英彦山をフィールドとして育ちつつある事に、無上の満足感を得たのであろう。

IX. 最後に

筆者は帝国議会特別委員会の記録から「国立自然史博物館を作るべし」との高千穂の卓見を引っ張り出す事ができた。これは博物学者・高千穂宣麿の大いに再評価すべき点である。もっとも、国立自然史博物館構想については、高千穂はまがりなりにも貴族院議員との立場にありながら、その権限を行使して構想の実現化に最大限努力したとは言えない。無責任な放言に終わったのが実情である。この点は彼が良くも悪くも学者であって根回しを必要とする政治家の資質を持たなかったが故であり、高千穂の過大評価は慎みたいところである。

一方、筆者は保科 (2015) で『鶯嶺仙話』の貴族院議員時代の記述の嘘や隠し事を徹底的に暴いてしまった。当然、高千穂本人としては後世明るみに出して欲しくなかった事も多く含まれているに違いない。

筆者は高千穂宣麿の事績を史学的に調べあげると同時に、彦山生物学研究所の裏庭で捕れた未記載種をタカチホヒメコケムシと名付けた (Hoshina, 2015)。高千穂に対し後ろめたい事をしてきたからである。新種の昆虫に献名した事により、故高千穂宣麿先生からは多少御目こぼし頂けたであろうか。

末筆ながら、高千穂の後妻的立場にあった女性について言及しておこう。彼女は宣麿亡き後も長く彦山生物学研究所に出入りし、同所スタッフや昆虫採集に来た九大生たちを陰に陽に支え続けた。地元の英彦山では彼女に対する見方は一様ではない事情をよく承知しているが、少なくとも九大昆虫学教室に限っては彼女から受けた恩義を次世代に必ず伝えていくべしと筆者は切に願う。

X. 謝辞

本稿を執筆するにあたり、貴重資料を閲覧する機会をくださった英彦山神宮の高千穂秀敏宮司と、戦争中の談話をしてくださった伊藤修四郎大阪府立大学名誉教授、貴重な写真を提供してくださった江崎家親族の江崎悌一氏と鈴木瀬奈氏に厚く御礼申し上げる。さらに、種々御助言をいただいた九州大学農学部昆虫学教室の山口大輔氏と九州産業大学の須永敬准教授にも重ねて御礼申し上げます。

XI. 参考文献

保科英人, 2015. 博物学者高千穂宣麿先生小傳. 日本海地域と自然と環境, (22): 133-224.
 Hoshina, H., 2015. A new species of the genus *Euconnus* (Coleoptera: Staphylinidae: Scydmaeninae) from Northern Kyushu, Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 21: 195-197.
 霞会館諸家資料調査委員会編, 1985. 華族制度資料集. 吉川弘文館. 428 pp.
 小西正泰, 1990. 高千穂宣麿. 彦山の神宮ナチュラリスト. 科学朝日, 50 (9): 82-86.
 倉田公裕・矢島國雄, 1997. 新編博物館学. 東京堂出版. 408 pp.
 酒巻芳男, 1987. 華族制度の研究. 社団法人霞会館. 448 pp.
 須永敬, 2015. 明治初年の英彦山神社協会設立に関する一考察. 一壺岐の旧英彦山派修験との関係から. 九州産業大学国際文化学部紀要, (62): 13-25.
 衆議院・参議院編, 1990. 議会制度百年史. 貴族院・参議院議員名鑑. 衆議院・参議院. 481 pp.
 高千穂宣麿, 1946. 鶯嶺仙話. 九州帝国大学附属彦山生物学研究所. 130 pp.

XII. 資料

「男爵高千穂宣麿犯罪処分ノ件」

公文雑纂 明治二十二年 第十一卷 司法省一
 (国立公文書館整理番号 本館一2A-013-00 纂 00128100)

司法省刑乙第六二八号

華族犯罪処分之儀ニ付上奏

福岡懸豊前國田川郡彦山村大字

彦山華族

英彦山神社宮司男爵高千穂宣麿

右之者無免許ニテ銃獵ヲ為シ又ハ銃獵禁制ノ場所及ヒ人家接近ノ場所等ニ於テ銃獵ヲ為シタル事件ニ付福岡始審裁判所小倉支廳検事藤崎又三ヨリ別紙之通具申有之候ニ付相當ノ處分爲致度明治十六年三月三十一日ノ伺ニ對スル太政官御指令ニ依リ此段上奏候也

明治廿二年七月十五日

甲三五六 (朱筆)

司法大臣伯爵山田顕義 (朱印)

.....

検事一一四一號

福岡懸豊前國田川郡彦山村大字

彦山華族英彦山神社宮司

男爵高千穂宣麿

右之者明治二十一年四月中無免許ニテ銃獵ヲ為シ且明治二十二年中免許ヲ得タル後銃獵禁制ノ場所并ニ人家接近ノ場所等ニ於テ銃獵ヲ為シタル事件目下豫審中ニ有之右ハ罰金ノ刑ニ該ル可キモノニ有之候得共事實煩雜ニ涉リ被告人ノ出廷必要ニ付明治十六年本省丙第二號達ニ據リ此段其状及候条至急何分ノ御指揮相成度候也

明治廿二年六月廿六日

福岡懸輕罪裁判所小倉支廳

検事藤崎又三 (朱印)

司法大臣伯爵山田顕義殿

.....

男爵高千穂宣麿犯罪処分ノ件

上奏裁可ヲ経タリ

明治廿二年七月十七日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆

.....

司法大臣上奏男爵高千穂宣麿犯罪処分ノ件

右謹テ奏ス

明治二十二年七月十六日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆 (花押)

.....

司甲三五六 (朱筆)

明治廿二年七月十六日 内閣書記官 (朱印)

内閣總理大臣 (花押) 内閣書記官長 (朱印)

司法大臣上奏男爵高千穂宣麿犯罪処分ノ件

別紙司法大臣上奏英彦山神社宮司男爵高千穂宣麿犯罪処分ノ件ハ左ノ通指令可相成哉

指令案

男爵高千穂宣麿犯罪処分ノ件上奏裁可ヲ経タリ

明治二十二年七月十七日 (朱印)

宮内省へ通牒 (朱印)

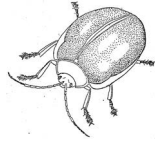
表 1 高千穂宣麿の履歴

和暦	西暦	年齢	事項
元治元年	1864年	0歳	清華家の一つである徳大寺家の次男として京都に生まれる。父は実則
明治3年	1870年	5歳	祖母や侍女らとともに、東京大名小路の邸宅へ移住する
明治5年	1872年	7歳	明治7年まで訓蒙学舎で学ぶ。特にドイツ語の習得に励む
明治7年	1874年	9歳	訓蒙学舎閉校により、同年秋に東京大塚窪町にあった芳野金陵の漢学塾に入塾する
明治10年	1877年	12歳	学習院に入学。同校では中学2級に編入される
明治12年	1878年	13歳	学習院を退学する
明治13年	1880年	15歳	麻布の学農社に入校する
明治14年	1881年	16歳	東京大学予備門入学のため、共立学校に転学する
明治16年	1883年	18歳	英彦山座主家の高千穂家を継ぎ、東京から移住する。すぐに昆虫採集を始める。叙従五位
明治17年	1884年	19歳	華族令制定。宣麿は男爵を授爵する
明治19年	1886年	21歳	高千穂家学校（私塾）落成
明治22年	1889年	24歳	6月、無免許銃猟等の法律違反で処分される。8月、養母の高千穂栄子死去
明治23年	1890年	25歳	上京し、帝大理工大学や農科大学を訪問。箕作佳吉や佐々木忠次郎ら動物・昆虫学者を訪ねる
同年			6月、男爵議員選挙に備えて、英彦山神社宮司辞職を試みるも果たせず。12月、叙正五位
明治24年	1891年	26歳	熊本の中川久知を訪問し、一緒に動植物採集をする
明治25年	1892年	27歳	動物学者の飯島魁と戸田原（現埼玉県戸田市）で狩猟をするが、飯島の技量には高評価を与えず
明治26年	1893年	28歳	英国公使館職員でチョウ収集家のワイルマンが英彦山に来て、ともに昆虫採集をする
明治27年	1894年	29歳	持病療養のため50日間の東京滞在を願い出る。しかし、上京後は浅間山でハードな昆虫採集を決行
同年			浅間山下山後に三浦半島の帝大臨海実験所を訪問する。英彦山不在中に日清開戦
明治28年	1895年	30歳	大本営のある広島へ出張の予定だったが、雪のために取りやめ
明治29年	1896年	31歳	標本商起業を画策する。標本商に出資することになっていた実業家の太田小三郎が英彦山に来訪
同年			結局、標本商開業を断念する。叙従四位
明治30年	1897年	32歳	英彦山神社の近くに実験所を設立することを考え始める。
同年			5月、この年7月実施の男爵議員選挙のため、英彦山神社宮司を辞職。しかし当選は叶わず
明治31年	1898年	33歳	遅くともこの年の早い時期には百葉箱にて気象観測開始。4月、実験所の土工事開始
同年			10月、英彦山神社宮司に復職
明治32年	1899年	34歳	1月、実験所の建物の棟上が完了。3月、昆虫学者の名和靖が九州へ来訪
明治33年	1900年	35歳	高千穂昆虫学実験所を発足させる。6月、桑名伊之吉来訪
同年			10月、北九州巡啓中の嘉仁皇太子奉迎のため小倉へ出張
明治34年	1901年	36歳	米国留学中の桑名伊之吉と昆虫学実験所の運営方針について書簡にて協議
明治35年	1902年	37歳	帰国した桑名伊之吉を迎え、実験所を九州昆虫学研究所と名を改める。叙正四位
明治36年	1903年	38歳	桑名伊之吉が農商務省農事試験場に引き抜かれるが、屈せず昆虫の飼育や採集を続ける
同年			4月、大阪で開かれた第五回内国勸業博覧会を見学する。12月、大分県鉄輪温泉で三週間の静養
明治37年	1904年	39歳	日露戦争勃発。「皇威宣揚敵国降伏ノ祈願祭」など戦争に係る神社業務をこなす
同年			7月、貴族院議員選挙が実施されるが、高千穂は議院入りに向けた活動を行わず
明治38年	1905年	40歳	祖父徳大寺公純の23回忌の法事参列のため上京
明治39年	1906年	41歳	明治三十七八年事件の功により勲六等瑞寶章を授けられる。植物学者牧野富太郎が英彦山に来訪
明治40年	1907年	42歳	1月、神経衰弱により神戸須磨で静養。4月、福岡県果物会の名誉会員となる
同年			8月、貴族院議員に選ばれる。英彦山神社宮司を辞任するとともに研究所を閉鎖、上京する
同年			12月、第24回帝国議会開会。政治会派・木曜会に所属する

和暦	西暦	年齢	事項
明治41年	1908年	43歳	上京後時期不明ながら渋谷に居を定める. 大正8年まで西ヶ原の農事試験場で害虫を研究する
明治43年	1910年	45歳	2月, 華族談話会記念会に出席する. 直後に所属会派の木曜会が大分裂
明治44年	1911年	46歳	貴族院伯子男爵議員任期満了. 高千穂は議員職を失う
同年			東京帝室博物館に囑託として出仕. 叙従三位
大正元年	1912年	47歳	韓国併合記念章を授与される. 遅くともこの年6月までには, 渋谷から田端へ居を移す
大正4年	1915年	50歳	大禮記念章を授与される. 田端から駒込へ居を移す
大正6年	1917年	52歳	2月, 貴族院の有力議員の田健治郎に議員推挙を依頼する.
同年			この年3月の東京昆虫学会創立に対し援助をする
同年			6月, 東京帝大で開かれた東京昆虫学会例会に出席する
大正7年	1918年	53歳	貴族院伯子男爵議員任期満了に伴う選挙で貴族院議員に復帰する
同年			12月, 第41回帝国議会開会. 政治会派・茶話会に所属する
大正8年	1919年	54歳	男爵議員会派の公正会創立. 高千穂は茶話会から公正会に移る
同年			叙勲五等授瑞寶章を授与される
大正9年	1920年	55歳	大正四年及至九年事件の功により銀杯一組を賜る
大正10年	1921年	56歳	叙勲四等授瑞寶章. また, 国勢調査記念章を授与される
大正11年	1922年	57歳	公正会から親和会に移る
大正12年	1923年	58歳	親和会は解散し, 高千穂は他の同会所属男爵議員と共に研究会に移る
大正13年	1924年	59歳	東京帝室博物館の臨時天産部列品整理掛の整理顧問となる. 叙正三位
大正14年	1925年	60歳	4月, 高千穂ら15名の男爵議員は研究会を脱会する
同年			7月, 貴族院議員の任期満了. 高千穂は議員再選を望むも叶わず. これで議員生活を終える
大正15年	1926年	61歳	遅くともこの年の後半には東京から福岡に引き揚げる
同年			英彦山神社で施行された大正天皇平癒祈願祭に列席する
昭和3年	1928年	63歳	九州帝国大学農学部で日本動物学会大会が開かれ, 会議議長に選ばれる
同年			福岡県の測候所の囑託となり, 気象観測に従事する. 大禮記念章を授与される
昭和4年	1929年	64歳	英彦山に初めて電燈がつく. 夜間の灯火に集まる蛾の採集に没頭する
昭和6年	1931年	66歳	帝都復興記念章を授与される
昭和7年	1932年	67歳	植物学者の牧野富太郎が植物採集のため英彦山に來訪. 自らの邸宅で記念撮影をする
昭和8年	1933年	68歳	70歳の高齢に達したことに對し, 御紋付銀盃一組と酒肴料を下賜される
同年			地質学者の脇水鐵五郎とともに耶麻溪彦山火山の地質調査を行う
昭和10年	1935年	70歳	膨大な標本と共に私有地約一万坪を九州帝国大学に寄贈する
昭和11年	1936年	71歳	寄付された私有地に九州帝大附属彦山生物学研究所が完成
同年			高千穂は研究所の一員として研究を続行する. 叙従二位
昭和15年	1940年	75歳	紀元二千六百年祝典記念章を授与される
昭和16年	1941年	76歳	九州帝国大学農学部昆虫学教室を訪問する
昭和18年	1943年	78歳	80歳の長寿に達したことに對し, 御紋附木盃一組と酒肴料を下賜される
同年			九州帝大の江崎悌三教授が高千穂を訪問. この2人の会談が自伝『鶯嶺仙話』出版の切っ掛けとなる
昭和21年	1946年	81歳	自伝『鶯嶺仙話』が九州帝国大学附属彦山生物学研究所から出版される
昭和22年	1947年	82歳	日本国憲法施行により華族制度廃止
昭和24年	1949年	84歳	日本昆虫学会の名誉会員となる
昭和25年	1950年	85歳	12月23日86歳で死去

※年齢は, その年の元旦時における満年齢. 旧暦から新暦への変換はしていない.

たんぽう



兵庫県産テツイロヒメカミキリの追加記録

池田 大

テツイロヒメカミキリ *Ceresium sinicum* White, 1855 はカミキリムシ科ヒメカミキリ属に属する南方系のカミキリムシである。分布は本州（関東以西）、九州、平戸島、甌島、黒島の他、国外では台湾、中国、海南島、タイで知られている（日本鞘翅目学会, 1984）。また兵庫県内における本種の記録は宝塚市安倉北4安倉上池、伊丹市北本町、西宮市一里山町、明石市大久保町西島の4例のみである（三木, 2015）。今回、筆者は記録がない2産地において本種を採集しているのので、追加記録として報告する。



1ex., 26. IV. 2009, 神戸市西区学園東町, 筆者採集保管
1ex., 28. VI. 2009, 伊丹市中村井ノ下 猪名川河川敷左岸, 同上(写真)

神戸市で採集された個体は、筆者が公園内でコデマリ *Spiraea cantoniensis* Lour. の花に訪花した昆虫類をビーティングで採集している際、得られたものである。コデマリは公園に植樹されたものであり、道沿いの片側約100m 区間に植えられている。また、この公園は二次林の山と住宅地に面した場所に作られたもので、公園のある山の背後には県指定天然記念物である「太山寺の原生林」が広がっている。

一方、伊丹市で採集された個体は、猪名川河川敷に生えたネズミモチ *Ligustrum japonicum* Thunb. の花を

スィーピングした際に得られたものである。大阪国際空港（伊丹空港）と道路を挟んで隣接した地点で採集された。この地域は、シロツメクサ *Trifolium repens* L. をホストにするシルビアシジミ *Zizina otis* (Fabricius, 1787) の産地として有名な場所である。

三木 (2015) によると、本種は訪花性が知られており、ネズミモチ、アカメガシワ *Mallotus japonicum* (Thumb. Ex L. f.), ボダイジュ *Tilia miqueliana* Maxim 等の花をスィーピングすると採集できるらしい。今回記録する個体は、いずれも花から得られていることから、花に集まっていた可能性が高い。しかし、いずれの産地もあまり数を得られていないことから、やはり個体数は多くないようである。

末筆ながら本発表を勧めていただいた三木進氏に御礼申し上げる。

○参考文献

- 日本鞘翅目学会編, 1984. 日本産カミキリ大図鑑, 265pp. 講談社, 東京.
- 牧野富太郎, 2000. 新訂 牧野新日本植物図鑑. 北隆館, 東京.
- 三木進, 2015. 兵庫県産テツイロヒメカミキリを追う—初記録から明石市での採集まで—. きべりはむし, 37 (2) : 24-27.
- 白水隆, 2006. 日本産蝶類標準図鑑, 138pp. 学習研究社, 東京.

(Hiroshi IKEDA 愛媛大学農学部)

播磨地方西部におけるシンジュキノカワガの記録

池田 大・阪上 洗多

シンジュキノカワガ *Eligma narcissu* (Cramer, 1775) はコブガ科シンジュキノカワガ亜科に属し、大型美麗種であることから収集家に人気の高い蛾である。本種はこれまで、中国原産で低気圧や前線などの自然現象により日本に飛来する「偶産蛾」であるとされてきた(宮田, 1986)。しかし最近では、寄主植物であるシンジュ(ニワウルシ) *Ailanthus altissima* Swingle の移入にともなって日本に二次的に侵入したと推定されている(岸田, 2011)。国内では北海道、本州、四国、九州、対馬(岸田, 2011)、淡路島(高島, 2001)、隠岐(大浜, 2008)に記録がある。しかし、いずれの産地も偶発的な記録であることから、定着していない可能性が高い。これまで兵庫県内では西宮市甲子園、高砂市、和田山町(現・朝来市和田山町)久世田、関宮町(現・養父市関宮)鉢伏高原、柏原町(現・丹波市)柏原、南淡町(現・南あわじ市)阿万上町での記録(高島, 2001)がある他、最近では神戸市須磨区(小西, 2009)および伊丹市昆陽池町(安達, 2010)で記録がある。筆者らはこれまで記録のない播磨地方西部において本種を採集しているので報告する。



1 ex., 19-20. XI. 2011, 佐用郡佐用町船越(ライトトラップ), 池田採集保管(写真)

1 ex., 9. XI. 2015, 宍粟市音水溪谷(ライトトラップ), 阪上採集保管

佐用町の個体は、佐用町昆虫館のむしむし広場の上にある草原で行ったライトトラップに飛来した新鮮な個体を採集した(ライトトラップは夕方から翌明け方まで設営)。採集当日は異常に気温の高い日であり、他の蛾類も多く飛来していた。

宍粟市の個体は、溪谷の林内で行ったライトトラップに飛来した新鮮な個体を採集した。今回記録する採集地点では、いずれも筆者の目の届く範囲ではシンジュは見られず、どのような経路で飛来したのか不明である。しかし新鮮な個体であったことから、どちらも採集地点の近くで発生した可能性が高い。

○参考文献

- 安達誠文, 2010. 伊丹市昆陽池町で発生したシンジュキノカワガ. きべりはむし, 32 (2) : 7-8
 岸田泰則, 2011. 日本産蛾類標準図鑑 II, 189pp. 学習研究社, 東京.
 小西堯生, 2009. 神戸市須磨区でシンジュキノカワガを採集. きべりはむし, 32 (1) : 63
 牧野富太郎, 2000. 新訂 牧野新日本植物図鑑. 北隆館, 東京.
 宮田彬, 1986. 日本の昆虫 4 シンジュキノカワガ, 文一総合出版.
 大浜祥司, 2008. 真冬にシンジュキノカワガを隠岐で採集. すかしば, (56) : 18
 高島昭, 2001. 兵庫県のキノカワガ亜科・リングア亜科・サラサリングア亜科(兵庫県産蛾類分布資料・23). きべりはむし, 29 (2) : 40-49

(Hiroshi IKEDA 愛媛大学農学部)

(Kôta SAKAGAMI 神戸大学農学部)

短報の訂正と補遺

きべりはむし編集委員

前号に掲載した阪上 洗多さんの短報『兵庫県下で記録の少ないヤガ科3種の三田市における採集記録』のチビウスキヨトウの解説の「兵庫県内では南淡町での記録のみが知られていた」との記述に対し、こどもとむしの会正会員の谷田昌也さんから大貝(2013)に上郡町高田台での記録が報告されているとのご指摘をいただきました。この場で記録情報の追加と訂正をいたします。

○参考文献

- 大貝秀雄, 2013. 兵庫県で採集した注目すべき蛾2種. 月刊むし, 509: 48

兵庫県市川町でシンジュキノカワガを採集

久保 弘幸

筆者は2015年10月23日に、兵庫県市川町屋形にある、播但連絡自動車の市川パーキングエリアにおいてシンジュキノカワガ (*Eligma narcissus*, 写真) 1頭を採集したので報告する。



シンジュキノカワガは、日本産蛾類標準図鑑Ⅱ (岸田泰則編, 2011) によれば、コブガ科に「一応」含まれているが、ヤガ科に含まれるのか、独立の科とするのが不確定とされている。

ニワウルシ (ニガキ科) の移入に伴って、日本に侵入したとされる種であるが、偶産種とされることも多い。これまでの採集例は、北海道から九州にまで見られ、兵庫県下では、2006・2007年に、伊丹市の昆陽池にある昆虫館周辺で発生が確認されている (安達, 2010)。

しかし、伊丹市では2008年以降は発生が見られなかったということで、兵庫県下では安定的に発生が継続する種ではないと思われる。

今回採集した個体は♂で、同日午前中、上り線と下り線のパーキングエリアをつなぐ地下トンネル内で飛行中の個体を採集したものである。この場所では、他に同種の個体は見られなかった。

翅も鱗粉もまったく損傷を受けていない、きわめて新鮮な個体であり、羽化後に長距離を移動したとは考えられないことから、ごく近い場所が発生地であったと思われる。

○参考文献

安達誠文, 2010. 伊丹市昆陽池町で発生したシンジュキノカワガ. きべりはむし, 32(2): 7-8.

岸田泰則編, 2011. 『日本産蛾類標準図鑑』 学研

(Hiroyuki KUBO 神戸大学大学院 昆虫多様性生態学研究室)

兵庫県北部の洞穴におけるプライヤキリバの記録

永井 英司

プライヤキリバ *Goniocraspidum pryeri* は、幼虫期にブナ科樹木の葉を摂食し、三重県では5月上旬頃に羽化し、その後6月下旬頃までに洞穴に入り、翌春まで休眠し、3月下旬頃に洞穴を出て産卵するという生活史を持つ (佐野明, 2005)。

筆者は、兵庫県北部の8箇所の人工洞穴において2015年度冬季のコウモリ調査を行い、この際、5箇所の洞穴でプライヤキリバを見かけているので記録として書き留めておく。

○プライヤキリバの見られた洞穴

- 20. XI. 2015 豊岡市立石 神美鉱山 東洞 2頭 西洞 2頭
- 13. XII. 2015 豊岡市竹野町東大谷 竹野鉱山 奥の小洞 4頭
- 29. XII. 2015 豊岡市出石町奥山 立町鉱山 3頭
- 24. I. 2016 豊岡市但東町小谷 小谷坑道 3頭
- 11. II. 2016 豊岡市出石町奥山 茗荷谷坑道 3頭

○プライヤキリバの見られなかった洞穴

- 23. XII. 2015 朝来市山東町金浦 旧夜久野トンネル
- 10. I. 2016 香美町香住区沖浦 沖浦鉱山
- 8. II. 2016 香美町香住区沖浦 沖浦鉱山
- 31. I. 2016 朝来市上八代 坑道



プライヤキリバ 豊岡市但東町小谷 小谷坑道 2016. 1. 24

○参考文献

佐野明, 2005. プライヤキリバ (チョウ目ヤガ科) 休眠個体群に対する洞穴性コウモリの捕食圧. 日本応用動物昆虫学会大会講演要旨 (49): 137.

(Eiji NAGAI 豊岡市但東町)

きべりはむし 投稿案内

1. 内容

「きべりはむし」は、老若男女を問わず、昆虫に関心のある読者を対象とし、兵庫県ならびに地域の昆虫相、昆虫の採集・観察・飼育の記録や方法、昆虫学の解説、昆虫を題材とした教育や地域づくりに関する記録や方法などの、未発表の報文を掲載します。

2. 編集・発行

「きべりはむし」は、兵庫昆虫同好会の機関誌ではなく、独立した雑誌とし、「きべりはむし編集委員会」が編集し、「兵庫昆虫同好会」と「NPO 法人こどもとむしの会」が共同で発行します。巻号は、兵庫昆虫同好会発行の「きべりはむし」の継続とします。

3. 著作権

掲載報文の著作権は、「NPO 法人こどもとむしの会」に帰属するものとします。

4. 体裁・媒体

本誌の判型は A4 判とし、横書き 2 段組とします。本誌は、Adobe PDF 形式による電子ファイルとして出版し、データは「NPO 法人こどもとむしの会」の web サイト (<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>) からダウンロードできるものとします。また、紙媒体による印刷物を別途製作し、希望者に時価で頒布します。

5. 投稿者

本誌への投稿者には特に制限を設けません。

6. 原稿提出時のお願い

原稿は、原則としてデジタルデータでおねがいします。以下を参考に、文字部分と、図や表の部分は別々のファイルとして提出ください。従来通りの紙原稿でも受付しますので、ふるって投稿ください。

1) 文字部分

図表以外の部分と図表のキャプションは、1つのファイルとして、リッチテキスト形式 (.rtf) で保存してください。ゴシック体、イタリック体などの書体も指定ください。原稿は、一般に、表題、著者、要旨、本文、謝辞、文献で構成します。本文が数ページに及ぶ報文の場合は、本文の前に 400 字以内程度の要旨をつけることも可能です。文献、ホームページの引用は、一般的な学術雑誌の例にならってください。

2) 図表

それぞれの図表ごとに別々のファイルとして作成し、.jpeg, .psd, .pdf などの形式で保存してください。また画像データにつきましては可能な限り、高解像度での保存をお願いします。図表の幅は、1 段または 2 段分となります。原則として、単純な拡大縮小以外は行わず、そのまま印刷に供しますので、図表中の文字サイズは、刷り上がりの方の大きさを考えて適切に設定してください。また、写真のトリミングは、適切にトリミングしたものを提出してください。著者以外が作成した地図や、人物が写っている写真を用いる場合は、事前に、著作権者や本人の承諾を得ておいてください。

3) レイアウトの案

可能な場合は、原稿提出時に、レイアウトの大まかな案をつくっていただき、.pdf などの形式でいただけると助かります。

7. 原稿送付先

きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net
〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学農学部昆虫科学研究室
NPO 法人こどもとむしの会 事務局

8. 原稿の修正, 採否等

編集委員会は、内容や文言の修正を著者に求めることがあります。また趣旨に合わない原稿は掲載をお断りすることがあります。

9. 投稿者, 原稿内容に関する問い合わせ

個人情報保護の観点から、投稿者個人の連絡先は明記しておりません。お問い合わせ等につきましてはきべりはむし編集委員会メールアドレス kiberihamushi@konchukan.net, もしくは
〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学農学部昆虫科学研究室
NPO 法人こどもとむしの会 事務局 までお願いいたします。

10. ISSN について

きべりはむしは第 32 巻第 2 号からオンラインジャーナルの PDF 版が正式版となりました。これに伴い、ISSN(国際標準逐次刊行物番号 :International Standard Serial Number) を取得しました。ISSN とは、雑誌などの逐次刊行物の情報を識別するための国際的なコード番号です。

・参考 web サイト

ISSN 日本センター : <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn.html>

編集後記

- 投稿していただきました皆様のおかげで、今号もかなり充実した内容となりました。この場を借りて感謝いたします。
- 今号の注目は名古屋市の中学生、石川進一朗さんの報文です。こちらでかなり手を入れたと思われるかもしれませんが、ほぼ投稿原稿そのままです。文章はもちろんのこと、全体の構成もしっかりしており、初めて読んだときは本当に感心しました。
- 編集作業が落ち着いてきた2016年3月18日、三田市の自宅マンション入り口でマツキリガを見つけました。普通種のようなのですが、翅の斑紋が美しいキリガです。むし社から『日本の冬夜蛾^{キリガ}』が出版され、編集子の周辺でもキリガ好きがじわじわ増えているようです。
- 次号第39巻第1号は2016年12月末の発行の予定です。皆様の投稿お待ちしております。

(編集長 中峰 空)

きべりはむし 第38巻 第2号

2016年3月25日 発行

編集 きべりはむし編集委員会
発行 兵庫昆虫同好会・NPO 法人こどもとむしの会
事務局 きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学農学部昆虫科学研究室
NPO 法人こどもとむしの会 事務局気付

きべりはむし web サイト：<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>

きべりはむし 第38巻 第2号 目次

【報 文】

オオカマキリの飼育時における自己捕食行動	石川進一朗	1-3
兵庫県におけるサツマゴキブリの記録と堅果食	大塩拓美	4-5
セミの初鳴き, 鳴きおさめの日 — みんなで調べよう 2015 —	近藤伸一	6-16
みんなでつなぐ初蝶リレー 2015	久保弘幸	17-20
神戸市の注目すべき双翅目および膜翅目の記録	吉田浩史・八木 剛	21-25
佐用町からの膜翅目の採集記録	吉田浩史・渡辺恭平	26-29
兵庫県のゴモクムシ類 (2)	森 正人	30-37
若人に託した科学一等國の夢～昆虫男爵高千穂宣麿の生涯	保科英人	38-47

【短 報】

兵庫県産テツイロヒメカミキリの追加記録	池田 大	48
播磨地方西部におけるシンジュキノカワガの記録	池田 大・阪上洸多	49
短報の訂正と補遺	きべりはむし編集委員	49
兵庫県市川町でシンジュキノカワガを採集	久保弘幸	50
兵庫県北部の洞穴におけるプライヤキリバの記録	永井英司	50

投稿案内		51-52
------	--	-------

編集後記		53
------	--	----